

市原市文化財センター年報

平成 11 年度

財団法人 市原市文化財センター

序

平成11年度は、公共・民間を合わせて、40事業を実施しました。事業内容は、確認調査14、確認・本調査5、本調査4、整理7、整理・報告書刊行3、調査から整理及び整理報告6となります。

今年度の発掘調査では、縄文時代から近世に至る多種多様な遺構や遺物を検出し、市内の歴史を紐解く上で、重要な成果を上げることができました。調査地域についてみると、姉崎地区や海上圍場整備に関わる地域のような、いわゆる臨海部や低地における調査事例が多く、これは、近年の傾向であるといえます。その中で、姉崎山新遺跡からは、東京湾岸の砂堆列の切れ間に形成された、縄文時代晩期の土器溜まりが発見され、今後姉崎地区の縄文時代を考える上で注目される成果といえます。

整理事業では、西広貝塚・坊作遺跡・台遺跡などの大規模遺跡の整理に加え、公共、民間を合わせて7冊の報告書を刊行し、そのうち新堀小鳥向遺跡では、中世新堀郷における鋳物師の存在を伺わせる資料が出土し、今後の成果が期待されるところです。

また、今年度実施された事業のうち5遺跡については、平成12年3月12日に実施しました、第15回市原市文化財センター遺跡発表会において調査成果として公表しました。また、発表会特別講演として国立歴史民俗博物館教授の平川南先生に『日本古代の文字世界 ―王賜銘鉄剣から墨書土器まで―』と題して御講演をいただきました。講演内容は、市内出土の文字資料を中心として、難解になりがちな内容を、日本各地の資料を引用する事により、視界の広い講演内容とされ、市内外からお集まりいただいた多くの皆様から、大変好評を得ることができました。

長引く経済不況の中、埋蔵文化財を取り巻く環境も厳しさを増していますが、今後も、発掘調査・整理作業を通じて得られた成果を、より多くの方々に提供する機会を設け、親しみを持って埋蔵文化財に接していただけるよう、一層の努力していくつもりであります。

最後となりましたが、日頃よりご指導・ご協力を賜りました千葉県教育委員会、市原市教育委員会ならびに関係各位に厚く御礼申し上げます。

平成14年3月30日

財団法人 市原市文化財センター
理事長 磯田正嗣

目 次

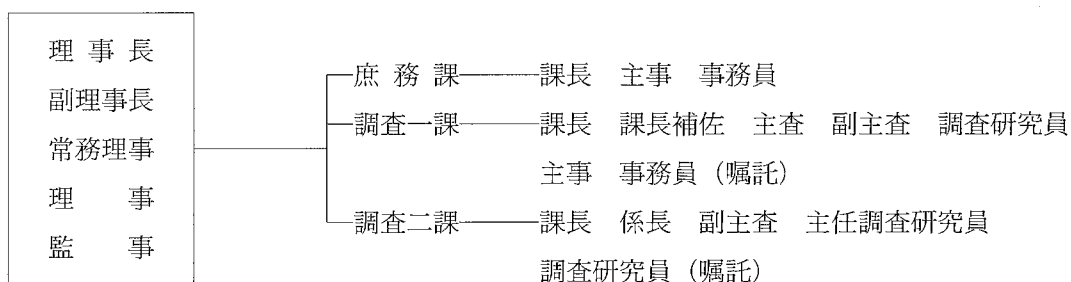
序	
I 機 構	1
II 平成11年度の事業概要	2
III 平成11年度の調査概要	6
1. 不入斗片又木遺跡	8
2. 稻荷台遺跡	9
3. 喜多仲台遺跡	10
4. 潤井戸潤ヶ台遺跡	11
5. 新堀小鳥向遺跡	12
6. 廿五里遺跡	14
7. 今富遺跡A地点	16
8. 十五沢坊ヶ谷遺跡B地点	18
9. 十五沢坊ヶ谷遺跡D地点	20
10. 宮原遺跡C地点	22
11. 宮原遺跡D地点	23
12. 花やしき塚供養塚	24
13. 高坂棒ヶ谷遺跡(第2次)(第3次)	26
14. 草刈遺跡	29
15. 白塚台遺跡	30
16. 加茂遺跡(D地点)	31
17. 姉崎東原遺跡C地点	32
18. 福増遺跡群大清水遺跡(確認調査)	33
19. 福増遺跡群大清水遺跡(本調査)	34
20. 八幡御墓堂遺跡(本調査)	36
21. 八幡御墓堂遺跡(確認調査)	38
22. 市原条里制遺跡菊間徳万地区B	39
23. 姉崎市妙経寺遺跡(第5次)	40
24. 南岩崎遺跡	42
25. 姉崎山新遺跡(第2地点)	44
26. 押沼遺跡	50
27. 葉木遺跡	51
28. 能満城跡遺跡	52
29. 椎津堰谷遺跡	54
30. 椎津中台遺跡	55
IV 遺跡管理システムについて	56
V 平成11年度受贈図書一覧	57
付編1. 市原市十五沢坊ヶ谷遺跡D地区における砂層の粒度分析 上本進二	84
付編2. 潤井戸潤ヶ台遺跡発掘調査報告	89
付編3. 葉木遺跡発掘調査報告	91

I 機 構

財団法人市原市文化財センターの機構は、役員および職員から構成されている。役員は、寄付行為の定めにより、理事長、副理事長、理事、監事をもって構成され、平成11年度の職員は、事務職員4名（うち都市公社出向職員1名）、技術職員16名（うち事務従事職員15名）であり、その組織および氏名は以下のとおりである。

1. 組 織

役 員



2. 役 員

職 名	役 職 名	氏 名
理事長	生涯学習部副参事	小茶文夫
副理事長	生涯学習部部長	金子有藏
常務理事	専 任	竹内 豊
理 事	市原市教育委員会教育長	大野 皎
理 事	國學院大学教授	加藤晋平
理 事	和洋女子大学名誉教授	寺村光晴

職 名	役 職 名	氏 名
理 事	郷 土 史 家	木村千春
理 事	企 画 部 長	鶴澤綱夫
理 事	総 務 部 長	大町裕之
理 事	都 市 計 画 部 長	小倉敏男
監 事	出 納 室 長	永嶋高明
監 事	教育総務部総務課長	武内邦夫

3. 職 員

所 属	職 名	氏 名
庶務課	課 長	宮崎澄夫
	主 事	大鐘光江
	主 事	高浦貞子
	事 務 員 (嘱 託)	常澄智子
調査一課	課 長	栗田則久
	課 長 補 佐	蜂屋孝之
	主 査	田中清美
	副 主 査	近藤 敏
	副 主 査	高橋康男
	副 主 査	田所 真
	調 査 研 究 員	小川浩一

所 属	職 名	氏 名
調査一課	調 査 研 究 員	北見一弘
	調 査 研 究 員	鶴岡英一
	調 査 研 究 員	小橋健司
	調 査 研 究 員	牧野光隆
	主 事	阿部茂之
	事 務 員 (嘱 託)	辻 葉子
調査二課	課 長	宮本敬一
	係 長	小出紳夫
	副 主 査	浅利幸一
	主 任 調 査 研 究 員	田中茂良
	調 査 研 究 員 (嘱 託)	半田堅三

II 平成11年度事業概要

1. 理事会の開催

第1回理事会 平成11年5月28日

議案第1号 平成10事業年度財団法人市原市文化財センター事業報告について

議案第2号 平成10事業年度財団法人市原市文化財センター収入支出決算の承認について

第2回理事会 平成11年12月22日

議案第1号 財団法人市原市文化財センター職員給与規程の一部を改正する規程について

議案第2号 平成11事業年度財団法人市原市文化財センター事業計画変更について

議案第3号 平成11事業年度財団法人市原市文化財センター補正予算（第1号）について

第3回理事会 平成12年3月28日

議案第1号 財団法人市原市文化財センター組織規程の一部を改正する規程について

議案第2号 財団法人市原市文化財センター処務規程の一部を改正する規程について

議案第3号 財団法人市原市文化財センター職員給与規程の一部を改正する規程について

議案第4号 財団法人市原市文化財センター嘱託職員就業規則の一部を改正する規則について

議案第5号 財団法人市原市文化財センター職員の育児休業及び育児短時間勤務に関する規則の一部を改正する規則について

議案第6号 平成11事業年度財団法人市原市文化財センター事業計画について

議案第7号 平成11事業年度財団法人市原市文化財センター補正予算（第2号）について

議案第8号 平成12事業年度財団法人市原市文化財センター事業計画について

議案第9号 平成12事業年度財団法人市原市文化財センター収入支出予算について

議案第10号 理事長の決定について

2. 会計監査

平成11事業年度の会計監査は、平成12年5月17日財団法人市原市文化財センター事務室において、永嶋高明・小出完爾監事により実施された。

3. 平成11年度受託事業

番号	事業名	委託者名	遺跡名	種別	事業内容	面積	契約年月日	受託金額(円)
1	八幡宿駅東口土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査		八幡御墓堂遺跡		確認調査 本調査	1,655㎡ 1,050㎡	平成11年7月28日	19,887,000
2	姉崎駅前土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査委託		姉崎妙経寺遺跡		本調査	300㎡	平成11年9月22日	4,691,400
3	都市計画道路八幡椎津線建設工事に伴う埋蔵文化財調査		椎津堰谷遺跡 椎津中台遺跡		確認調査 本調査	2,570㎡ 500㎡	平成12年1月5日 平成12年2月24日	3,370,500 3,654,000
4	都市計画道路八幡椎津線建設工事に伴う埋蔵文化財調査		白塚台遺跡		確認調査	5,100㎡	平成11年5月28日	5,526,150
5	都市計画道路八幡椎津線建設工事に伴う埋蔵文化財調査		白塚台遺跡		確認調査 本調査	4,170㎡ 730㎡	平成11年9月21日	10,611,300
6	都市計画道路八幡椎津線建設工事に伴う埋蔵文化財調査		姉崎山新遺跡		確認調査	7,040㎡	平成11年11月4日	7,854,000
7	都市計画道路八幡椎津線建設工事に伴う埋蔵文化財調査		姉崎山新遺跡		本調査	3,400㎡	平成12年1月14日	24,200,400
8	前川改修事業に伴う埋蔵文化財調査		廿五里遺跡		確認調査	900㎡	平成11年6月1日	2,497,950
9	若宮都市下水路建設工事に伴う埋蔵文化財調査		市原条里制遺跡		確認調査 本調査	1,800㎡ 1,050㎡	平成11年8月3日	7,497,000

番号	事業名	委託者名	遺跡名	種別	事業内容	面積	契約年月日	受託金額(円)
10	市道13号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査		高坂棒ヶ谷遺跡		確認調査 確認調査	230㎡ 370㎡	平成11年5月31日 平成11年9月16日	2,583,000 2,436,000
11	市道13号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査		南岩崎遺跡		確認調査	7,500㎡	平成11年10月22日	7,497,000
12	文化の森整備事業に伴う埋蔵文化財調査		福増遺跡群		確認調査 本調査	8,000㎡ 1,275㎡	平成11年8月16日 平成12年2月18日	5,584,950 3,399,900
13	海上地区県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財調査(農林分)		坊ヶ谷遺跡 今富遺跡 坊ヶ谷遺跡 今富遺跡 宮原遺跡ほか		本調査 確認調査 本調査 確認調査	640㎡ 17,600㎡ 400㎡ 40,800㎡	平成11年7月1日 平成11年11月18日	11,550,000 13,950,000
14	海上地区遺跡発掘調査(文化庁分)		宮原遺跡		確認調査	30,000㎡	平成11年10月22日	4,500,000
15	市内遺跡発掘調査事業		稲荷台遺跡 喜多仲台遺跡		確認調査 整理 確認調査 整理	719㎡ 3,400㎡	平成11年4月1日 平成11年8月26日	4,950,900 2,519,250
16	浄水場建設に伴う埋蔵文化財調査		新井花和田遺跡		整理		平成11年6月29日	4,413,150
17	市道35号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査		村上川堀遺跡		整理報告		平成11年7月22日	5,599,650
18	都市農業センター建設に伴う埋蔵文化財調査		浅井小向 釜神遺跡		整理		平成11年4月5日	14,186,550
19	総合防災センター建設に伴う埋蔵文化財調査		山田橋 大山台遺跡		整理		平成10年4月1日	29,999,550
20	不特定遺跡発掘調査事業		椎津茶ノ木遺跡 畑木小谷遺跡		整理報告		平成11年9月6日	3,253,350
21	国分寺台地区文化財整理事業		国分寺台遺跡群 (西広貝塚他)		整理		平成11年4月1日	59,999,100
22	国分寺台遺跡群発掘調査整理報告事業		国分寺台遺跡群 (坊作遺跡) 国分寺台遺跡群 (台遺跡)		整理 整理		平成11年4月1日 平成11年11月1日	18,975,500 8,943,750
23	社会福祉施設建設に伴う埋蔵文化財調査		新堀小鳥向遺跡		本調査 整理報告	230㎡	平成11年3月26日	4,512,900
24	第一種電気通信無線基地局建設に伴う埋蔵文化財調査		不入斗遺跡群 (片又木遺跡)		本調査 整理報告	630㎡	平成10年11月30日	6,805,050
25	無線基地局建設工事に伴う埋蔵文化財調査		潤井戸潤ヶ広遺跡		確認調査	363㎡	平成11年5月6日	1,491,000
26	宅地開発に伴う埋蔵文化財調査		北野原遺跡		整理報告		平成11年1月13日	2,702,700
27	第一種電気通信無線基地局建設に伴う埋蔵文化財調査		草刈遺跡		確認・本調査 整理報告	36㎡	平成11年5月17日	1,770,300
28	身体障害者寮施設建設に伴う埋蔵文化財調査		畑木小谷遺跡		整理		平成11年6月1日	999,600
29	宅地開発に伴う埋蔵文化財調査		加茂遺跡		確認調査	7,220㎡	平成11年6月30日	3,713,850
30	宅地造成に伴う埋蔵文化財調査		姉崎東原遺跡		本調査 整理報告	130㎡	平成11年7月23日	2,280,600
31	第一種電気通信無線基地局建設に伴う埋蔵文化財調査		押沼遺跡		確認調査	213㎡	平成11年11月24日	705,600
32	第一種電気通信無線基地局建設に伴う埋蔵文化財調査		葉木遺跡		確認調査	180㎡	平成11年12月22日	1,746,150
33	市道241号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査		能満城跡		確認調査	4,200㎡	平成11年12月24日	4,197,900
34	遺跡分布地図基礎データ作成委託						平成12年1月14日	692,000
合計								310,248,850

4. 研究事業

発掘事業、整理事業に係わる日常の研究活動、職員の資質向上を目指す研修を行っている。

(1) 外部主催研修会等

① 全国埋蔵文化財法人連絡協議会関係

- ア. 総 会 平成11年6月10・11日（山形県）
- イ. 研 修 会 平成11年10月7・8日（滋賀県）
- ウ. 関東ブロック法人連絡協議会 平成11年6月14・15日（神奈川県）
平成11年10月26・27日（千葉県）
- エ. コンピューター等研究委員会関東ブロック地区委員会 平成11年6月4日（東京都）
平成11年10月20・21日（栃木県）

② 千葉県文化財法人連絡協議会関係

- ア. 総 会 平成11年6月29日（千葉市中央区）
- イ. 役 員 会 平成12年3月10日（財団法人千葉県文化財センター）
- ウ. 部 会 事務部会 2回 技術部会 6回
- エ. 研 修 会 共同研修会 平成11年10月15日（千葉県立中央博物館）

(2) 内部研修会

- ① 補助員研修会 平成11年7月9日
（千葉県立美術館・千葉市立加曽利貝塚博物館）
- ② 職員研修会 平成12年2月3日
（千葉県立安房博物館・君津市三直貝塚他）

5. 普及事業

(1) 調査報告書『市原市北野原遺跡』の印刷

(2) 千葉県文化財法人連絡協議会遺跡調査研究発表会

平成12年1月23日（日） 於 千葉市文化センター

(3) 遺跡発表会

平成12年3月12日（日） 於 サンプラザ市原

調査遺跡の成果報告

- ①片又木遺跡
- ②新堀小鳥向遺跡
- ③稻荷台遺跡
- ④八幡御墓堂遺跡
- ⑤北野原遺跡

特別講演

『日本古代の文字世界「王賜」銘鉄剣から墨書土器まで』

国立歴史民俗博物館 平 川 南

(4) 広報誌『私たちの文化財 No.23』作成

(5) 『市原市文化財センター年報(平成8年度)』『市原市文化財センター年報(平成9年度)』印刷

(6) 報告書等の頒布

6. 平成11年度決算報告

平成11年4月1日から平成12年3月31日まで

収入の部

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
基本財産運用収入	10,000	10,822	△ 822	
事 業 収 入	311,700,000	311,742,050	△ 42,050	
雑 収 入	271,000	281,102	△ 10,102	
特定預金取崩収入	828,000	828,000	0	
当期収入合計	311,981,000	312,033,974	△ 52,974	
前期繰越収支差額	16,164,000	16,164,480	△ 480	
収 入 合 計	328,145,000	328,198,454	△ 53,454	

支出の部

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
受 託 事 業 費	269,094,000	268,854,187	239,813	
研究普及事業費	8,956,000	8,867,280	88,720	
一 般 管 理 費	19,716,000	19,258,737	457,263	
消 費 税 支 出	9,237,000	9,048,500	188,500	
固定資産取得支出	500,000	495,390	4,610	
特定預金支出	835,000	835,000	0	
当期支出合計	309,344,000	307,395,033	1,948,967	
当期収支差額	△ 2,637,000	△ 4,638,941	△ 2,001,941	
次期繰越収支差額	18,801,000	20,803,421	△ 2,002,421	

III 平成11年度調査概要

平成11年度の受託事業件数は、公共・民間を合わせて、確認調査14、確認・本調査5、本調査4、本調査・整理報告6、整理7、整理・報告書刊行3、その他1の合計40件、調査遺跡は26遺跡である。受託事業費における公共・民間の割合は、ほぼ9対1となっており、近年の民間事業の減少傾向が一層進んでいる。これも景気の動向を反映した結果と言えよう。また、携帯電話の通話エリア拡大を目的とする通信施設設置に伴う小規模調査の増加も本年度の特徴のひとつである。調査遺跡をその立地から見ると、前年度と同様東京湾岸に沿って形成された砂堆上や養老川流域の沖積低地での調査例が多くなっている。以下、時代を追って発掘調査の成果を概観したい。

旧石器時代の調査例は極めて少なく、加茂遺跡D地点、大清水遺跡の2遺跡である。加茂遺跡D地点では、立川ローム層最上位のいわゆるソフトローム中から礫片集中地点1ヶ所が発見された。また、大清水遺跡では、立川ローム層中位で3ヶ所の石器集中地点が発見されたが、何れも剝片を主体とした小規模なものであった。

縄文時代では、大清水遺跡、不入斗片又木遺跡から早期後半の条痕文系土器を伴う炉穴群、土坑、陥し穴などが発見されたほか、姉崎妙経寺遺跡で前期末の竪穴住居、喜多仲台遺跡で中期後半の竪穴住居跡、草刈遺跡で中期後半のピット、姉崎山新遺跡では、晩期後半の大量の土器を主体とする遺物包含層が発見されている。

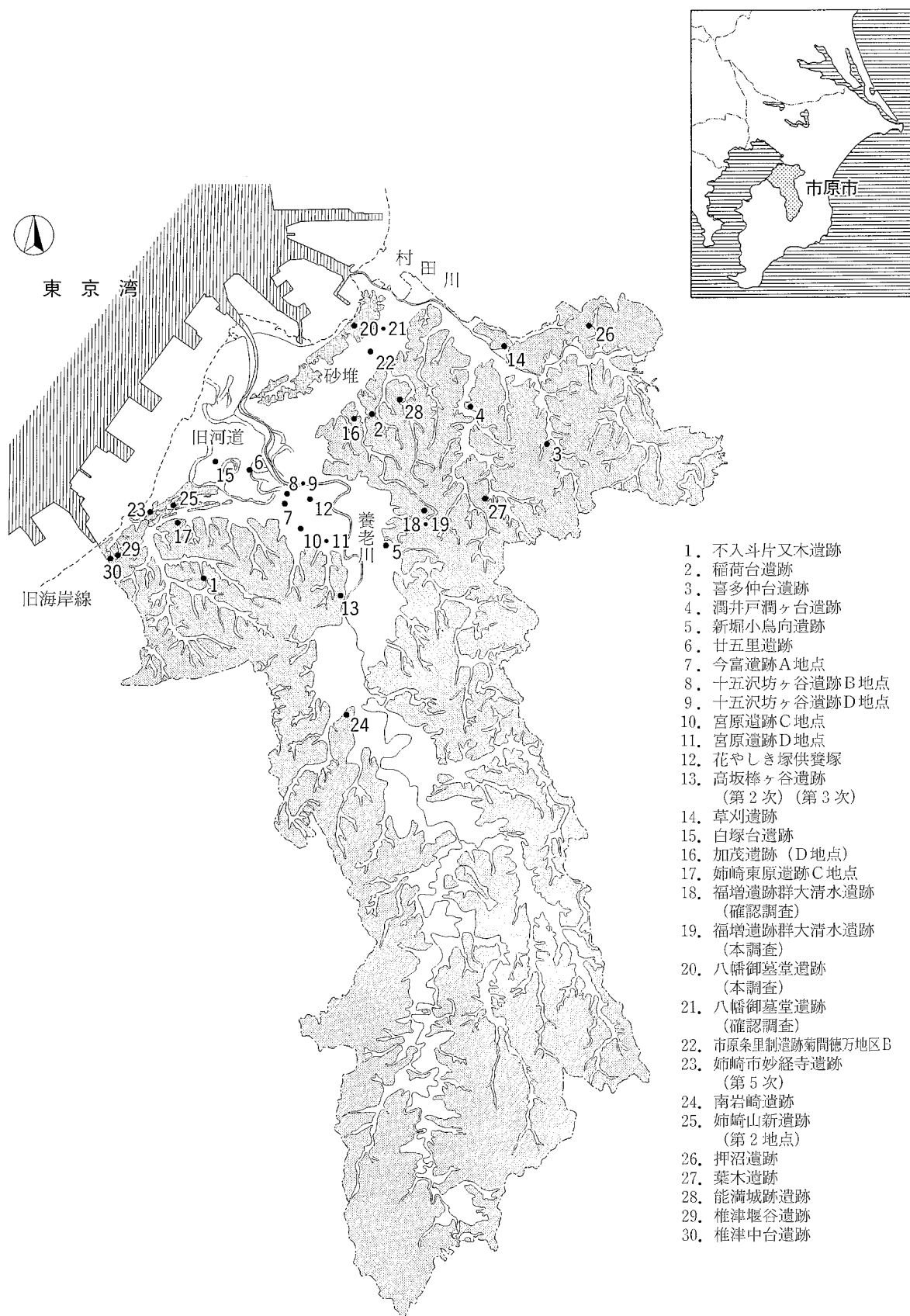
大清水遺跡の炉穴群は調査区南側に集中的に分布しており、隣接する武士遺跡群との比較資料としても興味深いところである。姉崎山新遺跡、妙経寺遺跡は、共に東京湾岸の海岸線に発達した砂堆列上に展開する遺跡であり、従来台地上の遺跡に目を奪われがちであった歴史・地理観に新たな視点を与える好資料となろう。

弥生時代では、山新遺跡及び南岩崎遺跡で中期後半の竪穴住居跡、稲荷台遺跡、不入斗片又木遺跡から後期の竪穴住居跡が発見されている。片又木遺跡では小範囲の調査ながら、後期後半～古墳時代前期に至る建物跡が多数発見されており、周辺地区での墓域を含めた集落の展開が予想される。

古墳時代では、片又木遺跡のほか南岩崎遺跡、加茂遺跡D地点では確認調査の結果、多数の遺構が検出されており、本調査の成果が期待されるところである。小鳥向遺跡で方形周溝墓、稲荷台遺跡、妙経寺遺跡で古墳が発見されている。今回で第5次調査となった妙経寺遺跡では、古墳群が砂堆に沿ってさらに西側に拡大することが判明した。

奈良・平安時代では、大清水遺跡で方形周溝状遺構が検出され、うち1基の埋葬施設からは軟質砂岩製の火葬骨の入った石櫃が発見されている。埋葬施設の形態も市内各所で発見されているものと異なっている点、興味深い。前年度からの継続調査となった海上地区では、坊ヶ谷遺跡、今富遺跡で竪穴住居跡、掘立柱建物跡などが発見されている。この他、喜多仲台遺跡、稲荷台遺跡で集落跡を調査している。

中世では、能満城跡において、土墨に伴う堀跡や台地整形を受けた墓域の存在を確認した。小鳥向遺跡では、火葬施設、土坑のほか鑄造関連遺物が出土し、金沢文庫に見える「新堀の鑄物師」との関わりを想起させる結果となった。このほか、八幡御墓堂遺跡で道路跡とそれに伴う溝状遺構、市原条里制遺跡で水田畦畔跡などが発見されている。



1. 不入斗片又木遺跡
2. 稻荷台遺跡
3. 喜多仲台遺跡
4. 濁井戸潤ヶ台遺跡
5. 新堀小鳥向遺跡
6. 廿五里遺跡
7. 今富遺跡A地点
8. 十五沢坊ヶ谷遺跡B地点
9. 十五沢坊ヶ谷遺跡D地点
10. 宮原遺跡C地点
11. 宮原遺跡D地点
12. 花やしき塚供養塚
13. 高坂棒ヶ谷遺跡
(第2次)(第3次)
14. 草刈遺跡
15. 白塚台遺跡
16. 加茂遺跡(D地点)
17. 姉崎東原遺跡C地点
18. 福増遺跡群大清水遺跡
(確認調査)
19. 福増遺跡群大清水遺跡
(本調査)
20. 八幡御墓堂遺跡
(本調査)
21. 八幡御墓堂遺跡
(確認調査)
22. 市原糸里制遺跡菊間徳万地区B
23. 姉崎市妙経寺遺跡
(第5次)
24. 南岩崎遺跡
25. 姉崎山新遺跡
(第2地点)
26. 押沼遺跡
27. 葉木遺跡
28. 能満城跡遺跡
29. 椎津堰谷遺跡
30. 椎津中台遺跡

平成11年度調査遺跡位置図

(1 : 200,000)

いりやま ずかたまたぎ
1. 不入斗片又木遺跡 (第2次)

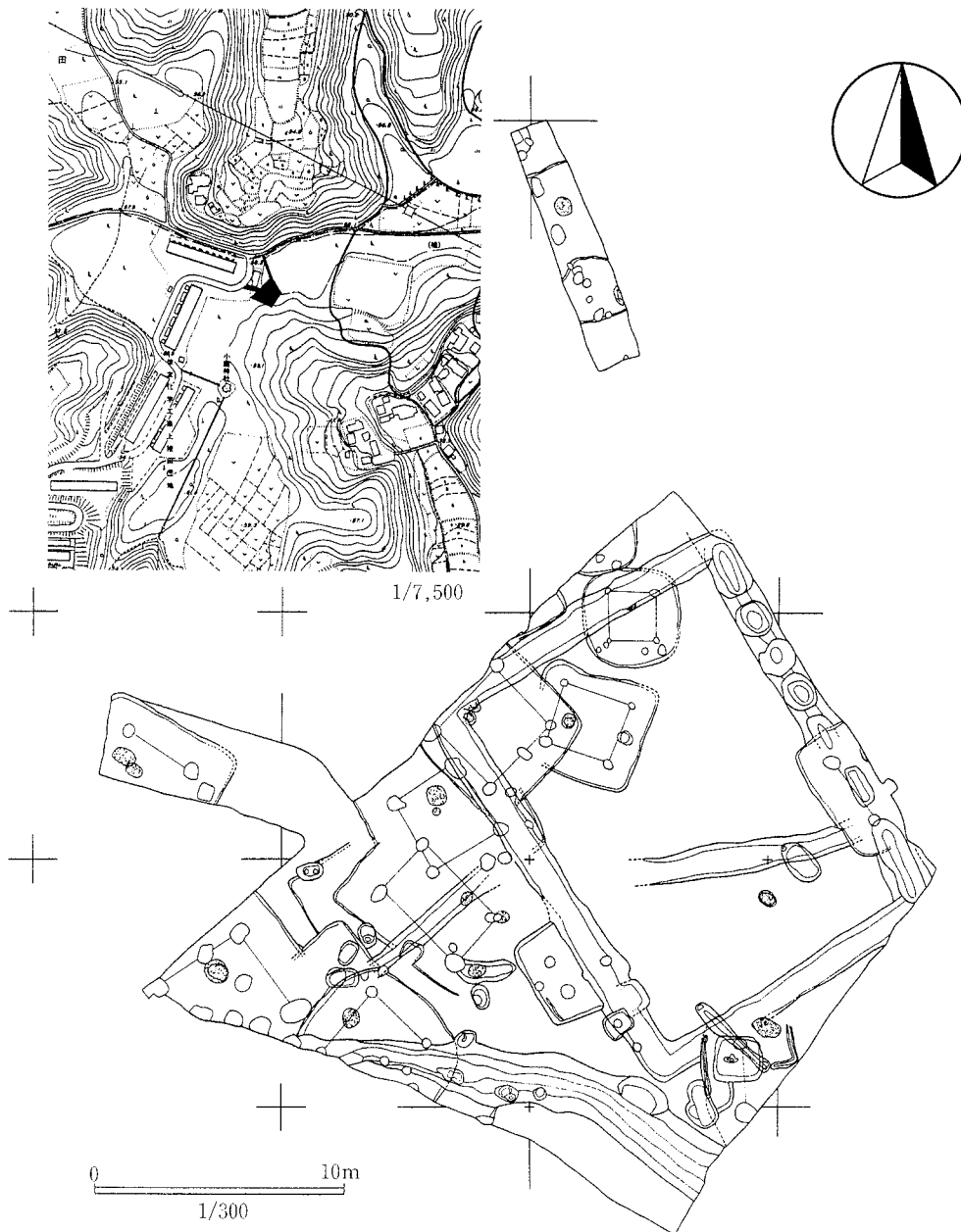
事業名 第一種電気通信無線基地局建設に伴う埋蔵文化財調査 (本調査・整理報告)

所在地 市原市不入斗字北宮ノ台186番

調査期間 平成11年4月5日～平成11年5月17日

調査面積 630m²

調査概要 縄文時代の貝層を伴う土坑1基・同早期炉穴2基、弥生時代後期竪穴建物11棟、古墳時代前期竪穴建物6棟、古代方形周溝1基、平安時代竪穴建物2棟が検出された。特徴的な遺物として、田戸上層式から子母口式にかけての縄文土器片と、弥生時代終末の竪穴覆土から出土した鉄鏃がある。本遺跡の詳細は、報告書(第70集)によりたい。(小橋健司)



2. ^{いなりだい}稲荷台遺跡

事業名 市内遺跡発掘調査

所在地 市原市山田橋3-4-11ほか

調査期間 平成11年4月7日～平成11年5月11日

調査面積 719㎡

調査概要 稲荷台遺跡は市原市の北部に位置し、東京湾の海岸線から約4km入った標高28mを測る通称「市原台地」上に立地する。調査区は、多数の掘立柱建物跡と祭祀遺構、紀年銘墨書土器や緑釉陶器が検出されるなど、官衙の様相を示すE地点に隣接する。調査の結果、弥生時代後期の竪穴住居跡2軒、古墳時代後期の円墳周溝1基、奈良・平安時代の竪穴住居跡10軒、掘立柱建物跡2棟などが検出された。なお、詳細については下記文献を参照されたい。(鶴岡英一)

「第2章 稲荷台遺跡」『平成11年度 市内遺跡発掘調査報告』 2000 市原市教育委員会



稲荷台遺跡周辺地形図

3. 喜多仲台遺跡

事業名 市内遺跡発掘調査

所在地 市原市喜多567-1の一部ほか

調査期間 平成11年8月30日～平成11年9月8日

調査面積 3,400㎡のうち340㎡（確認調査）

調査概要 喜多仲台遺跡は市原市の北東部に位置し、市津湖（長柄ダム）方面から北流する支川村田川によって開析された標高70mを測る細長い舌状台地平坦部に立地する。調査区は、平安時代を中心とした遺構と、墨書土器・鏃・火打金・轆などの豊富な鉄製品、銅製の鈴などが検出された平成4年度調査区の北側約300mに位置する。調査の結果、縄文時代中期後半の竪穴住居跡3軒・土坑2基、平安時代の竪穴住居跡1軒・掘立柱建物跡1棟・土坑1基が検出された。なお、詳細については下記文献を参照されたい。

（鶴岡英一）

「第3章 喜多仲台遺跡」『平成11年度 市内遺跡発掘調査報告』 2000 市原市教育委員



うるい どうる が だい
4. 潤井戸潤ヶ台遺跡

事業名 潤井戸地区無線基地局建設に伴う埋蔵文化財調査（確認調査）

所在地 市原市潤井戸字天王台2.270-20地先

調査期間 平成11年5月6日～同年5月14日

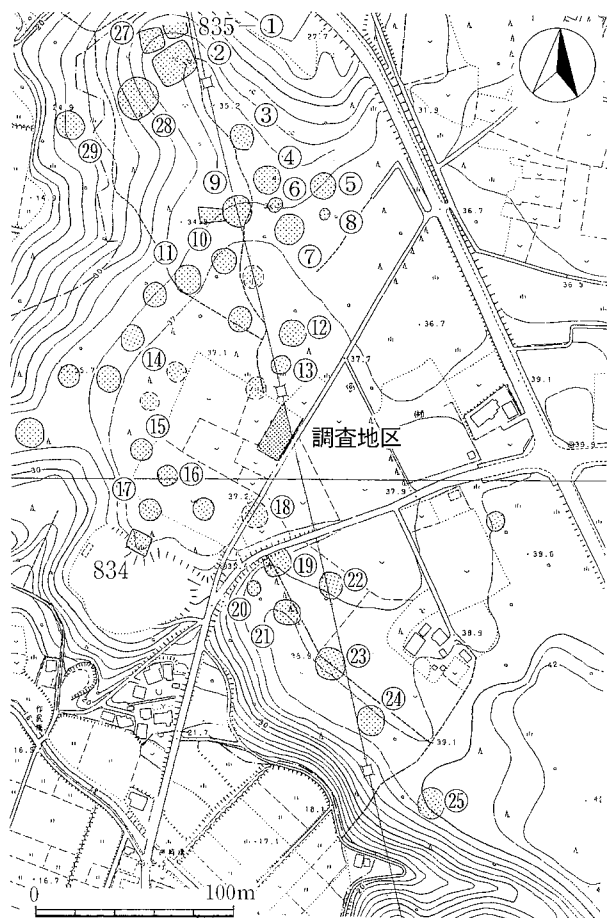
調査面積 363㎡のうち36.3㎡

調査概要 当遺跡は、村田川中流域左岸台地上に立地し、標高は約37mである。低地との比高は約20mを測る。調査前の状況は資材置場となっており、以前に一部掘削されたと聞く。周辺には潤井戸天王台古墳群が存在し（位置図）⁽¹⁾、当調査区も古墳の周濠が認められる可能性もあった。

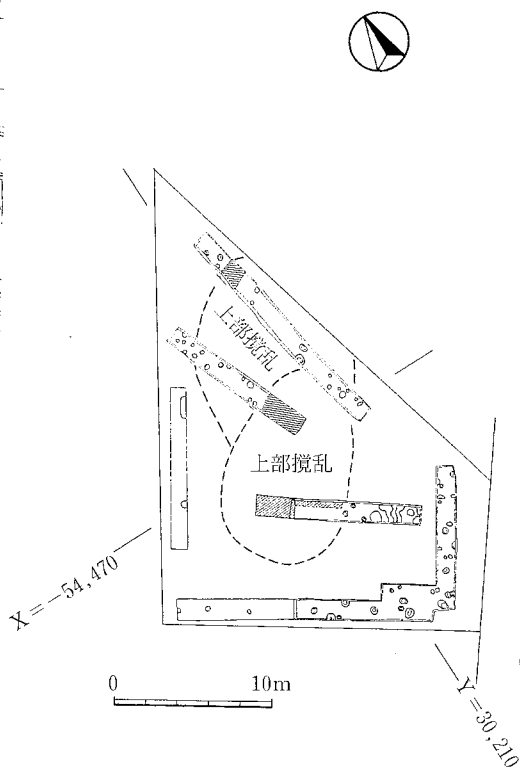
今回の調査は、対象面積363㎡の10%の確認調査で、トレンチは幅1.5mで細長く不規則に6本を設置した。その結果、対象地区の中央付近は深く大きな攪乱された穴が存在し、ゴミ穴として埋めもどされていた。周囲の残存する部分には、幾つかのピットが存在しすべてを掘り上げたが、出土遺物も図化出来ない小片の土師器片で、建物としてのピットの組み合わせもみられなかった。これらのピットの時期は土層などの状況なども含めて、出土した土師器片の時期（古墳時代後期）と考えているが、機能は不明である。

なお、当調査の本報告を当書で別章に掲載したので参照していただきたい。（田中清美）

註(1) 鶴岡英一、3、潤井戸天王台古墳群、市原市文化財センター年報 平成9年度 1999（財）市原市文化財センターなど



位置図



調査全体図

にいほり ことりむかい

5. 新堀小鳥向遺跡

事業名 社会福祉施設建設に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市新堀字馬場947-3の一部

調査期間 平成11年5月10日～平成11年5月24日

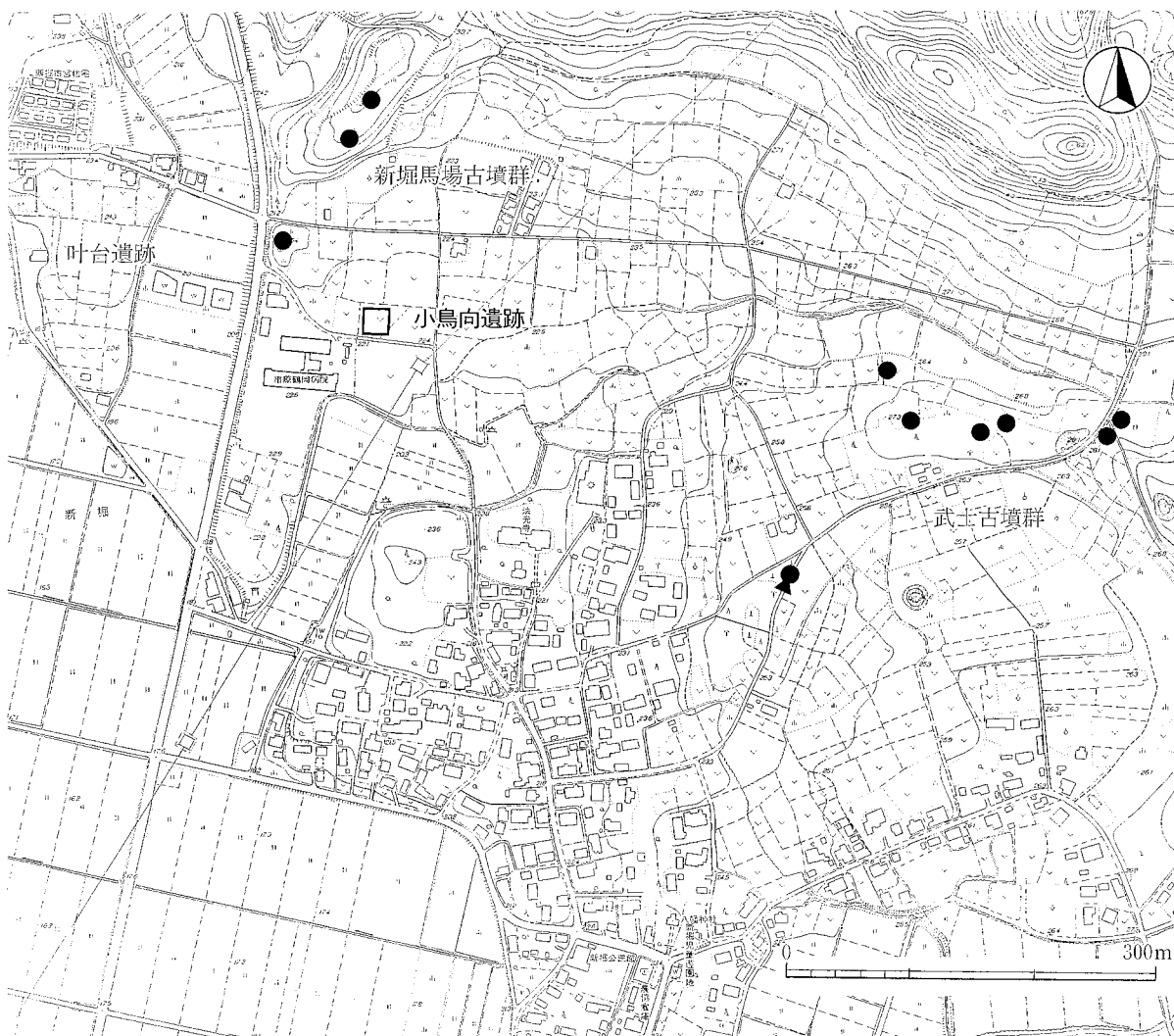
調査面積 230m²

調査概要 小鳥向遺跡は、市原市の中央を北流する養老川下流域右岸の標高20m程の河岸段丘上に位置する。周辺には、弥生時代中期から古墳時代後期初頭までの竪穴住居跡69軒などが高密度で検出された叶台遺跡がある。調査は平成10年度の確認調査の成果を受けて実施している。

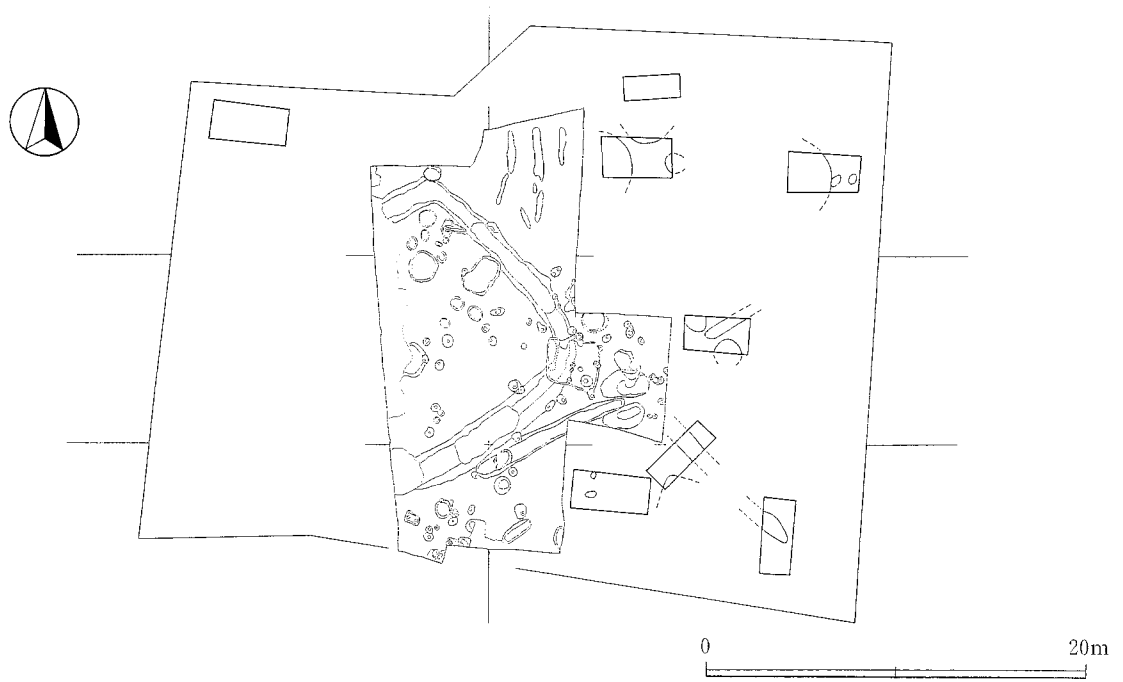
調査の結果、古墳時代前期の方形周溝墓1基、溝状遺構1条、平安時代竪穴住居跡1軒、中世火葬施設1基、土坑5基を検出した。遺物は、古墳時代前期の土師器、平安時代の土師器・須恵器、中世鎌倉期の陶器、中世の鑄造関連遺物、人骨、銭などが出土した。なお、詳細については、報告書が刊行されているので、そちらを参照されたい。 (北見一弘)

「新堀小鳥向遺跡」『平成10年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会 1999

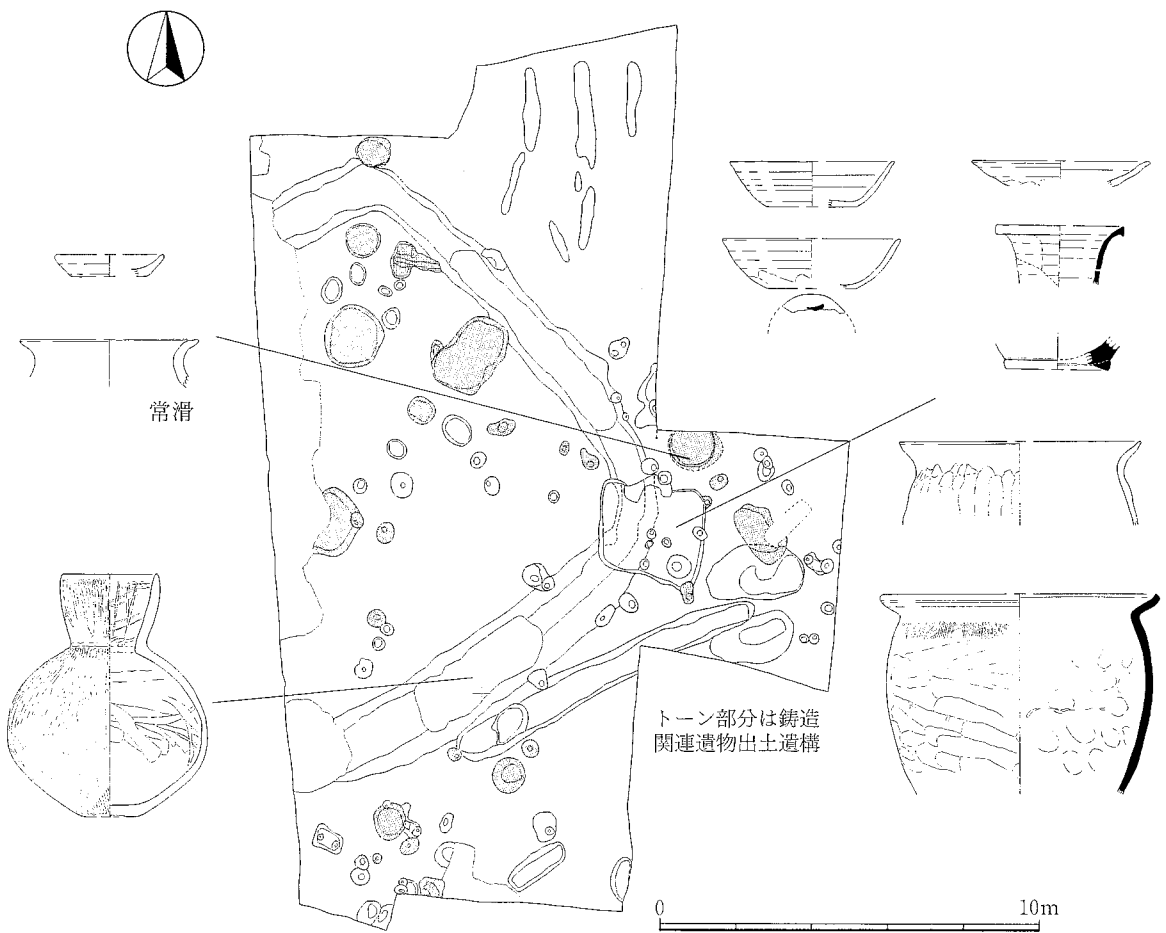
『市原市小鳥向遺跡』財団法人市原市文化財センター調査報告書 第69集 2000



小鳥向遺跡周辺地形図



小鳥向遺跡確認及び本調査範囲



小鳥向遺跡全体図及び出土遺物（遺物実測図は1：6スケール）

6. ^{ついでいじ}廿五里遺跡

事業名 準用河川上前川改修事業に伴う埋蔵文化財調査（確認調査）業務委託

所在地 千葉県市原市廿五里725ほか

調査期間 平成11年6月2日～平成11年9月30日

調査面積 900㎡のうち90㎡（確認調査）

調査概要 廿五里遺跡は、東京湾から3kmほど南東に入った、養老川下流域左岸の微高地上に立地している。調査地の眼前には江戸時代後期の川廻しによって開田された水田が広がり、周囲の地形に旧流路の痕跡（メアンダー地形）をとどめている。『市原市史（別巻）』「第九章 養老川」（1979）の記載によると、ここにみる旧流路は天明五年（1785）の「上総柳原村図」に示された養老川流路の延長線上に位置しており、寛政七年（1795）に町田付近で行った川廻しによって、現在の景観となったことが想定される。また、この流路に、南側から流れ込む小河川の痕跡が、調査区の東半部分に微地形となって連絡している。この河川地形についても、『市原市史（別巻）』では近世以降の流路地形としている。

今回の調査では、以上のような遺跡の立地を考慮し、調査区の東半分では旧流路の短絡時期の解明に主眼をおき、また、西半分については流路の攻撃面に面した微高地形上に展開した土地利用形態とその変遷の解明を主眼に、それぞれ考古学的な観点から確認調査を実施したものである。

確認調査の基準設定には、河川課から提供を受けた公共座標値を用いた。調査区は公共座標に対して東西方向に長いトレンチを標準としたが、東側については旧流路の埋没状況並びに断面形態の把握を目的に、現況地形に合わせて任意設定した。尚、西側調査区第3トレンチ東側において、遺構の性格ならびに平面形態の把握を目的とした一部拡張を実施している。また、第3トレンチ西側ならびに第4トレンチにおいて基盤層確認のための掘り下げを実施した。

調査の結果確認された遺構は、平安時代後期のピット1基と近世の土抗4基であった。近世の土抗については、全体の把握を行っていないものがある。但し、平安時代のピットと重層関係にあった土抗1基については拡張して調査した。

出土遺物で古代に遡るものは、土師器片ならびに土錘であった。その他の遺物はすべて近世以降の所産によるものである。調査で確認された攪乱の中には、住宅の移転に係るものが認められている。

調査区東側では、旧河川の痕跡を記録した。古代に遡る遺構や遺物は発見されていない。尚、調査の結果、第2トレンチと第1トレンチとの間に見られた段差は、昭和期の客土によるものであることが明らかとなった。旧流路は、河床面で川幅約25m、標高3.1m前後を計測している。人工的な短絡の結果における開田であったために、河川堆積物がほとんど確認されなかった。確実に供伴する遺物が皆無であるため、短絡の時期について明らかとすることはできなかったものの、水田面床土下層に近世の資料が1点含まれていた。短絡の時期を示す下限資料であろう。

（田所 真）

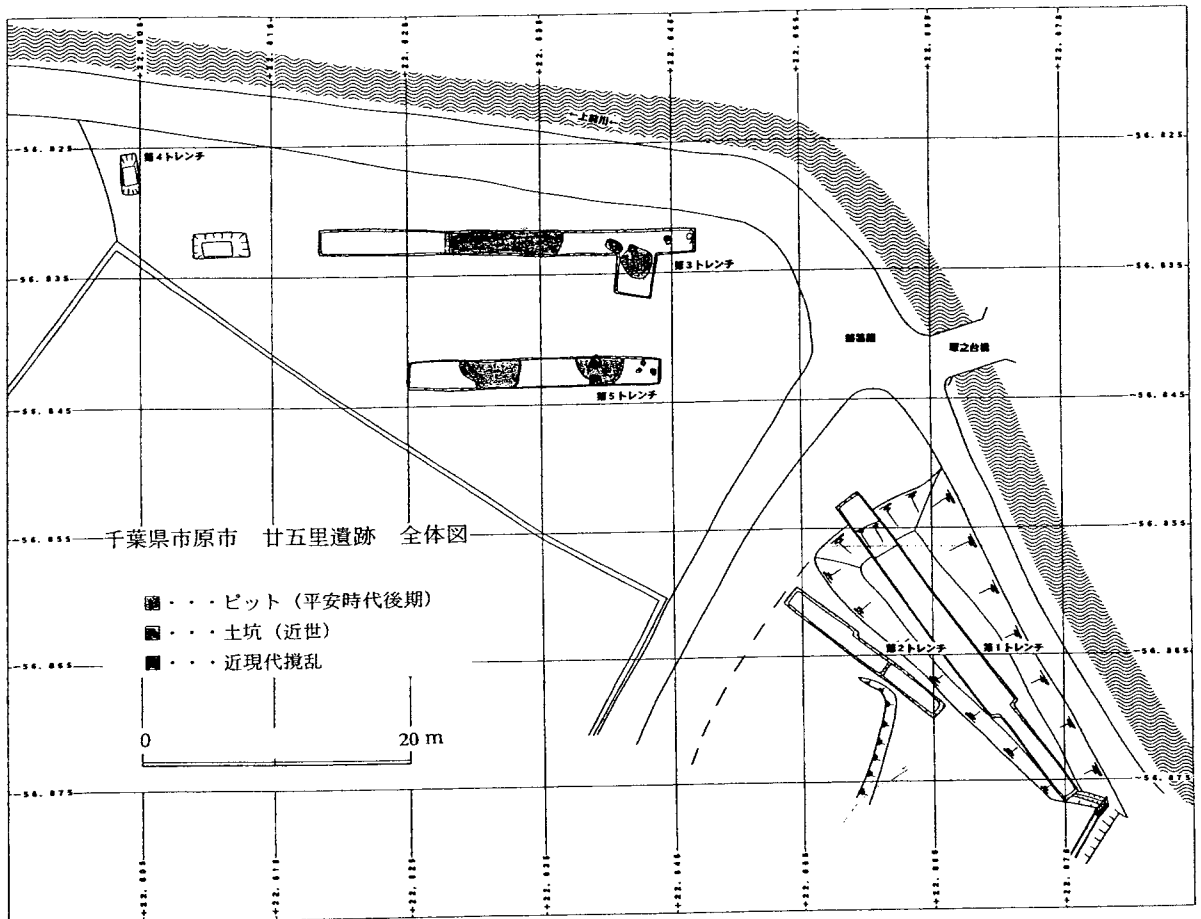
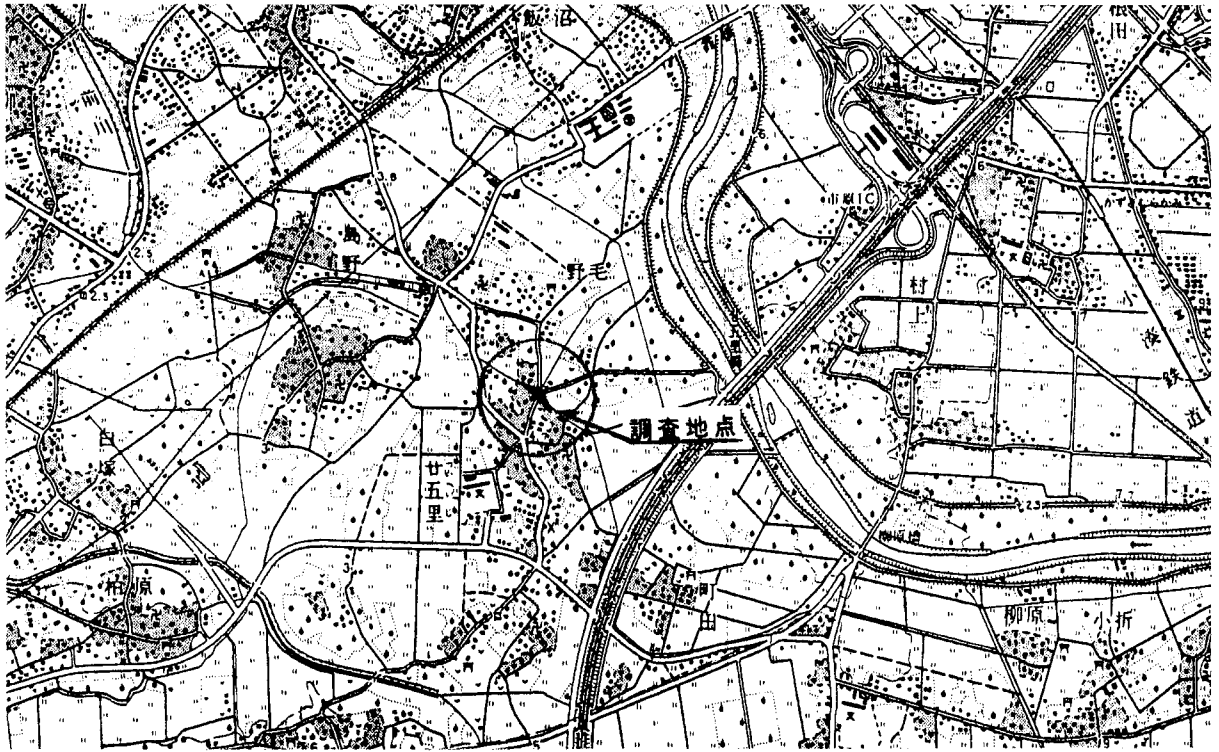


図1 甘五里遺跡の位置と遺構

7. ^{いまとみ}今富遺跡A地点

事業名 ほ場整備事業（県営担い手）海上地区埋蔵文化財調査業務委託

（委託番号第6号）（委託番号第7号）

所在地 千葉県市原市宮原343番地ほか

調査期間 平成11年7月2日～平成11年11月30日（確認調査）

平成11年10月19日～平成12年2月8日（本調査）

調査面積 2,000㎡のうち100㎡（確認調査）および100㎡（本調査）

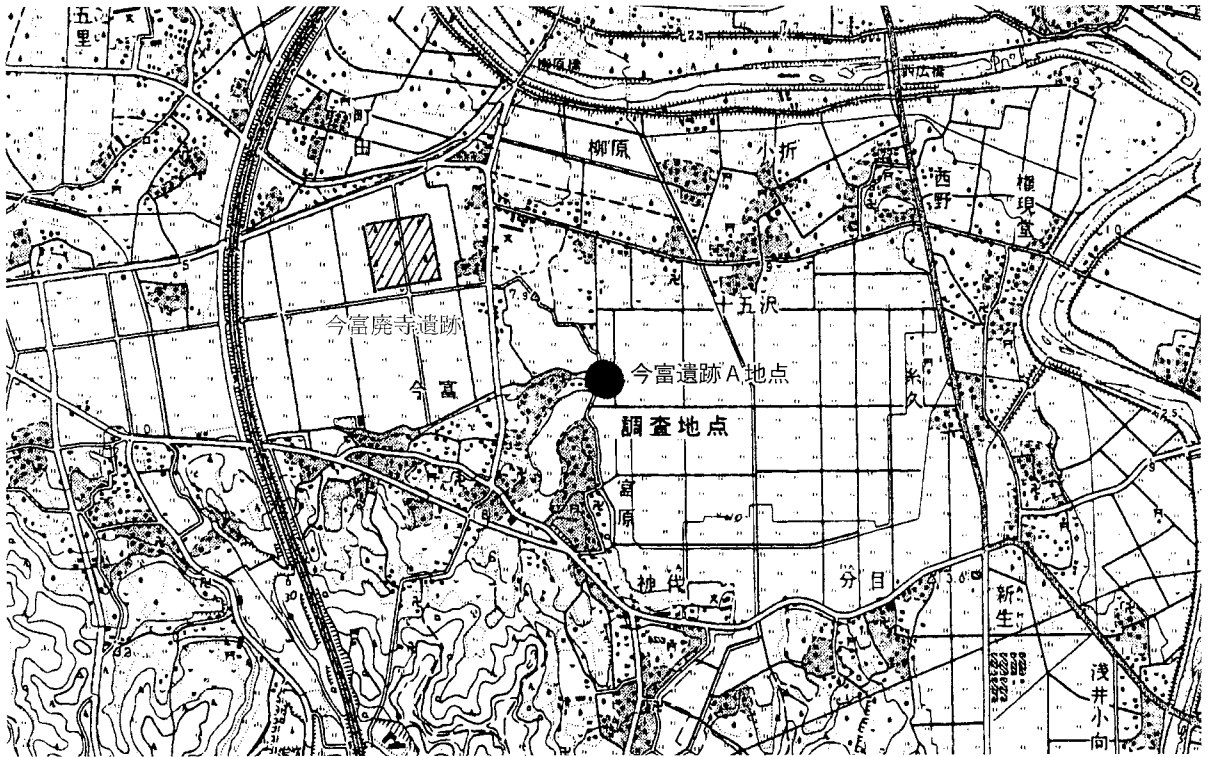
調査概要 今富遺跡A地点は、市原市宮原字塔ヶ崎付近から今富にかけて展開する遺跡である。標高8.5m前後、今富の集落がのる微高地の北東端部に位置している。

調査は、全域の5パーセントを対象とする確認調査（東西方向のトレンチ六箇所）から行った。確認調査の結果、調査区の北半部では近世以降の土坑7基ならびに溝状遺構4条を確認し、南端で奈良・平安時代の竪穴建物跡1棟と同時期の土坑1基を確認した。北半部は従来、江戸期以降の墓地が展開していたところであり、圃場整備に先行して整備されている。今回確認された遺構は、これらに関連するものと考えられよう。一方、南半部は、畑地として利用されていたところであり、近世の遺構は認められなかった。東側に道を挟んで展開している畑地との間に若干の比高差が認められており、後世に削平を受けていることが想定された。このことは、耕作土直下に漸移層が見られなかったことや、遺構の遺存状態からも明かとなっている。確認調査の時点で出土した遺物は、奈良・平安時代の須恵器、土師器、近世以降の陶磁器であり、整理箱に1箱弱であった。

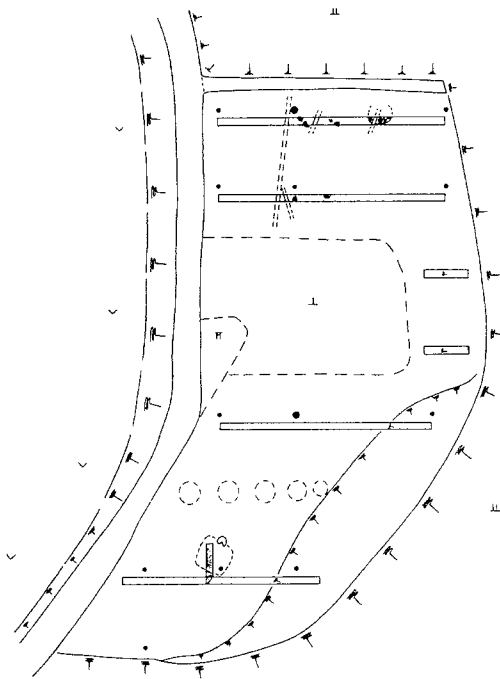
本調査は、南半で確認された遺構を対象として実施している。調査の結果、奈良・平安時代の溝状遺構2条、平安時代前期の竪穴建物跡1棟、奈良・平安時代のピット2基を記録している。いずれの遺構も掘り方が浅く、上部を削平されていた。また、土坑と考えていたものが、溝状遺構と後世の攪乱であることも明かとなった。本調査で出土した遺物は古墳時代後期の土師器、奈良・平安時代の瓦、須恵器、土師器であり、整理箱に2箱程度であった。本調査範囲からは、古墳時代の遺構が検出されていないが、西側隣接微高地上にも類似の遺物の散布が認められることから、当該期の遺跡が広がっているものと想定される。また、古代の瓦については、調査地点北西70m前後の地点にかつてより「今富廃寺跡」が知られており、これに関連して本遺跡にも瓦が持ち込まれたものと推定することができよう。尚、調査地点の小字「塔ヶ崎」にまつわる地元の伝承として、今富廃寺の塔の先が瓦解の折りにこの地まで及んだとするものがあることを付言しておきたい。今富廃寺は重圀紋軒先瓦を意匠瓦に持つ古代寺院であり、海上郡家の付属寺院として、その創建は国分寺に先行することが指摘されている。また、別の伝承においては、鎌倉建長寺の末寺とも伝えられている。今富には、集落内に4ヶ寺が存在しており、中でも円満寺には「天文六年再興」の胎内納入文書を有する南北朝期の不動明王坐像一軀が知られており、また秀善寺には無銘ながらも鎌倉時代の地藏菩薩立像一軀が伝わるなど、集落の成立が中世前期に遡りうる可能性を示唆していよう。今回の調査結果と併せて、地域史研究の一助となろう。

（田所 真）

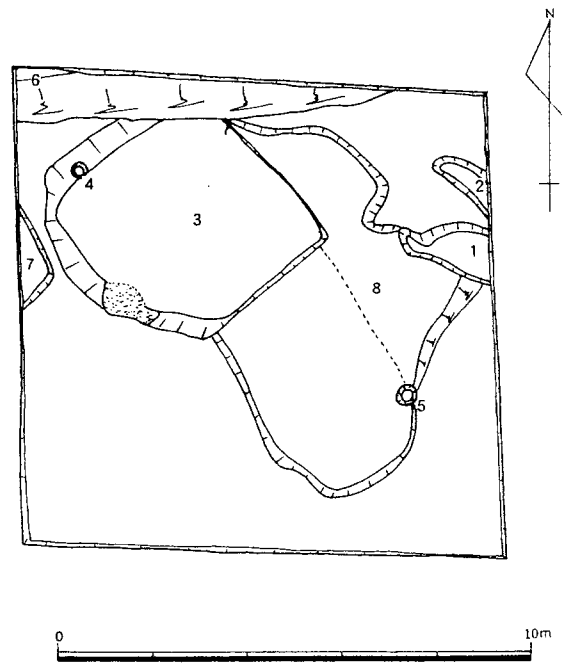
参考文献 『市原市内仏像彫刻所在調査報告（北部編）』市原市教育委員会（平成4年）



今富遺跡周辺の地形



今富遺跡A地点確認調査
全体図



今富遺跡A地点本調査全体図

- 1～2 奈良・平安時代溝状遺構
- 3 平安時代前期竪穴式建物跡
- 4～5 奈良・平安時代ピット
- 6～ 近世以降

じゅうごさわぼう が やつ

8. 十五沢坊ヶ谷遺跡B地点

事業名 ほ場整備事業（県営担い手）海上地区埋蔵文化財調査業務（委託番号第6号）

所在地 千葉県市原市十五沢250ほか

調査期間 平成11年7月12日～平成11年9月10日（本調査）

調査面積 640m²

調査概要 今回の調査は、海上地区の圃場整備事業に先立って、千葉県市原土地改良事務所から委託を受けて、本センターが実施した道路施行部分の本調査である。本調査の範囲は、前年度までの確認調査の結果によっている。なお、海上地区の圃場整備に伴う発掘調査としては、開始から3年目の事業にあっている。

遺跡は、標高8m前後の微高地上に立地している。密度は希薄ながらも奈良時代以降の遺跡が広がっている。殊に、西側隣接地のD地点周辺には掘立柱建物跡の存在が確認されており、西方約1kmに知られる今富廃寺跡（海上郡の古代寺院）との関係が注目される。また、調査地点の東北部分にあたる小折は、海上郡の郡家推定地にあっている。

調査開始時点での現況は水田面（南側1/3）および畑地（北側2/3）であったが、当該地は昭和期に既に一度圃場整備を実施しており、北側については、この時点で生産地域に編入された可能性が高い。しかし、旧村落の広がりを持定することができなかった。

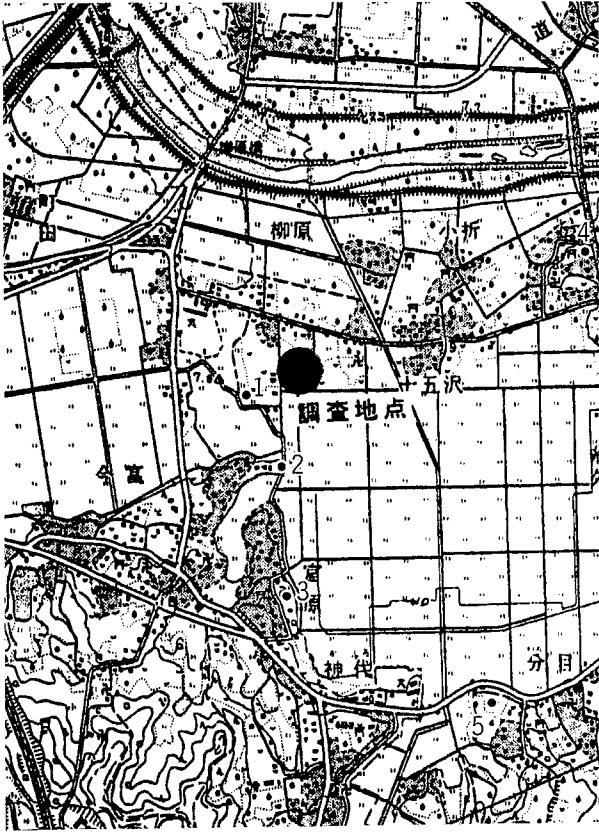
本調査において検出された遺構は、奈良時代の竪穴建物跡1棟・小竪穴遺構1ヶ所・ピット群1ヶ所・溝状遺構3条・土抗1基、近世以降のピット16ヶ所・井戸遺構1基・溝状遺構9条であった。

奈良時代の竪穴建物跡は、調査区北部のB—2区において検出されており、北下がり緩傾斜面に建てられている。遺構は、北側を近世の溝で切られていた。竈なども消失しており、若干の出土遺物からその痕跡を把握できるに過ぎない。小竪穴遺構は、B—4区において検出されている。北側壁面の遺存度に比較して、南側は近世の溝で削平を受けており底面において遺構の規模を推定しうるに過ぎなかった。底面は平坦でピットを持っていない。ピット群は、B—5区に集中して観られるもので、建物としての組み合わせを把握するには至らなかった。調査対象地の西側に広がるものと考えられる。

奈良時代の溝状遺構は、C—7区からB—9区にかけて検出されたもので、平行する幅員の狭い3条からなっている。殊に、南側の2条は振れがほぼ一致しており、共存していた可能性が考えられる。2条ともに、奈良時代後期の須恵器を含む少量の遺物が出土している。調査現場での所見としては、幅員6m程度の古代道路の両側溝である可能性が考えられた。周辺の調査で、この遺構の延長線上に同様の遺構が確認できるとするならば、今富廃寺跡と郡家推定地域の間地点にあたることから、興味深い結果が得られることとなろう。但し、路面にあたる部分は、近世の幅広の溝（道？）によって下がっており、検出されていない。また、北側の2条と南側の1条とでは、検出高に落差がある。

調査によって出土した遺物は、奈良時代の須恵器・土師器と近世以降の陶磁器に限定されており、平安時代から中世にかけての状況は把握し得なかった。調査区に程近い高澤寺（こうたくじ）境内地に遺る墓石にも江戸後期のものが多く見られ、十五沢地区における近世村落の形成がこの時期に当たることを推測させている。報告書の刊行までには、より広い視野からの検討がなされ、当該地区の歴史が明らかになっていくことだろう。

（田所 真）



十五沢 坊ヶ谷遺跡B地点の位置

周囲の遺跡

- 1. 今富庵寺跡
- 2. 今富遺跡A地点
- 3. 宮原御所跡
- 4. 西野遺跡
(海上郡家推定地)
- 5. 分目城跡

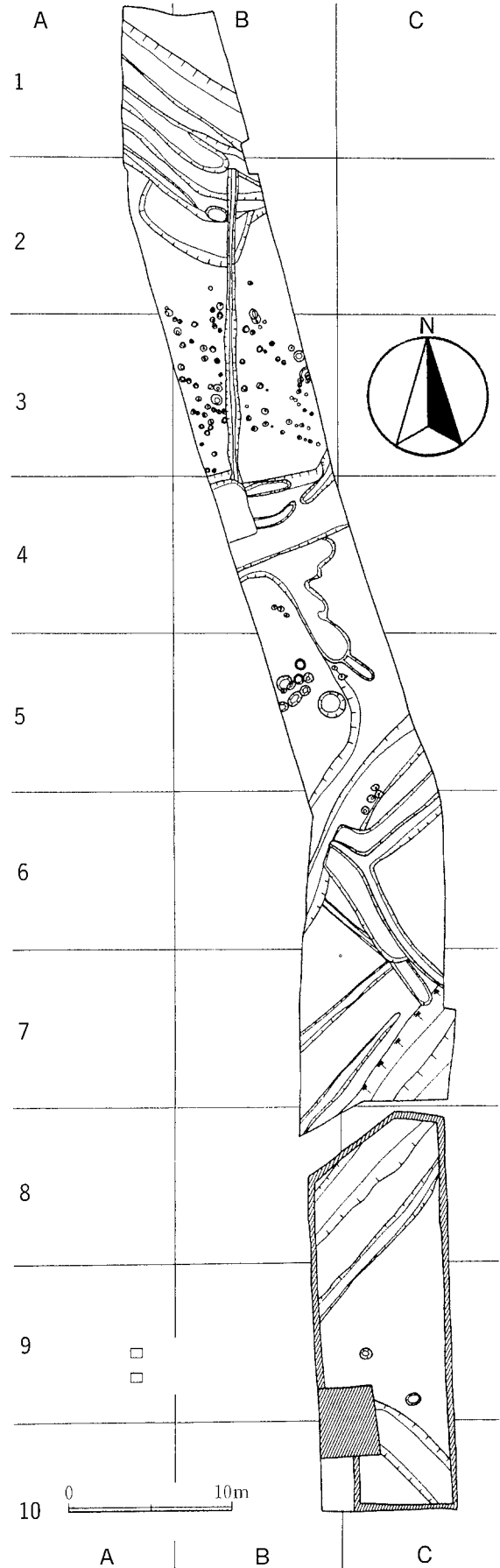
十五沢 坊ヶ谷遺跡B地点全体図

遺構

- 奈良時代 竪穴建物跡1棟、小竪穴遺構1ヶ所、ピット群1ヶ所、溝状遺構3条、土坑1基
- 近世以降 ピット16ヶ所、井戸遺構1、溝状遺構9条

遺物

- 奈良時代 須恵器、土師器
- 近世以降 陶磁器



9. 十五沢坊ヶ谷遺跡D地点

事業名 ほ場整備事業（県営担い手）海上地区埋蔵文化財調査業務

（委託番号第6号）（委託番号第7号）

所在地 千葉県市原市宮原343番地ほか

調査期間 平成11年7月2日～平成11年9月10日（確認調査）

平成11年10月19日～平成12年2月8日（本調査）

調査面積 15,600㎡のうち156㎡（確認調査）および300㎡（本調査）

調査概要 十五沢坊ヶ谷遺跡は、標高8～8.5mの微高地上に立地する集落遺跡である。周知の遺跡としては、西方に今富廃寺跡が所在している。また、東側小折地区周辺に古代海上郡家が推定されている（西野遺跡群）。十五沢坊ヶ谷遺跡では、平成9年度より調査を継続的に実施してきており、今年度は3年目にあたっている。D地点との関係では、昨年度のC地点調査において、掘立柱建物跡群を含む一郭が明かとなっており、D地点はこれに隣接する東側一帯を対象とした調査であった。

調査は、まず夏場の確認調査から実施している（挿図左側）。調査開始時点の現況が水田面であったことから、対象面積の1%を目処にグリッドを配して調査を行い、対象地の南西寄りに旧河川跡によって囲まれた一郭があり、ここに遺構群を確認することができた。この時点で推定された遺構は、竪穴式建物跡2棟、掘立柱建物跡1棟、溝状遺構2条であった。このことから、事業主体である千葉県市原市土地改良事務所と市教育委員会が協議を行い、旧河川の内側を本調査対象範囲とする中で、現状保存の難しい道路施行部分について記録保存の措置を採ることとなった。

本調査は、秋口から年明け2月までの間で実施している（挿図右側）。確認調査の結果に基づいて定まった本調査範囲（300㎡）について、重機による表土剥ぎ作業を実施した後に、確認面の清掃作業による遺構確認から調査を開始した。遺構確認面の土壌は、粘性土であって吸水性が乏しいため、調査区の東側に排水用の溝を設け、南端の集水升から強制的に排水した。また、遺構調査と平行して、上杉陽氏ならびに上本信二氏にお願いして、旧河川域と考えられた地形の土壌について、層位的に土壌観察を実施していただき、地質学的な観点から遺跡の所在する地形の成り立ちについて、分析をおこなっていただいた。分析結果については、報告書に詳細が掲載されるであろうが、若干の所見をいただいているので、本年報にも附編として収めさせていただいたので参考にされたい。

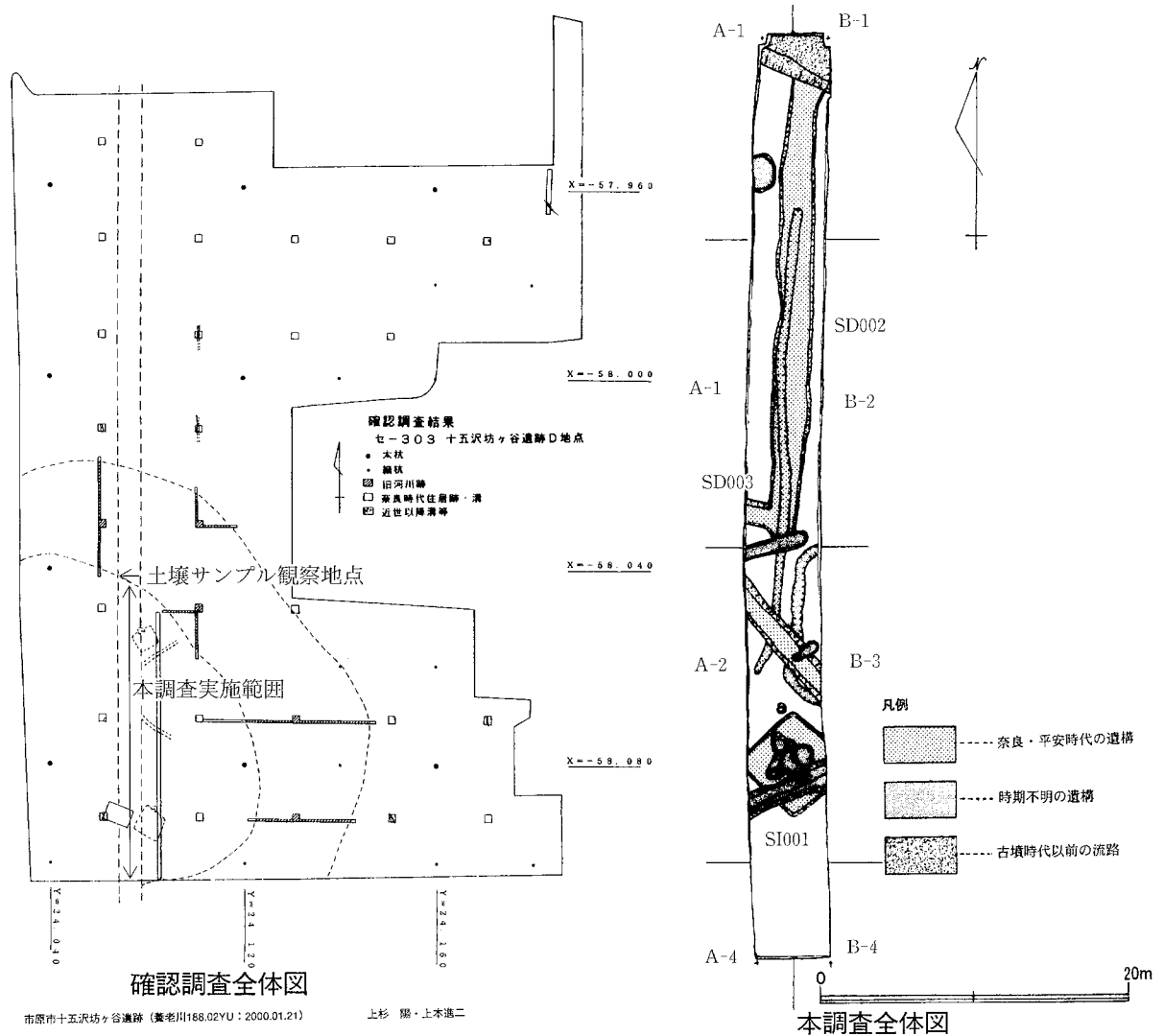
尚、両氏の所見と、考古学的な成果との間には、あたかも、若干の齟齬が見られるかのように考えられようが、旧河川の成立時期が海浜部の陸地化以降であるとの理解に立てば、矛盾はないものと思われる。先に、廿五里遺跡の報告において述べたように、養老川下流域には数多くのメアンダーが知られており、本流支流を合わせて流路変遷は複雑に組合わさっている。全体の様相の中でその位置付けを確認する必要があるだろう。

但し、微視的には、今回の調査区に遺跡が展開する以前に、旧河川が成立していたとみて間違いなからう。即ち、文頭にて述べたように、今回本調査を実施することとなったD地点の遺構分布範囲は旧河川によって取り囲まれた範囲を超えるものではなかった。このことは、遺跡そのものの広がり、旧河川によって規制を受けていたためであるという理解に結びつくものであるからである。

では、遺跡そのものはどのような性格のものであろうか。

平成10年度に西側隣接地で実施した調査（十五沢坊ヶ谷遺跡C地点）では、奈良・平安時代の掘立柱建物跡5棟や溝2条などが検出されており、建物規模に不詳な部分を残しつつも、「柱筋は南北に揃っている印象を与える。」との所見が得られている。また、出土遺物でも、「土師器、須恵器、瓦等が出土した。瓦には、上総国分寺所用瓦と同様の均整唐草文軒平瓦を含んでいる。」と報告されている。C地点調査区南東側でやや面的に調査を実施した2棟の建物のみによる比較では、隅柱において重複が認められており、西側の2間×3間の側柱建物（仮称A建物）がほぼ正方位を採るのに対して、東側の建物（仮称B建物）は3間×3間の方形でやや西に振れている。方形の建物（仮称B建物）の振れと、今回D地点の調査で検出した南北方向の溝（SD001）の振れとは近似値であり区画や機能において関連性が考えられよう。また、SD001から西に向って分岐する溝（SD002）をC地点の側柱建物（仮称A建物）南西で検出されている溝と結線させると、方形の建物（仮称B建物）の南側柱列にほぼ平行しており、この点でも規格性・関連性が看取される。C地点の遺構群については、かねてより今富廃寺跡との関係が指摘されている。今回の調査地点がC地点に確認された遺跡の東辺にあたる可能性を含めて、整理報告の中で検討していくこととなる。

（田所 真）



10. ^{みやほら}宮原遺跡C地点

事業名 ほ場整備事業（県営担い手）海上地区埋蔵文化財調査業務（委託番号第7号）

所在地 千葉県市原市分目字出戸48-1番地ほか

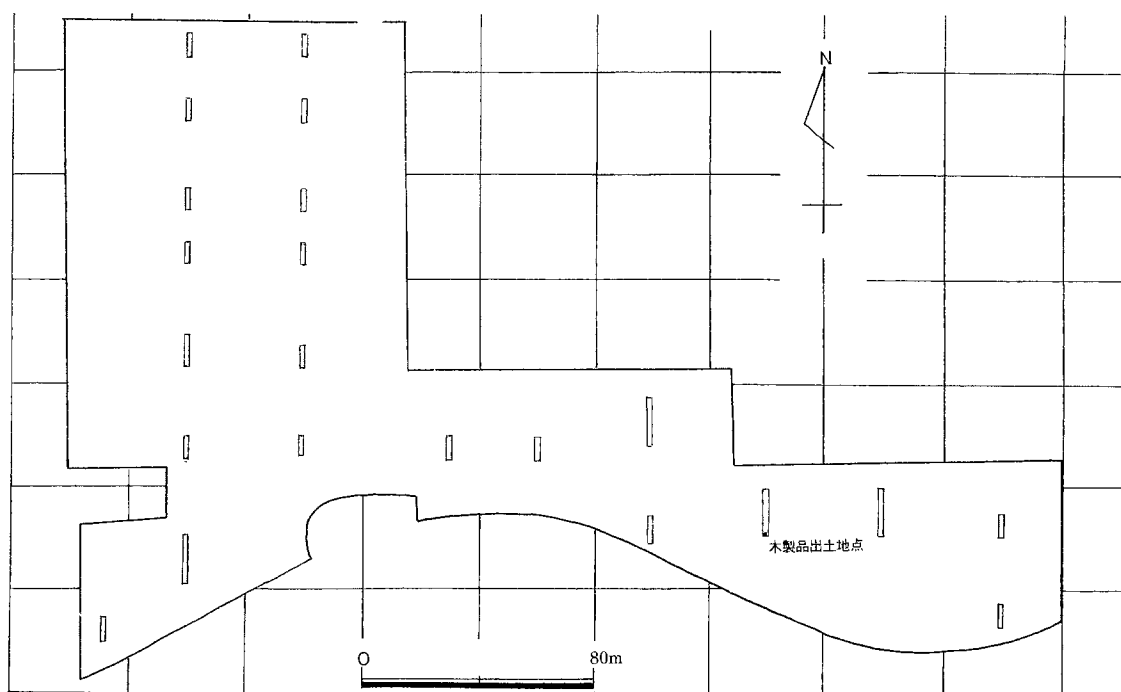
調査期間 平成11年10月19日～平成12年2月8日

調査面積 38,300㎡のうち383㎡（確認調査）

調査概要 宮原遺跡は、養老川下流域の宮原地先に広がる低地性遺跡であり、現在は水田面となっている。本遺跡の調査はこれまでに2地点（A地点およびB地点）で行われており、本年度調査としては、今回のC地点以外に、文化庁からの補助を受けてD地点の調査も平行して実施している。宮原遺跡の調査としては、最終年度の調査にあっている。周囲には、南に分目要害城跡、西に宮原御所跡などが隣接して知られている。調査には10月15日より着手しているが、途中11月1日より約1月間文化庁文のD地点調査を挟んでいる。調査区は公共座標を基に設定したが、地元耕作者などからの要望もあって、(1)現況の畦畔を調査区が跨がないようにすること。(2)耕作機械の脱輪防止から、幅員1.5m以内の南北トレンチによって実施すること、等の配慮を行った。

調査は初日に機材の搬入や施設の設置を行った後、調査区の設定から順次進めた。表土の除去では、前年度までの調査成果を踏まえ、泥炭層下層の所謂「まこも層」上面までを調査対象としたが、これまでの調査結果から耕作土下40cm程度の面に溝跡などが検出される傾向を認めていたので、この面で一旦清掃を行い、遺構や遺物の有無を確認することに重点を置いた。

調査の結果、調査区内には遺構の検出が認められなかったが、古墳時代の土師器や奈良時代の土師器および須恵器、近世以降の陶磁器などが出土している。また、古墳時代の土師器とともに加工痕のみられる棒状木製品が出土している。整理報告事業の中で、内容を明らかとしたい。（田所 真）



千葉県 市原市 宮原 宮原遺跡C地点全体図

11. 宮原遺跡D地点

事業名 海上地区遺跡発掘調査事業（国庫補助分）

所在地 千葉県市原市宮原字向堤地先

調査期間 平成11年10月25日～平成12年3月15日

調査面積 30,000㎡のうち300㎡（確認調査）

調査概要 調査地点は、養老川左岸の標高8～9mほど水田地帯にあっており、周囲には分目要害城跡や神代城跡などが知られている。

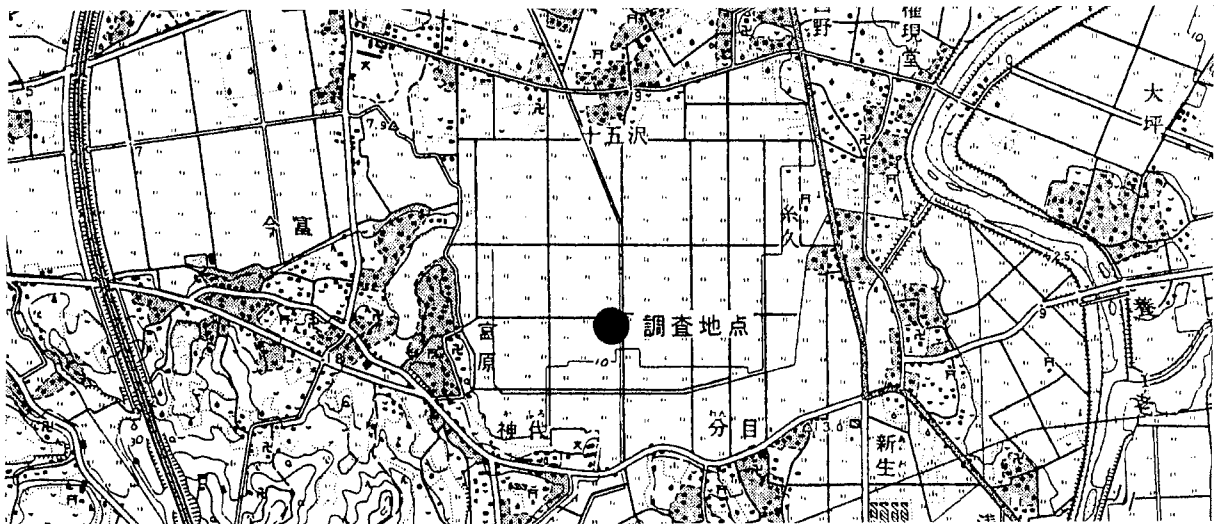
今回の調査は、海上地区の圃場整備に先立って、千葉県市原市が文化庁から補助金を得て行った発掘調査（確認調査）であり、事業開始から3年度目にあたっている。

調査の目的は、宮原から分目にかけて低地上に広がる宮原遺跡の内容を確認することであり、遺跡全域の一部にあたる30,000㎡（宮原遺跡D地点）について実施したものである。調査は、対象面積の1%（低地扱い、300㎡）にあたる調査区を設定して行った。具体的には、公共座標地による40m方眼のグリッドを基準とし、幅1.5m長さ20mのトレンチ7ヶ所と、幅1.5m長さ10mのトレンチ6ヶ所、合計13ヶ所のトレンチを設定して行っている。表土の除去では、泥炭層の下層（まこも層上面）までを調査の対象としたが、昨年度の調査成果を参考とし、耕作土下40cm程度の面に溝跡などが検出される傾向にあることを考慮し、II層（褐色粘性土）下面で一端清掃を行い、遺構や遺物の有無を確認したうえで下層の文化層を検出することに重点を置いた。

しかし調査の結果、今回の調査区からは中世以前の遺構面を確認することができなかった。遺物の散布状況では、希薄であるがほぼ全域に渡って土師器や須恵器の存在を確認している。調査区の1%という限定された面積の中で、地域史の一端を解明しようとする試みは不十分に終わったが、これまでの広範囲にわたる調査成果とともに資料整理を行い咀嚼することによって、従来考古学的なメスの及ぶことが無かった宮原の地域史に、新たな視点が加わることは疑うべくも無い。

D地点の調査をもって、宮原遺跡の現地調査は終了した。資料整理の結果に期待したい。

（田所 真）



12. ^{はな}花やしき塚^{つかくようづか}供養塚

事業名 ほ場整備事業（県営担い手）海上地区埋蔵文化財調査業務（委託番号第7号）

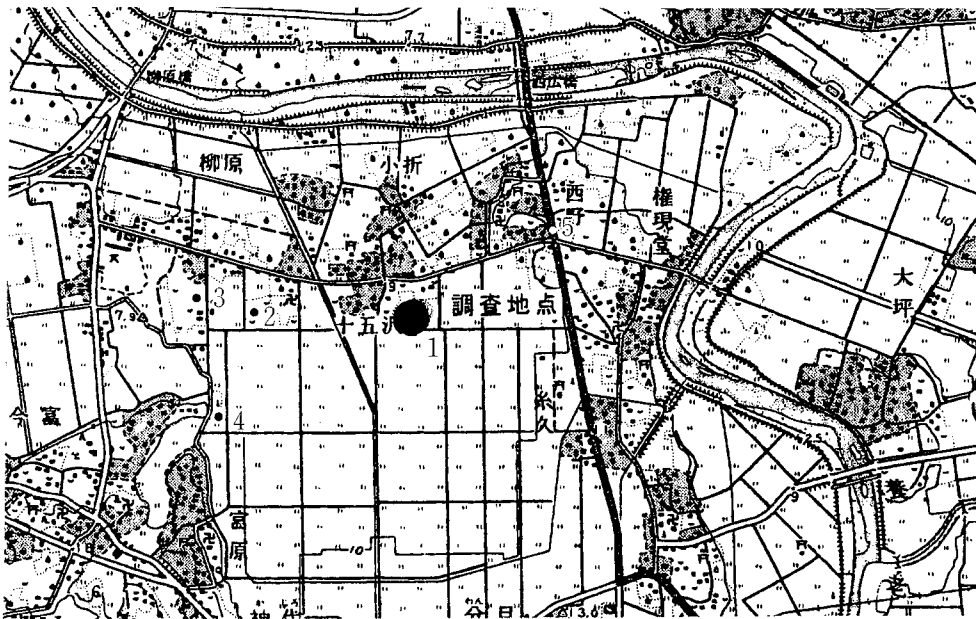
所在地 千葉県市原市十五沢字高沢96-1番地ほか

調査期間 平成11年10月19日～平成12年2月8日

調査面積 2,500㎡のうち250㎡（確認調査）

調査概要 市原市十五沢地区には、大小の塚が残されている。今回調査を実施した塚は、「花やしき塚」と呼ばれる方形の供養塚であった。調査は、塚の形状・築造の時期・目的ならびに下層遺構の有無の確認を目的とした。作業は、下草刈から始めた。草刈作業の後は、現状の写真撮影と10～20cmコンター図の作成から調査を開始している。塚の確認にあたっては、塚中央部から四方向にトレンチを配置し、これの表土除去を行って出土遺物の記録等を行った。出土遺物には瓦（三州瓦）陶磁器（近世以降）、鉄製品（牛を繋ぐ金具）、及び礎石が見られた。礎石は人頭大の自然石で、据え付け穴を被覆して宝永年間の降下火山灰が部分的に確認されているところから見て、近世以前に建設された建物の礎石と考えられた。建物規模は、礎石の残りが部分的であったため、明らかにはできていないが、塚の中央部の狭い範囲であることと想定される間尺の狭さからみて、小規模なものと想定できる。また、礎石にはレベルの異なる2群が観られ、同一地点での建替えも想定される。おそらくは小祠が存在していたものであろう。塚南側の畔からこの建物に向って小径状の窪みが続いている。これが参道であろう。建物の直下や塚の四隅について精査を行ったが、地鎮や鎮壇の痕跡を発見することはできなかった。出土した瓦は量的に少なく、この建物に葺かれた物とは考えにくい。

表土面における記録作業終了後には、旧地表面までトレンチを掘り下げ、下層における遺構の有無を確認した。塚の周囲については、塚から延長したトレンチによる周溝等の有無確認と併せ、別途に4ヶ所の確認トレンチを配置して遺跡の内容把握に努めた。しかし、遺構は確認できていない。塚は土層の観察状況などから見て、古墳等の改変によるものではないことが想定された。（田所 真）

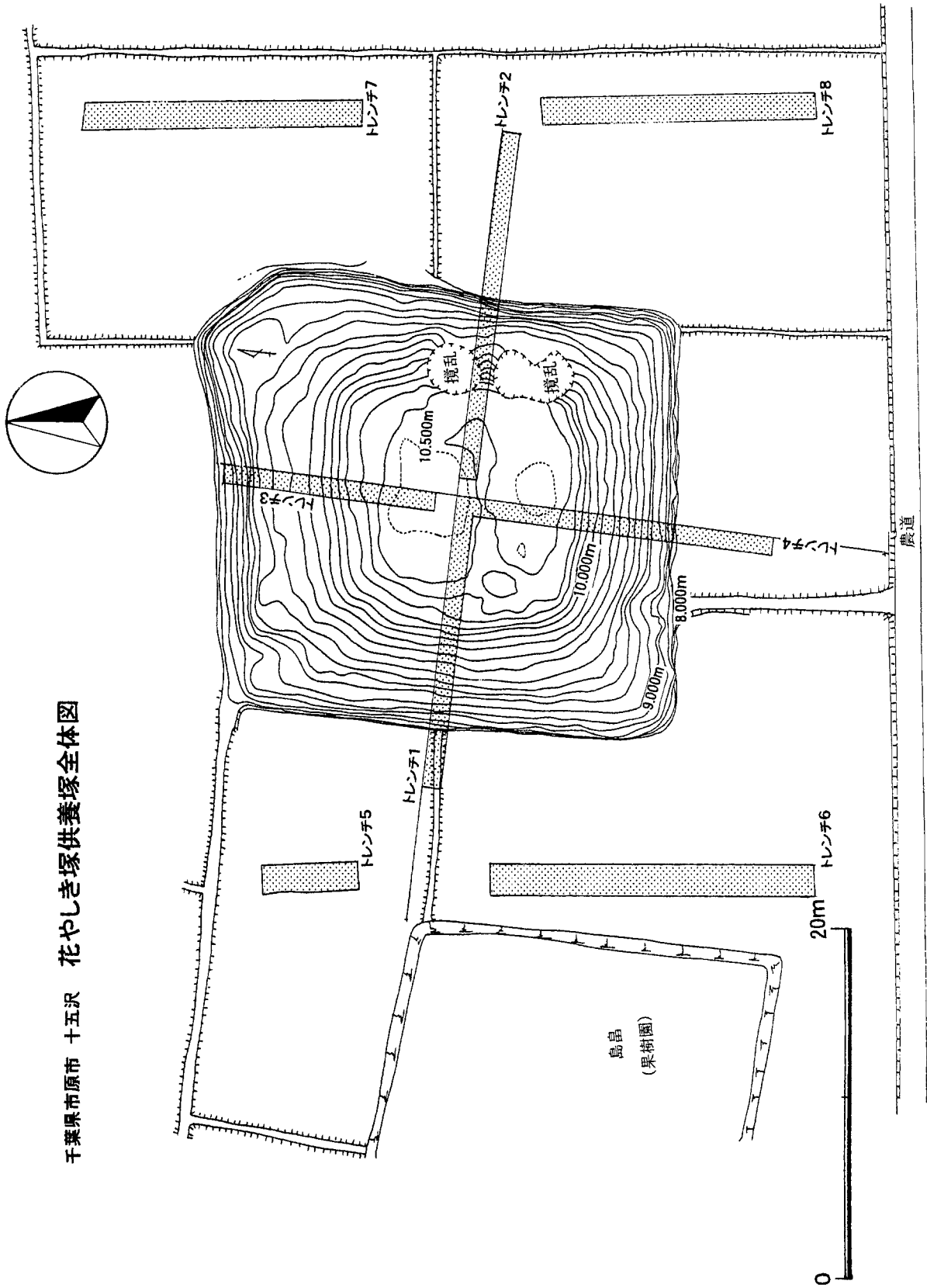


1. 花やしき塚
供養塚
2. 十五沢遺跡
3. 今富庵寺跡
4. 今富遺跡
5. 西野遺跡

(S=1/25,000)

図1 花やしき塚供養塚と周囲の地形

千葉県原市 十五沢 花やしき塚供養塚全体図



こうざかぼうがやつ
13. 高坂棒ヶ谷遺跡 (第2次) (第3次)

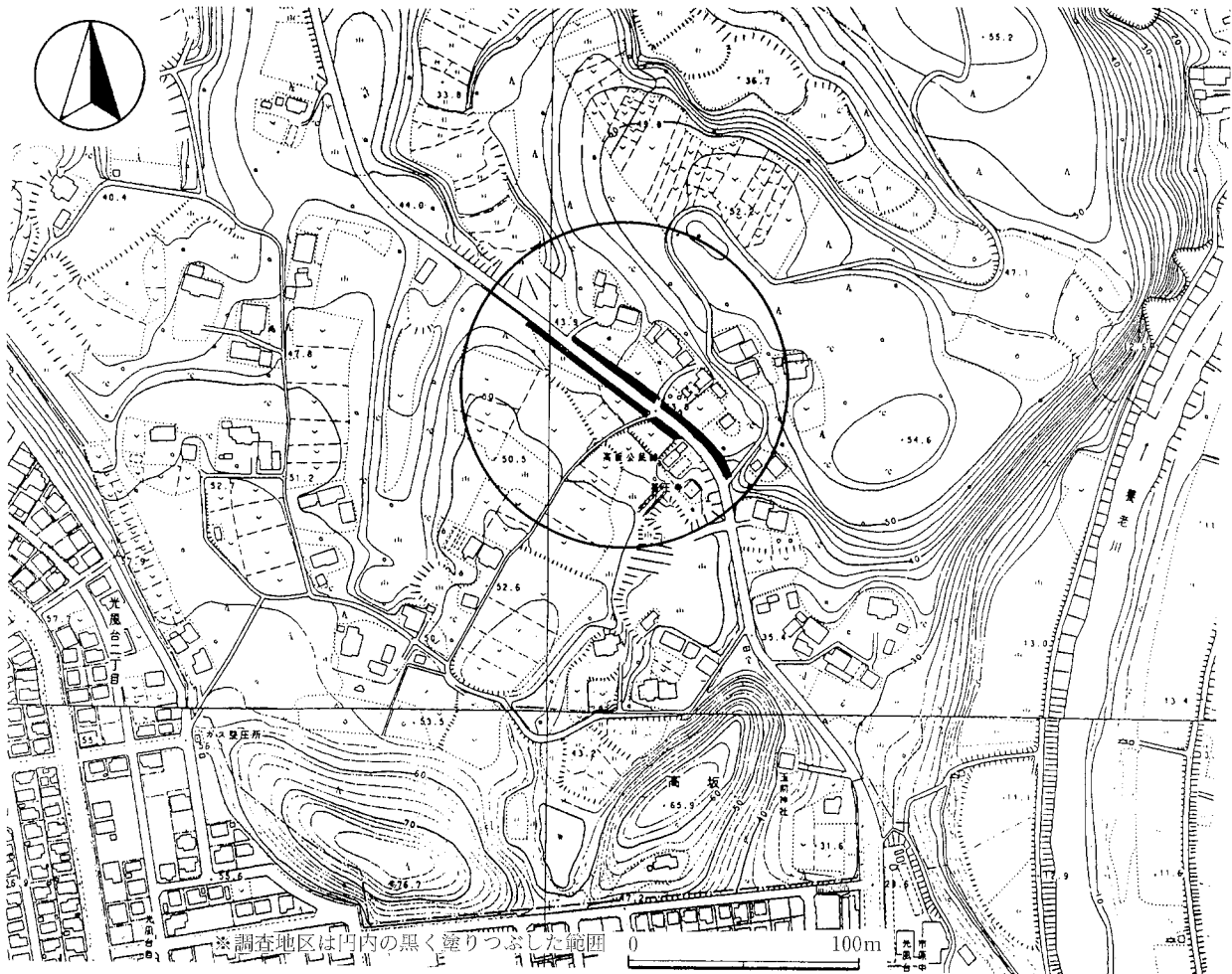
事業名 市道13号線 (高坂) 埋蔵文化財調査委託 (確認調査)
市道13号線 (高坂) 埋蔵文化財調査委託 (確認調査) (その2)

所在地 市原市高坂230-1、231-4～7、14地先 (第2次)
市原市高坂235-1～2、236-1、249-4地先 (第3次)

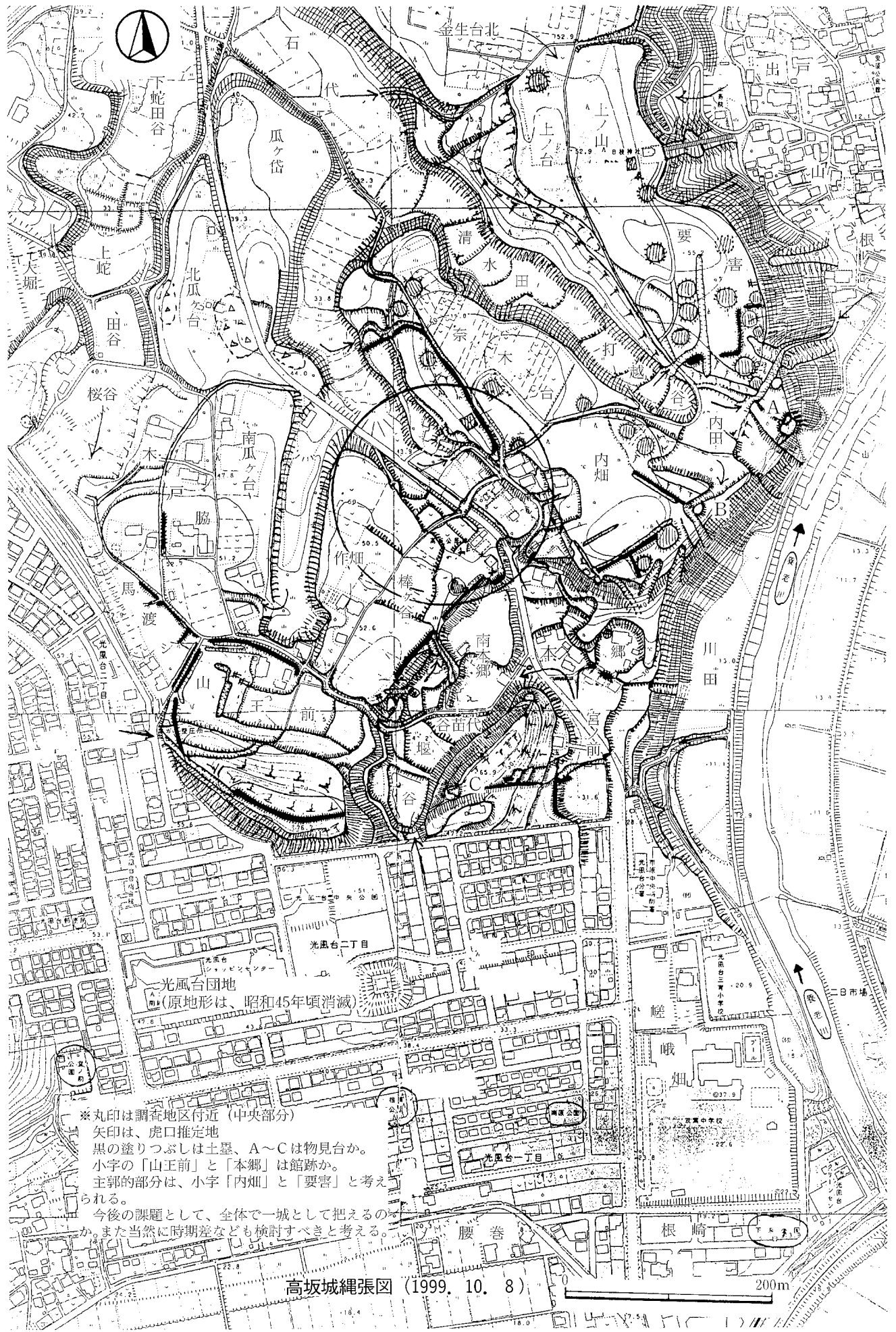
調査期間 平成11年6月7日～同年6月18日 (第2次)、平成11年9月21日～同年10月8日 (第3次)

調査面積 230㎡のうち54㎡ (第2次)、370㎡のうち37㎡ (第3次)

調査概要 当遺跡は養老川中流域左岸台地上に立地し、調査地点は台地縁辺部の小谷が南東側より入り込んだ頂部に位置する(また、北西側からも小谷が入り込んでいる)。現況は畑、山林、荒地であった。調査は2回 (第2次、第3次) に分けて実施し、道路の拡張という制約から幅は最大でも約3mで、長さは両脇を合わせて約250mの長さの範囲である。トレンチは、一部を表土から人力で行い、深さが2mを越える部分もあった。調査の結果、北東側で中世と考えられる方形竪穴状遺構3基と土坑9基を確認した。方形竪穴状遺構は一辺3m前後とみられ、土坑は墓壇と考えられるが、いずれも全掘出来ず、伴出遺物も出土していない。付近一帯に周知されている「高坂城跡」に関する遺構であろう。この他には、縄文土器や土師器片、須恵器片が検出されている。なお、トレンチ内の他の土坑や溝は、風倒木痕や近世以降の所産である。 (田中清美)



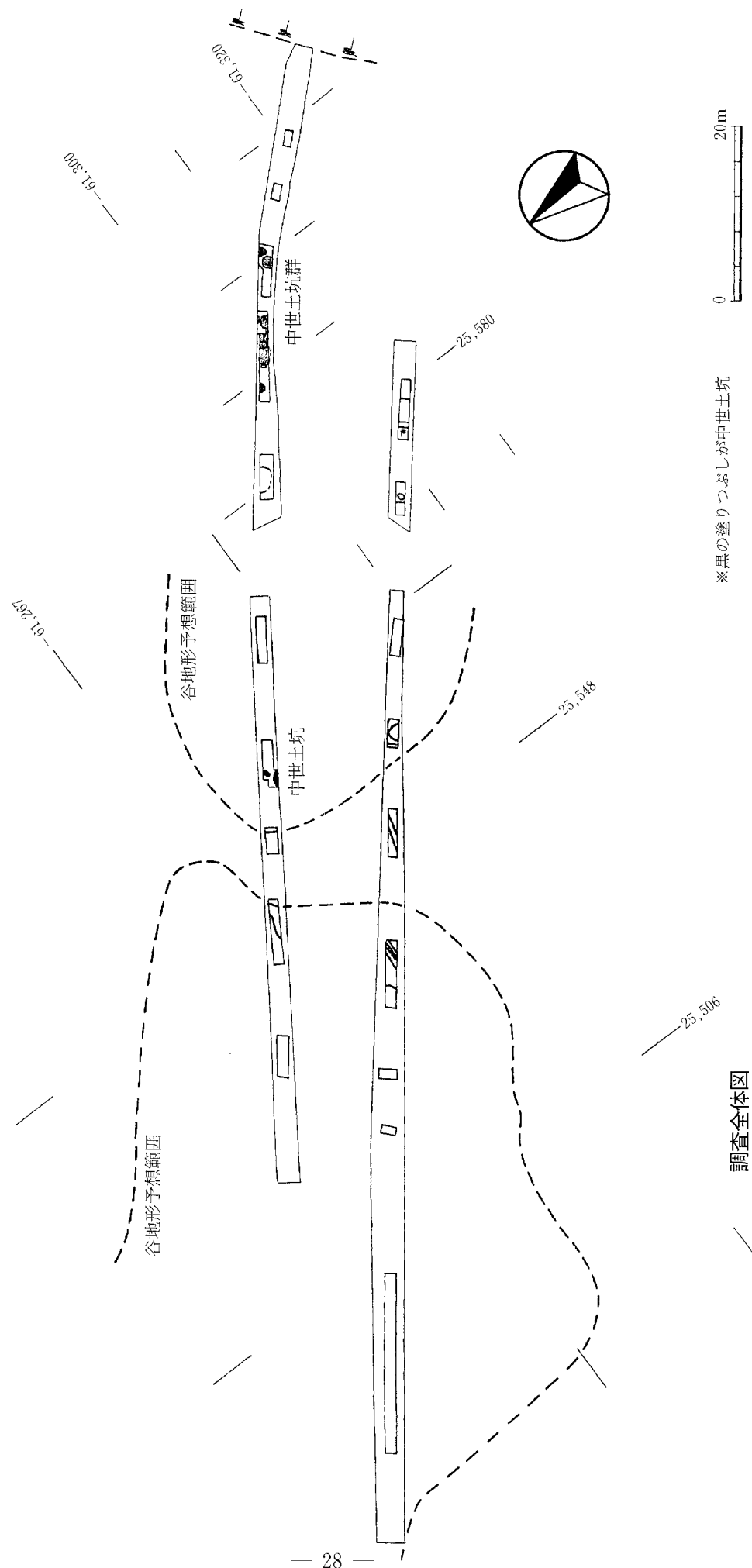
位置図



※丸印は調査地区付近（中央部分）
 矢印は、虎口推定地
 黒の塗りつぶしは土塁、A～Cは物見台か。
 小字の「山王前」と「本郷」は館跡か。
 主郭的部分は、小字「内畑」と「要害」と考えられる。

今後の課題として、全体で一城として把握するのが、また当然に時期差なども検討すべきと考える。

高坂城縄張図 (1999. 10. 8)



14. 草刈遺跡

事業名 草刈地区第1種無線基地局建設に伴う埋蔵文化財調査（確認・本調査・整理報告）

所在地 千葉県市原市草刈字扇谷1332の一部

調査期間 平成11年5月24日～平成11年5月26日（確認調査）

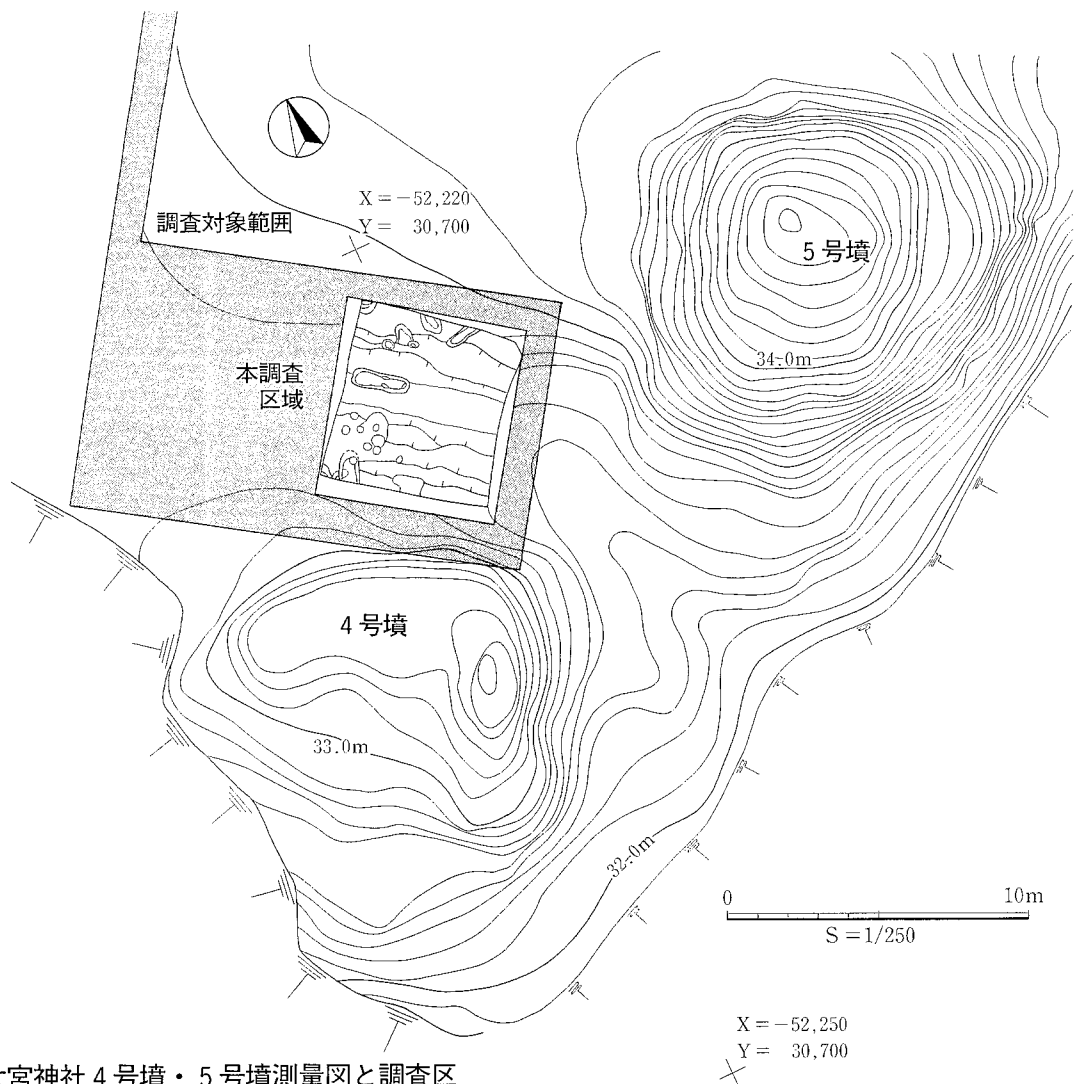
平成11年5月26日～平成11年6月3日（本調査）

調査面積 150m²のうち36m²

調査概要 調査区は広大な草刈遺跡の一角にあたり、千葉県文化財センターによって調査された、草刈2号墳の南側約20mの距離にある。標高は約32mの台地上南縁辺部に位置する。隣接して大宮神社4号墳があり、草刈遺跡全体では総数100基を越える古墳群のうちの1基である。調査区は6m×6mの小トレンチであり、その全体が大宮神社4号墳の周溝内に含まれた形となった。縄文時代中期の環状貝塚である草刈貝塚や、弥生時代後期の大規模な集落も隣接するため、縄文から弥生後期、そして平安時代の遺物までが、覆土と共に流れ込んでいる状態であった。

大宮神社4号墳は従来円墳として周知されてきたが、この調査によって、方墳であることが判明した。詳細は下記報告書によりたい。（牧野光隆）

牧野光隆『市原市草刈遺跡II』財団法人市原市文化財センター 2000年



大宮神社4号墳・5号墳測量図と調査区

15. 白塚台遺跡

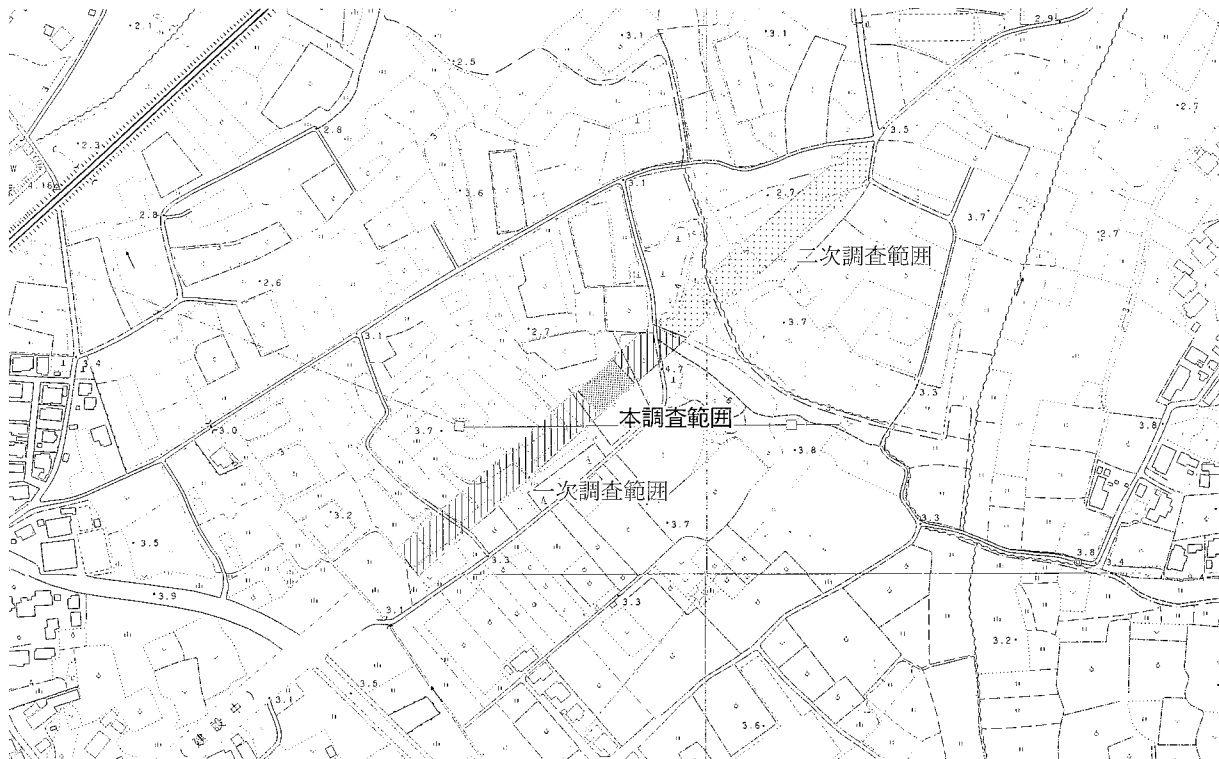
しらつかだい

事業名 八幡椎津線（白塚）建設に伴う埋蔵文化財調査
所在地 市原市白塚296-3他（一次調査）、市原市島野925-2他（二次調査）
調査期間 一次調査 平成11年6月8日～7月6日（確認調査）、9月27日～11月30日（本調査）
二次調査 平成11年10月25日～11月30日
調査面積 一次調査 5,100㎡のうち510㎡（確認調査）、730㎡（本調査）
二次調査 4,170㎡のうち417㎡

調査概要 遺跡は、養老川左岸の標高約3mの沖積地上にある。水田と島畑が混在する風景があたり一帯に広がっており、河口に特有な景観を呈している。遺跡分布図では周辺一帯が遺物の散布地として周知され、近隣には三山塚が築かれている。この塚が乗る地点は標高約8mと、周辺からはやや突出した高さである。小規模な砂丘を思わせる。また、「上古屋敷」という小字などから中・近世の城館跡の存在が想定されている。

調査は、6月～7月にかけて5,100㎡に対する確認調査を実施し、その結果をうけて730㎡について本調査を実施した（一次調査）。この本調査に平行して、4,170㎡に対する確認調査を行った（二次調査）。一次調査では、貝ブロックを含む中世の溝や、古墳時代の土坑などが検出された。遺構の確認面は、シルトを含む砂層で、一部に黒色の砂層との互層が見られたところもあり、浜提の堆積を思わせる。この浜提の時期は不明であるが、直上から古墳時代前半の遺物が出土しているところから、遺物の時期と大きく隔てないころは、かなり海が近かったようである。なお、今回の調査のなかでは、城館跡の痕跡は見出せなかった。二次調査では、良好な遺構、遺物の検出にはいたらず、確認調査のみで終了した。

（高橋康男）



白塚台遺跡位置図 (1/5,000)

16. 加茂遺跡 (D地点)

事業名 宅地開発に伴う埋蔵文化財調査 (確認調査)

所在地 市原市西国分寺台2丁目17番地17他

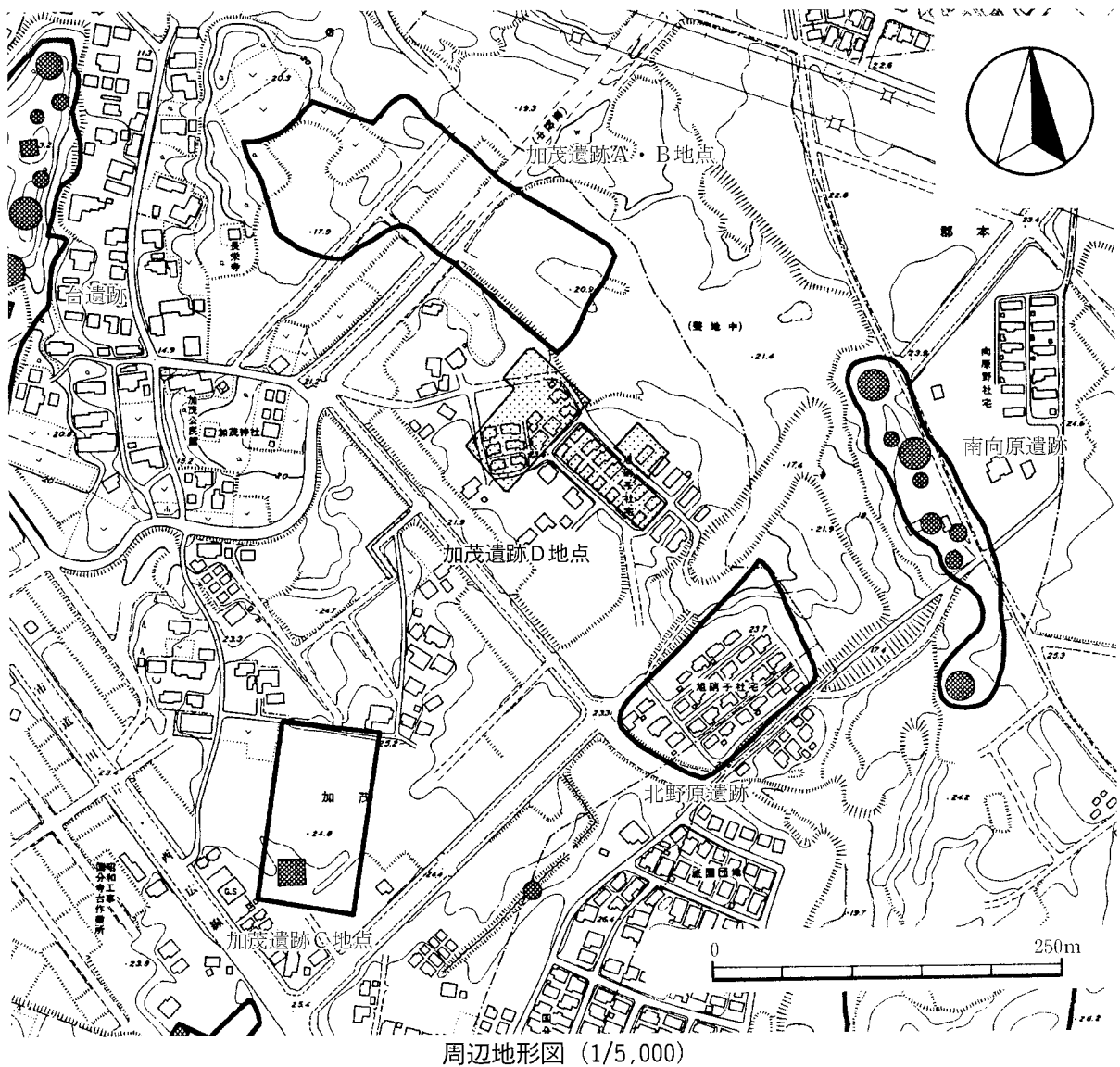
調査期間 平成11年7月6日～平成11年7月26日

調査面積 7220.96m²のうち722m²

調査概要 調査地点は、国分寺台土地区画整理事業に伴って発掘調査された加茂遺跡A・B地点の南に位置する。

調査は、2m×4mのトレンチを現況の区画を基準に設定して行った。遺構確認面のソフトローム上面までの深さは、おおむね50～60cmであった。遺物包含層は概して薄く、遺物の出土量も遺構の数の割には少量であった。

確認された遺構は、古墳時代後半の竪穴建物跡35棟・掘立柱建物跡2棟・土坑3基、奈良・平安時代の竪穴建物跡1棟・掘立柱建物跡2棟・溝跡5条・道路跡1条・土坑1基である。(小橋健司)



18. ^{ふくます}福増遺跡群 ^{おおしみず}大清水遺跡

事業名 文化の森整備事業に伴う埋蔵文化財調査委託（確認調査）

所在地 市原市福増144番地他

調査期間 平成11年 8月17日～同年 9月30日

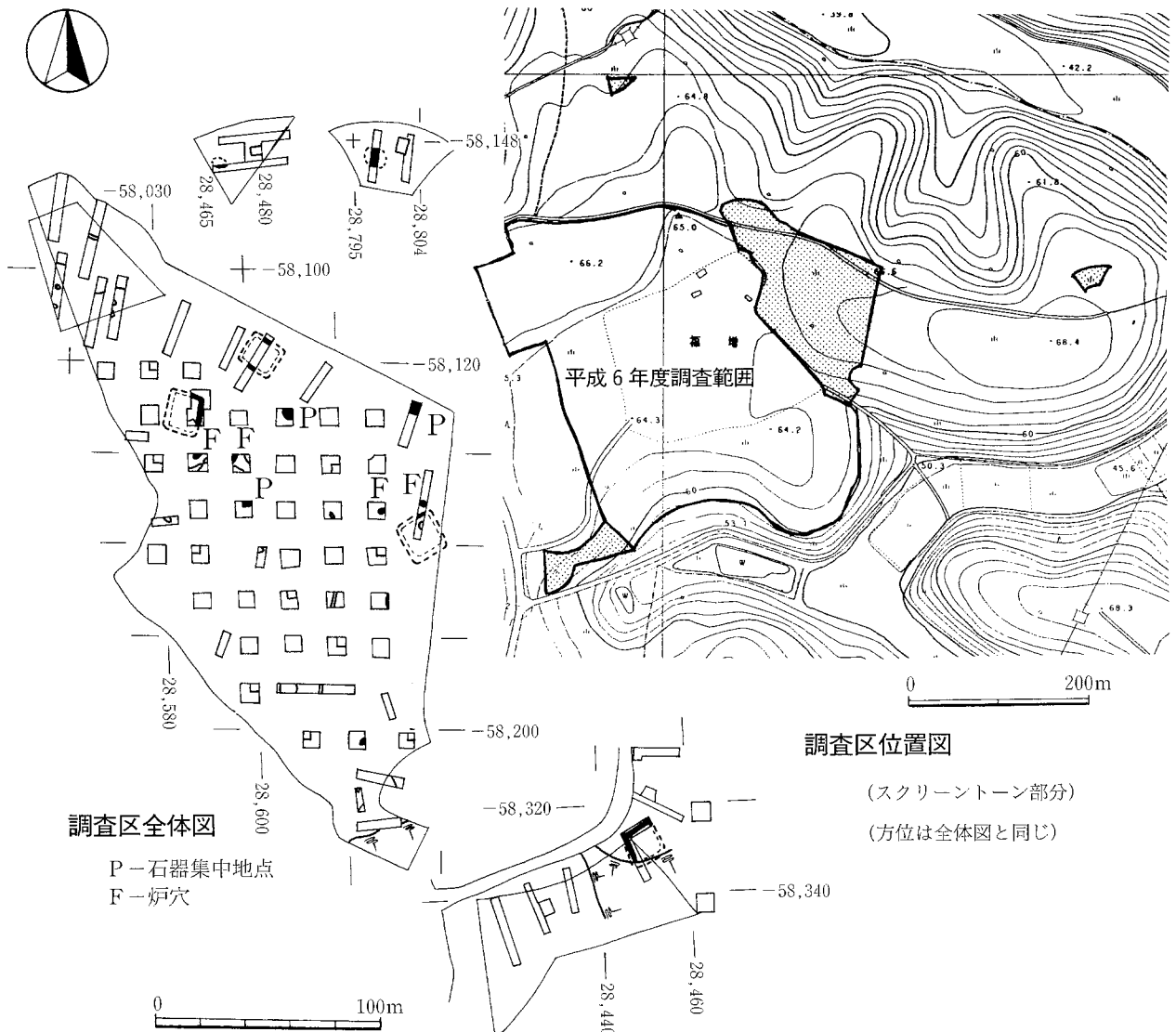
調査面積 8,000㎡のうち800㎡

調査概要 当遺跡は、養老川中流域右岸台地上に立地し、標高は約65m、低地との比高は約25mを測る。平成6年度に50,000㎡の確認調査を実施しているが（平成6年度年報、半田）、今回は残り8,000㎡が対象となった。

調査前の遺跡はクヌギやナラの椎木林と篠竹の茂る荒地であった。

調査の結果、旧石器時代の石器集中地点3ヶ所、縄文時代早期の竪穴住居跡1軒、炉穴4基、土坑4基（うち陥穴1基）、奈良平安時代の方形周溝状遺構4基などを確認した。

以上のように、大清水遺跡は、10%の確認調査ではあったが、平成6年度の調査と同様に、旧石器時代、縄文時代早期、及び奈良平安時代の主に3時期の遺構に特色づけられる。周辺に存在する武士遺跡や山の神遺跡と同様の遺構がみられ、それらとの有機的な関連が考えられる。（田中清美）



19. ^{ふくます}福増遺跡群^{おおしみず}大清水遺跡

事業名 文化の森整備事業に伴う埋蔵文化財調査委託（本調査）

所在地 市原市福増130番地 他

調査期間 平成12年2月24日～平成12年3月9日

調査面積 1,900m²

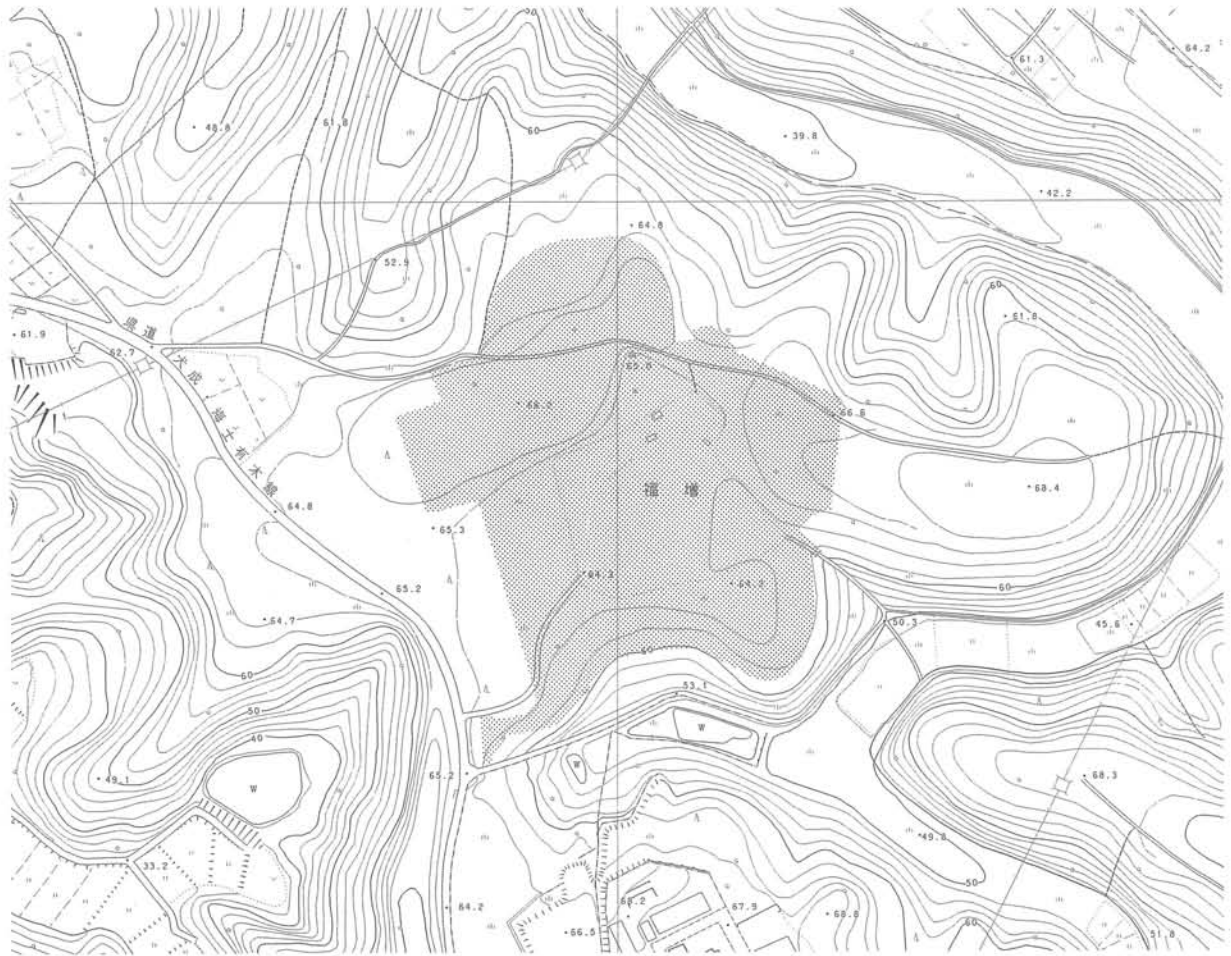
調査概要 福増遺跡群・大清水遺跡は、市原市中部北側に位置し養老川水系によって開析された、樹枝状の小支谷に囲まれた標高64m前後の台地上に存在している。

周囲の遺跡には、財団法人千葉県文化財センターによって発掘調査が行われた武士遺跡群があり、縄文時代中期～後期の竪穴住居跡を中心とする遺構群や、奈良・平安時代と考えられる地下式壙を伴う方形周溝状遺構が検出されている。本遺跡とは間に谷が入り込むものの、台地の標高はほぼ均しいため同様の遺構の検出が予想された。

調査は、文化の森整備事業に伴い実施され、調査地の状況は山林及び荒蕪地であった。調査は本調査に先行して行われた確認調査の結果に鑑み、遺構部分を拡張して記録保存の処置がとられた。調査の結果、縄文時代早期炉穴22基(001～022)・陥し穴1基(023)・土坑1基(024)、古墳時代終末期方墳1基(025)、奈良・平安時代方形周溝状遺構3基(026～028)などが検出された。縄文時代早期炉穴22基は、南側調査区において集中的に検出されたものである。また、古墳時代終末期方墳1基も南側調査区において、検出された。一辺22～23mを測り、周溝断面はなだらかな逆台形を呈する。南側周溝内の覆土下層から7世紀と考えられる土師器高杯が出土した。

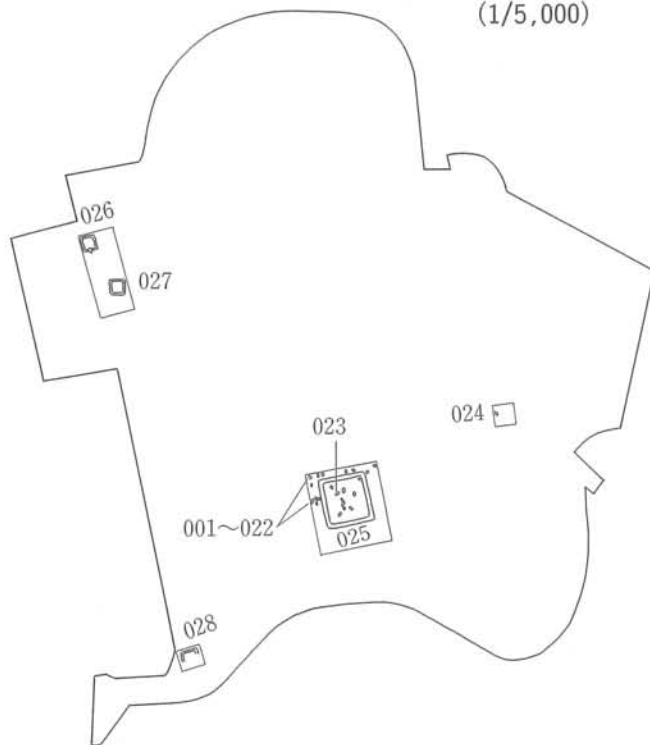
また、北側調査区において奈良・平安時代と考えられる方形周溝状遺構2基を検出した。そのうち北端部に位置する方形周溝状遺構(026)は一辺7m前後を測り、南側周溝のほぼ中央部に主軸長2.5mを測る地下式壙が存在していた。これは、先述していた武士遺跡に展開している方形周溝状遺構の構造に類似するものと考えられる。そして、本遺跡の遺構玄室内には切り出したと考えられる軟質砂岩製の石櫃が埋納されていた。蓋部分はやや扁平なかまぼこ状を呈し、本体部分はほぼ立方体を呈する。これが二個存在し、やや東側にずれる位置で並んで置かれていた。西側の石櫃は、天井からの崩落土で蓋が破損したのか中の火葬骨が露出した状態で検出された。追葬等の前後関係は、現段階では判然としない。玄室内は奥壁等に、掘削工具痕が顕著に残されていたが、他の遺物等は皆無であった。

本遺跡の調査において、南側台地縁辺で縄文時代早期炉穴が集中して検出されたことは周辺に位置する武士遺跡群との比較検討において興味深いと思われる。また、方形周溝状遺構の検出において一辺7m程度の周溝を持つ遺構に地下式壙が存在していたが、付近にあるほぼ同規模の方形周溝状遺構には、地下式壙は存在しておらず、葬送のパターンの違いを感じさせる。また、地下式壙を伴う方形周溝状遺構の内部構造は、本遺跡と武士遺跡群の内部構造はほぼ同タイプと思われるが、市原市北部にある北野原遺跡の方形周溝状遺構における地下式壙の内部構造は、明らかに本遺跡のタイプとは異なっており、地域別における地下式壙の内部構造の違いを指摘できるかもしれない。（小川浩一）



福増遺跡群・大清水遺跡地形図

(1/5,000)



遺構配置図 (1/3,500)



026号遺構玄室 (南から)

20. ^{やわたみはかどう}八幡御墓堂遺跡（本調査）

事業名 八幡宿駅東口土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査（本調査）

所在地 市原市八幡字御墓堂前 820-1 ほか

調査期間 平成11年8月2日～平成11年11月17日

調査面積 1,023m²

調査概要 八幡御墓堂遺跡は旧海岸線付近の砂堆上に位置し、その標高は約3mである。八幡宿駅東口の大規模な土地区画整理に伴い、継続的に調査が続けられている。遺跡の周囲には飯香岡八幡宮など、中世前期からの寺社がある。八幡には小弓公方足利義明（1490頃～1538）に関する伝承も多く、その夫妻の墓と言われている大型の五輪塔2基が、御墓堂墓地に据えられていた。そのため、戦国期にはある程度村落が形成されていたものと考えられる。御墓堂墓地には、中世から近世にかけて付近に存在したといわれる霊応寺の歴代僧侶の墓もあり、そこが霊応寺境内の裏手であった可能性も考えられる。現在、御墓堂墓地は整理事業に伴い移転している。

今回の本調査は、平成8年度および平成10年度につづく通算3度目にあたる。前回までに見つかった遺構は、室町時代の道跡とそれに沿う溝の跡である。道は、山側の市原条里制遺跡方面から御墓堂墓地をつなぐ方向であった。路面の規模は小さく、幅約0.8mから2mであるが、砂を何層にも敷いて固めてあり、当時の頻繁な往来をうかがわせるものである。この道は、大きく3回にわたって敷き直されていた。一番下にある最も古い路面は室町時代の初め頃（14世紀中頃）のものであり、その次は中世も終わりが近づく戦国時代（16世紀）とみられる。両側に溝が掘りこまれていたのは最初のうちだけであり、戦国時代にはすでに埋まっていたようである。そして下から3層目の路面は江戸時代になって、周囲が水田として利用されてからであった。今回の調査区は、前回調査区の南東側隣接地のため、道路と溝の続き部分が検出されることはある程度予想できた。

調査の結果、道は調査区域中程で、Y字型に分岐していることが判明した。最初に道が造られた室町時代当時、御墓堂側からみて右側の筋が本線で、それに左側の道をつけて分岐していることもわかった。左右の道の新旧関係は土層断面より明らかであったが、出土遺物をみると時期に大きな差はないようである。そして、路面を南側にややずらしながら、昭和20年代まで使用されていた。

溝は道に沿うようにして掘られていたが、途中で直角に曲がる溝もあった。その機能としては、排水もしくは区画が挙げられよう。住居などの建物跡はみつかってはいないが、付近にあることは間違いない。そのことは、出土した遺物からも推測できる。

出土遺物は主に陶磁器および土器である。東海地方産（主に瀬戸・常滑）の陶磁器が多くあり、器種は大皿・小皿・すり鉢・こね鉢・壺・甕などの日常雑器類である。破片の状態で散乱して出土しており、形が復元できるものはほとんどない。これらは周辺から堆積土とともに流れ込んだ状態と考えられる。廃棄もしくは洪水などによる被害であろうか。遺物を観察すると、使い込まれてすり減った破片が多くあり、長年大切に使用されてきた様子がうかがわれる。

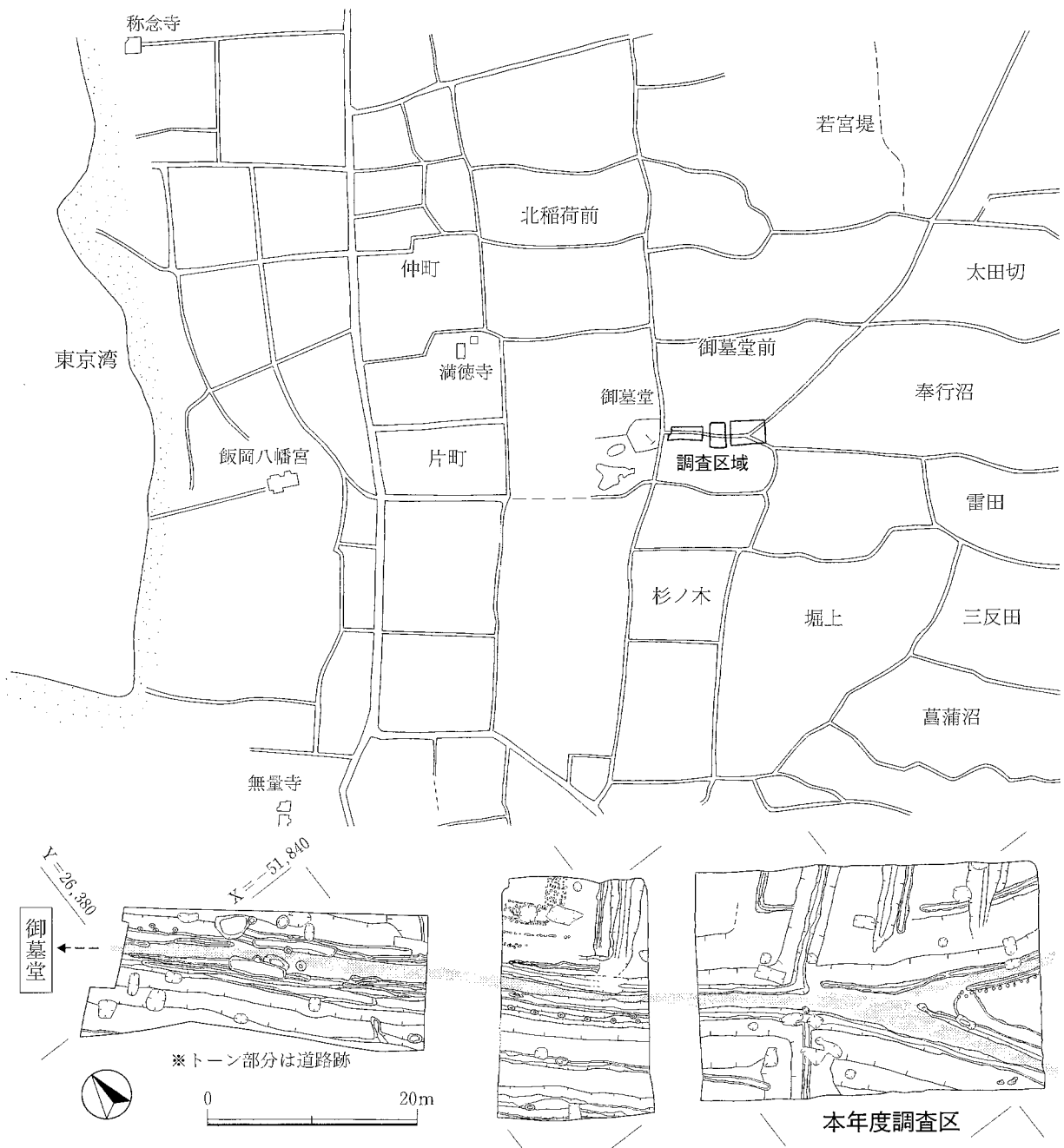
出土遺物の中には、中国産の磁器40点や南伊勢系鏝釜なども含まれており、当時の東京湾岸における豊かな物流の一端を垣間見ることができよう。

他に目立った遺物として、漁網用の土錘が102点（今回調査分）出土している。これまでの調査での

出土分とあわせると、200点以上になる。これは、海に近い立地であるため不思議なことではない。ただ、このことから、付近に人々が暮らしていたことがわかる。そして、その生活のなかで漁労活動が盛んであったことを裏付ける資料である。

中世室町時代の八幡の風景、そしてそこに暮らす人々が、この遺跡の発掘調査によって少しずつ見えてくるのである。
 (牧野充隆)

- 文献1 櫻井敦史「3. 八幡御墓堂遺跡」市原市文化財センター年報 平成8年度 2000
- 文献2 牧野光隆「八幡御墓堂遺跡」第15回市原市文化財センター遺跡発表会要旨 1999
- 文献3 田中清美「1. 八幡御墓堂遺跡」市原市文化財センター年報 平成10年度 2001
- 文献4 牧野光隆「2. 八幡御墓堂遺跡」市原市文化財センター年報 平成10年度 2001



やわたみ はかどう

21. 八幡御墓堂遺跡（確認調査）

事業名 八幡宿駅東口土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査（確認調査）

所在地 市原市八幡字御墓堂前821-1 ほか

調査期間 平成11年8月9日～平成12年2月16日

調査面積 1655.78㎡のうち166㎡

調査概要 八幡御墓堂遺跡は、平成8年度から3回にわたって中心部付近の本調査が行われた。その調査で、山側から2本の道筋が合流して現在の御墓堂墓地方面へとつづく道路跡が発見された。道路の使用時期は、中世室町時代から江戸時代を通じて昭和の初期までおよんでいることがわかった。

今回の確認調査は、その本調査区域の隣接地2カ所および八幡宿駅前近くの3カ所で行った。そのうち、4カ所に開けたトレンチ名を、便宜上、a区・b区・c区・d区と名付けた（別添図面参照）。

a区とb区およびd区は本調査区域の南西側の隣接地にあたる。d区では、本調査で検出された道路跡に沿うようにして伴う溝の一部と、それに平行する小規模の溝1条、その溝に直交する溝2条が見つかった。a区およびb区でも、道路跡に平行する小規模な溝が5条、大規模な溝1条、そしてそれに直交する溝2条が見つかった。溝の使われていた時期は、出土遺物から、15世紀から16世紀にかけての室町時代であることがわかった。溝以外の種類の遺構ははっきり確認できなかった。

遺跡の海拔は2m前後と低く、絶えず水がわき出ている。これは、中世当時でも変わらない状況であったと想像される。そのため、これらの確認された溝は、道路および開墾に伴う排水溝や区画溝の役目を担っていたと考えるのが妥当であろう。

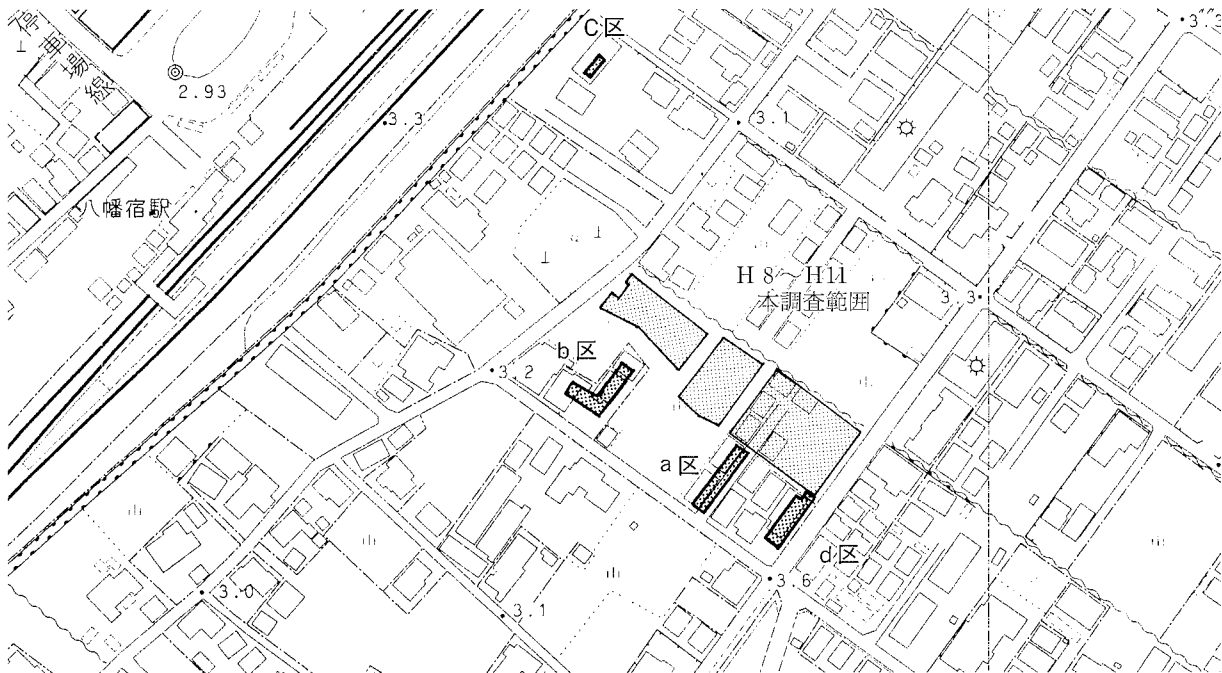
出土した遺物は、主に陶磁器や土器の日常使用するうつわ類である。愛知県の瀬戸や常滑で作られたものが多くあった。これは当然であるが、隣接地の約2,000㎡の本調査時と同様の傾向である。室町時代の八幡は、飯香岡八幡宮などの寺社の存在が知られていた。さらに、この御墓堂遺跡の一連の発掘調査によって、いわゆる「民衆」の生活を垣間見ることができたことは、大きな成果と言えよう。

（牧野光隆）

文献1 櫻井敦史「3. 八幡御墓堂遺跡」市原市文化財センター年報 平成8年度 2000

文献2 牧野光隆「八幡御墓堂遺跡」第15回市原市文化財センター遺跡発表会要旨 1999

文献3 牧野光隆「2. 八幡御墓堂遺跡」市原市文化財センター年報 平成10年度 2000



八幡御墓堂遺跡調査区位置図

いちほらじよりせい いせききくま とくまんちく
22. 市原条里制遺跡菊間徳万地区B

事業名 若宮都市下水路築造工事に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市菊間1-3番地ほか

調査期間 平成11年8月16日～平成11年9月16日（確認調査）

平成11年9月17日～平成11年10月4日（本調査）

調査面積 1,800㎡のうち180㎡（確認調査） 1,050㎡（本調査）

調査概要 市原条里制遺跡は市原市北西部の村田川と養老川に挟まれた標高約5mの沖積平野に位置する。今回の調査は、平成9年度の調査区の北西側に、道路を挟んで隣接する箇所と、更に北西方向に150m程離れた2箇所において調査を実施した。調査の結果、現表土から地山である砂層までが浅く、近年の耕作による攪乱が著しく、遺構の遺存状況は良好ではなかったが、中、近世の畦畔4ヶ所、溝1条を検出した。遺物は奈良・平安時代の土師器、須恵器、瓦、中・近世の陶器、銭、木製品が出土している。（北見一弘）



市原条里制遺跡菊間徳万地区B位置

あねさきみょうきようじ
23. 姉崎妙経寺遺跡（第5次）

事業名 姉崎駅前土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査（確認・本調査）

所在地 市原市姉崎452番地1地先

調査期間 平成11年10月6日～平成11年11月5日

調査面積 300m²

調査概要 本遺跡は、境内で行われた既往の調査から、古墳群の一部が検出されることが予想されていた。

表土を機械掘削した時点では、現代のゴミ穴などの攪乱が多く、遺構の遺存は悪いと考えられた。しかし、攪乱を除去し、遺構の検出に努めたところ、古墳時代後半の円墳周溝・同土坑6基・中世土壇墓1基・近世掘立柱建物（2×3間）1棟・同土坑38基・同土壁基礎様遺構1条が認められた。

古墳周溝013号内からは、長頸の鉄鎌が出土したのみで、時期の指標となるような土器は見られなかった。周溝の規模から、古墳が調査区の北隣接地に続くのは確実である。

調査区東端から検出された土坑016号は、遺物がほとんどなく、時期の確定が難しいが、中近世の陶器類が全く見られなかったことから、古墳時代のものと捉えた。約2mある覆土の中位より数片の鉄滓が得られたことから、製鉄に関係した遺構である可能性も考えられる。なお、遺構検出面の地山砂層は砂鉄を多く含んでいることが確認されている。

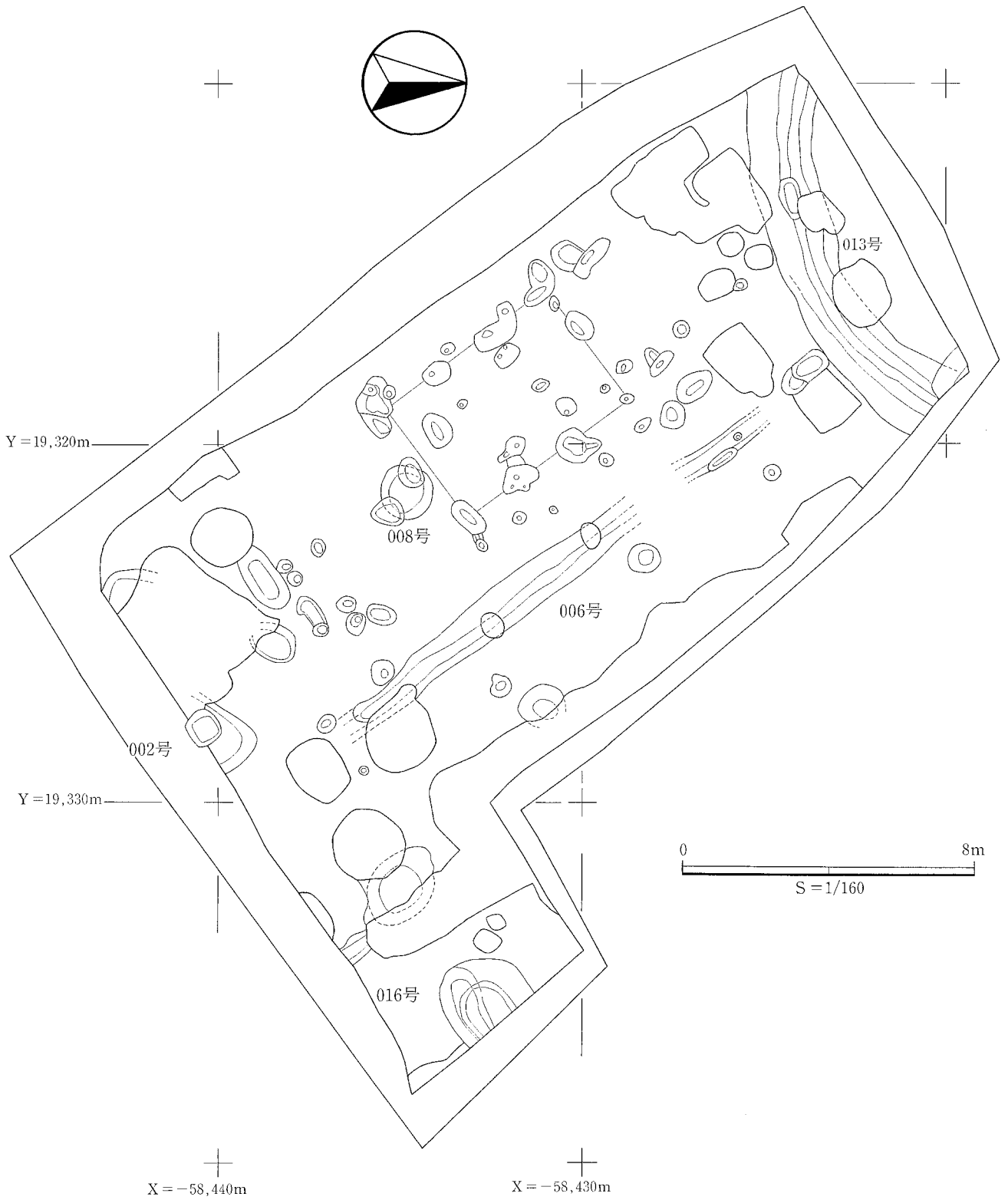
中世の土壇墓008号は、近世の土坑により一部が攪乱されていたものの、遺存部分の状態は良好であった。人骨（1体分）は屈葬横臥の姿勢を示していた。遺物は陶器小片が検出された程度である。

近世の遺構の大部分は、淡い黄灰色の微砂粒・ブロックを含む特徴的な覆土で、確認が容易であった。多くの土坑から陶器・土錘・火打石片などが出土した。南端の土坑002号からは染付の大皿が出土した。

北西方向に延びる土壁基礎様の遺構006号は、地山砂層に溝状の掘形を持ち、焼けた壁土のようなブロックが多く含まれる覆土を持っていた。おおむね妙経寺境内と向きが合うので、近世以降のある時期の境内地の境界を示す施設である可能性がある。そう考えると、掘立柱建物も寺に関係した施設なのかもしれない。

今回検出された古墳は、古墳群が現境内にとどまらず、同じ砂堆上に展開することを示唆している。また、中世の土壇墓は、該期の港湾を中心とした都市・集落に関連する遺跡が近隣に存在することを意味するのかもしれない。今後の調査で妙経寺遺跡の詳細が明らかになることを期待したい。

（小橋健司）



調査区全体図

24. 南岩崎遺跡

みなみいわさき

事業名 市道13号線（南岩崎・西国吉）埋蔵文化財調査委託（確認調査）

所在地 市原市南岩崎227番地他

調査期間 平成11年11月8日～同年12月17日

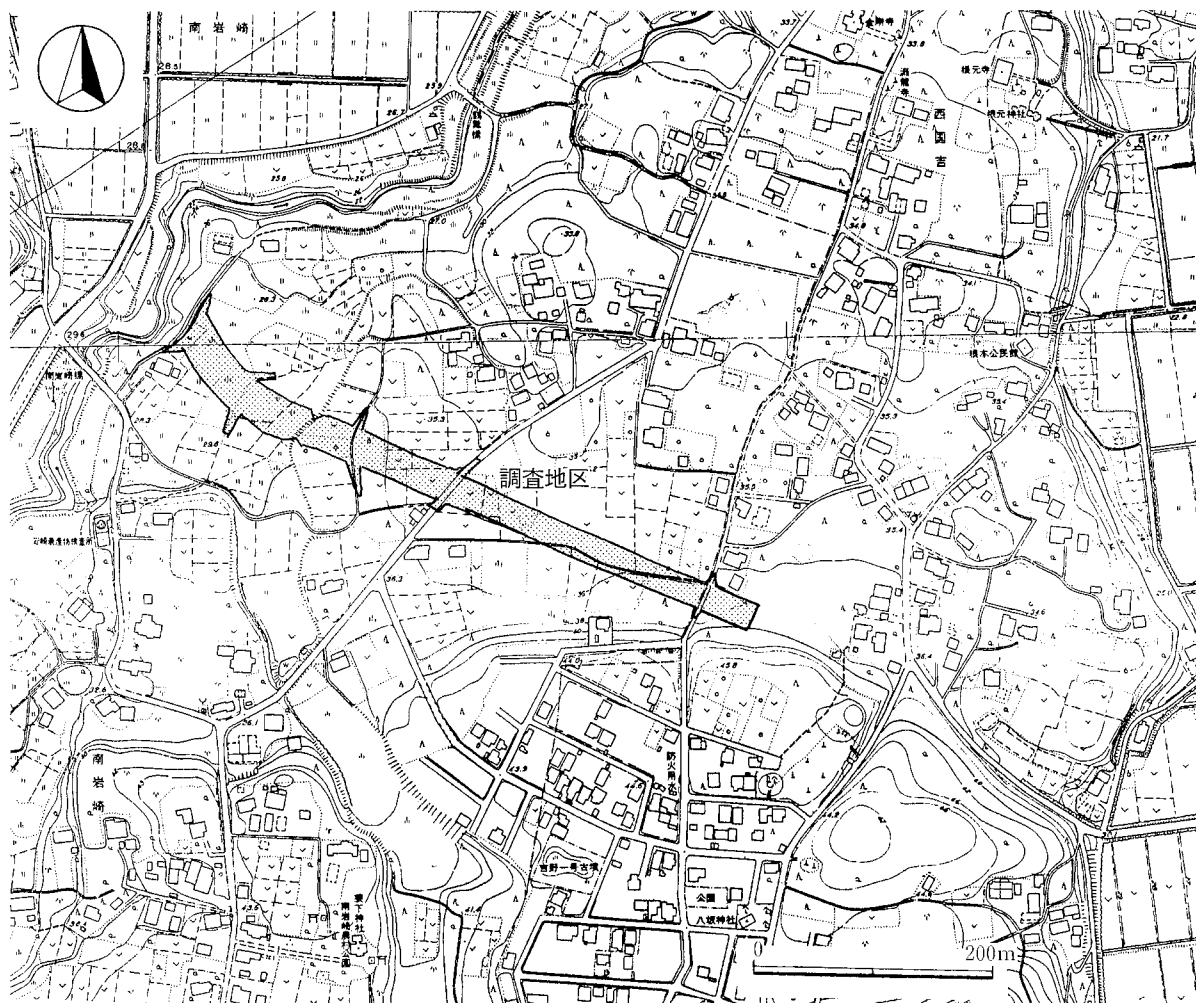
調査面積 7,500㎡のうち750㎡

調査概要 当遺跡は、養老川中流域左岸または養老川支流戸田川の右岸台地上及び河岸段丘上に位置する。調査は、市道13号線建設工事に伴う事前の確認調査で、調査対象面積7,500㎡の10%にあたる750㎡を実施した。調査地は道路用地のため東西に長く、東側は標高約35mの台地上、西側は標高約28mの河岸段丘上である。低地との比高は各々東側が約10m、西側は約2mである。

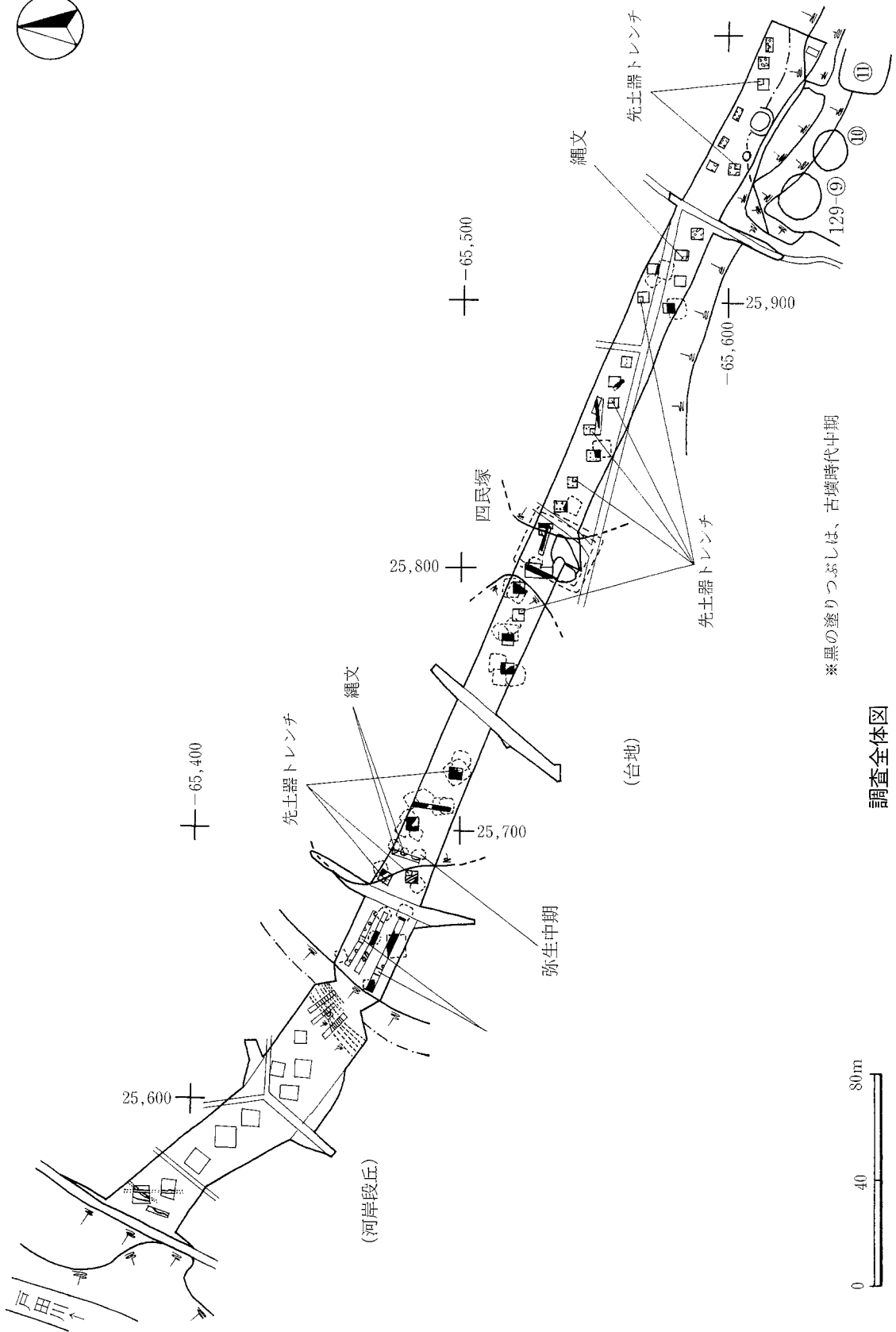
調査の結果、東側の台地では平坦と考えられた地形が原地形は少し起伏をもち、ローム層は最大で約50cmだけの残存であった。また、西側の河岸段丘上では、ローム層は残存せず、一部では約1m弱の深さで水没する状況であった。検出した遺構は、東側台地上で縄文早期の土坑3基（うち陥穴1基）、弥生中期の竪穴住居跡1軒、古墳中期の竪穴住居跡32軒、方墳1基⁽¹⁾（一辺約25m）などを確認した。西側の河岸段丘上では古墳中期の土坑1基と近世以降の溝5条などを確認している。

以上のように、東側台地上には特に古墳時代中期の大規模な集落を確認した。（田中清美）

註(1) 将門伝説が残り、文化年間に大刀が出土して近くの養毛神社に納められたと伝えられる「四民塚」に相当する。（市原郡誌、上総町村誌）



位置図— 42 —



※黒の塗りつぶしは、古墳時代中期

調査全体図



25. ^{あねさきさんしん} 姉崎山新遺跡（第2地点）

事業名 八幡椎津線（姉崎）建設工事に伴う埋蔵文化財調査（確認・本調査）

所在地 市原市姉崎1722-2番地先他

調査期間 確認調査 平成11年11月15日～平成11年12月27日

本調査 平成12年1月17日～平成12年3月24日

調査面積 確認調査 7040m²のうち704m²

本調査 3400m²

調査概要 **確認調査**：本遺跡は、明神小学校校庭部分については、隣接地区の棗塚遺跡の調査成果から中世の遺構が、北東部分では、大型前方後円墳である姉崎二子塚古墳に関連する集落・施設が検出されることが予想されていた。

調査は、湧水がほとんどの地区で想定されたことから、長いトレンチを設定して行った。

校庭部分（南部調査区）では、地形図や字名（「丸田」）から低湿な環境を予想してはいたものの、校庭盛り土の厚さが1mを超えることもあり、遺構確認面（現地表土下約2～3m）で常に水が湧き、調査は困難をきわめた。しかし、仮設電気を設置し、常時水中ポンプを稼働させることで排水を行い、精査したところ、縄文時代晩期初めの土器を多く含む土層を確認できた。

つづいて調査した中部は、校庭部分で検出された縄文晩期包含層の続きを想定していたが、同時代の遺構・遺物は見つからなかった。中世の溝が検出されたが、遺構・遺物とも、隣接する棗塚遺跡のような密度は感じられず、居住域の中心部分からははずれていると考えられた。

北部調査区は二子塚古墳に近接することから、最も期待の高かった部分であるが、予想に反して、確実に古墳時代中期に属するものは検出されなかった。出土遺物のほとんどが中世以降のものであることから判断すれば、後世の開発により、掘り込みの浅かった一部の遺構は削平されてしまったものと思われる。また、本地区では、ほぼ完全な甕形土器の出土した弥生時代中期の竪穴建物が見つかるという、市内の沖積地では貴重な成果が得られた。

本調査：以上のような確認調査の結果を受け、本調査に移行した。本調査は、北からA・B・C・D区と分けておこなった（図1）。

A・B区（図1）では、ほとんど湧水がなかった。A区では、確認調査で捉えていた弥生時代中期（宮ノ台式期）の竪穴建物1棟と、中近世の整地跡・溝が検出された。遺物はあまり得られなかった。B区は、同じく弥生中期の竪穴建物3棟・古墳時代掘立柱建物（2×3間）1棟・中近世の道路・溝が見つかった。現在においても、両区域はちょうど砂堆の最高地点に近いところにあたるので、集落が立地するのに適していたと思われる。なお、竪穴建物の一つからは上述の土器（写真）と有孔磨製石鏃が出土している。掘立柱建物は、遺物がほとんど無く、また、弥生中期竪穴に埋積した、古墳前期の土器が多く検出された黒色砂層との切り合いが不明であるため、時期の確定には至らなかった。

C区（図1）は、地形的には、A・B区の高まりから、D区の谷状地形に向かって徐々に低くなっていく、漸移的な部分にあたる。遺構は、弥生中期宮ノ台式期の土坑と、中世の溝が見られた。中世の溝は砂堆の向きにほぼ一致していた。

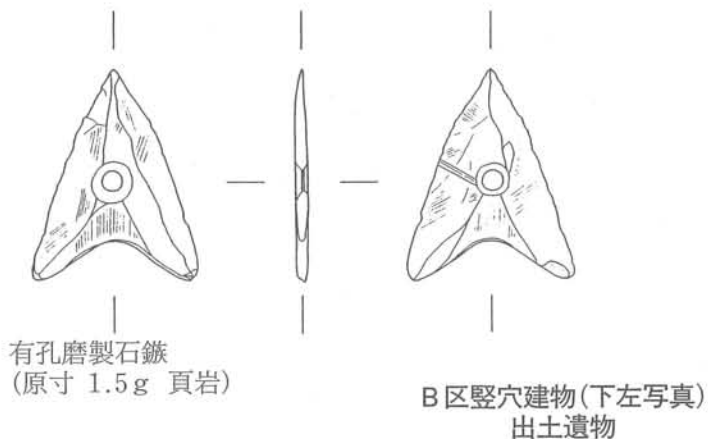
D区（図2）は、近辺の砂堆列の方向に制約された谷状地形が認められ、その埋積土から縄文時代

晩期前半を中心とする土器・石器・木製品・自然木が大量に出土した（埋文用コンテナ約350箱分）。自然木と土器でほとんどが占められ、わずかに骨角類が1箱弱出土した程度で、貝はまったく検出されなかった。なお、この部分の遺物の取り上げは、1mグリッドを設定し、極力層位毎に行った。

大量の遺物が出土した流路状の部分は、低湿地遺跡でよく見られるような泥炭状の粘土質の層が顕著でなかった点と、遺物を包含する層が、 $\phi 10\text{mm}$ を超えるものはごく少なかった様だが、砂礫（中礫まで）を主体とする層である場合が多かった点から、単純に、沼沢地のように水がたまったところに土器を捨てた結果できた土器溜まりなのではなく、当時の集落に隣接する土器捨て場（土器塚？）のような部分から土器が流されて二次的に発生したものである可能性が考えられる。ただ、ほとんどの土器片がそれほど摩滅していないので、流されてきたとしても、近傍からであろう。遺物がそのようにして溜まった後に、流路になったり、滞水したりを繰り返し、徐々に埋積していったと考えられる。この地形が完全に埋まった時期については、今後の整理作業の進展でより明確になるものと思われるが、現場での遺物出土状況などの印象からは、それほど土器の時期から下らないものと感じられた。

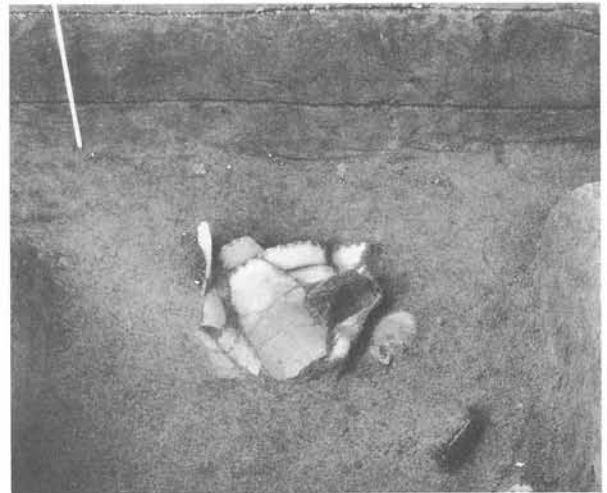
ところで、出土土器には、内面にオコゲ状の炭化物がこびりついている例が多数認められる。これらになんらかの自然科学的分析を施せば、興味深い成果が得られるものと思われる。

D区で検出された縄文晩期の遺構・遺物は、A・B区で確認された弥生中期の遺構とともに、重要な発見であった。これらの成果は、また、近隣における縄文晩期の集落・弥生中期の生産域の存在をも示唆しているので、今後の調査にそれらの発見を期待したい。（小橋健司）



有孔磨製石鏃
(原寸 1.5g 頁岩)

B区竖穴建物(下左写真)
出土遺物



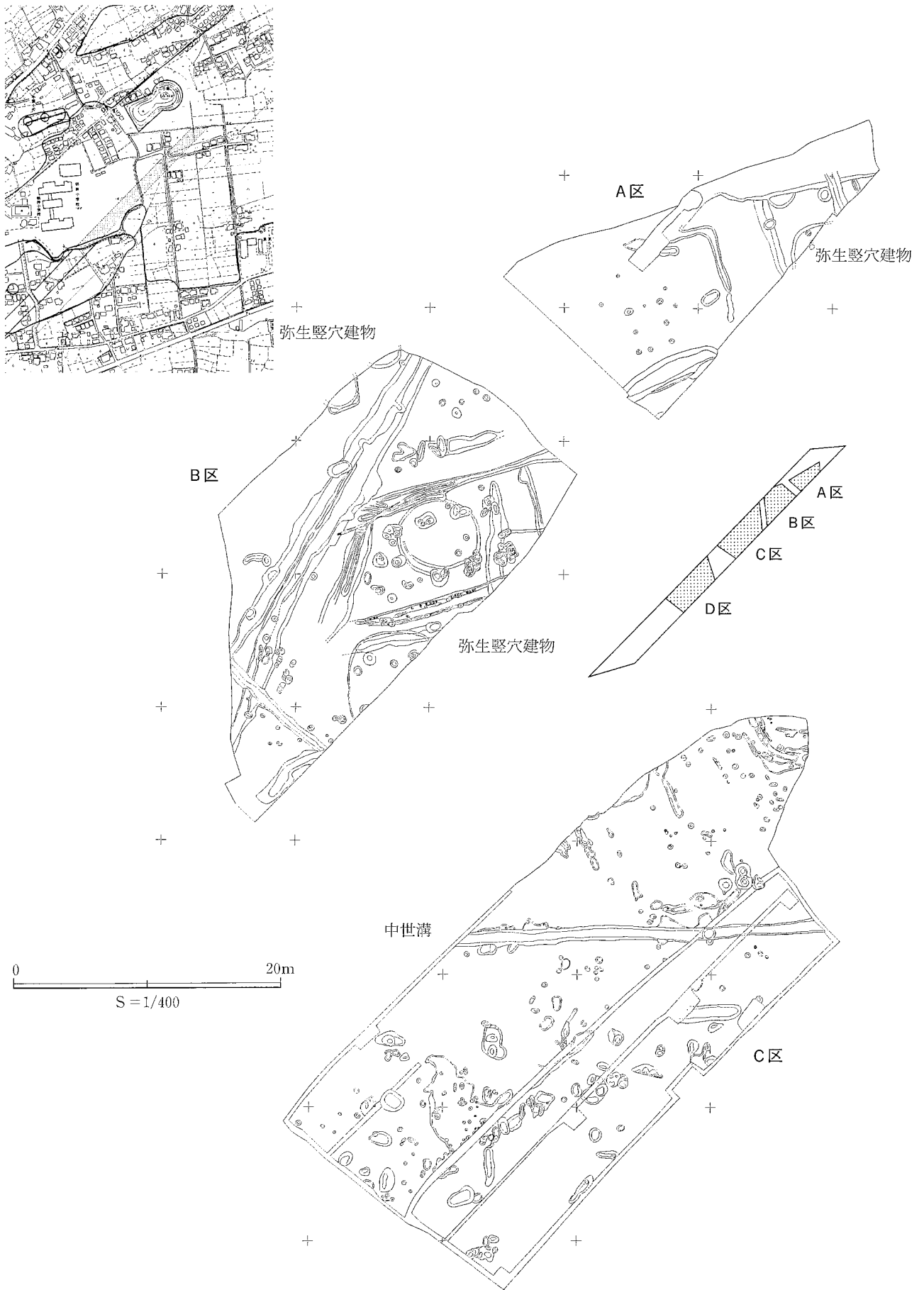
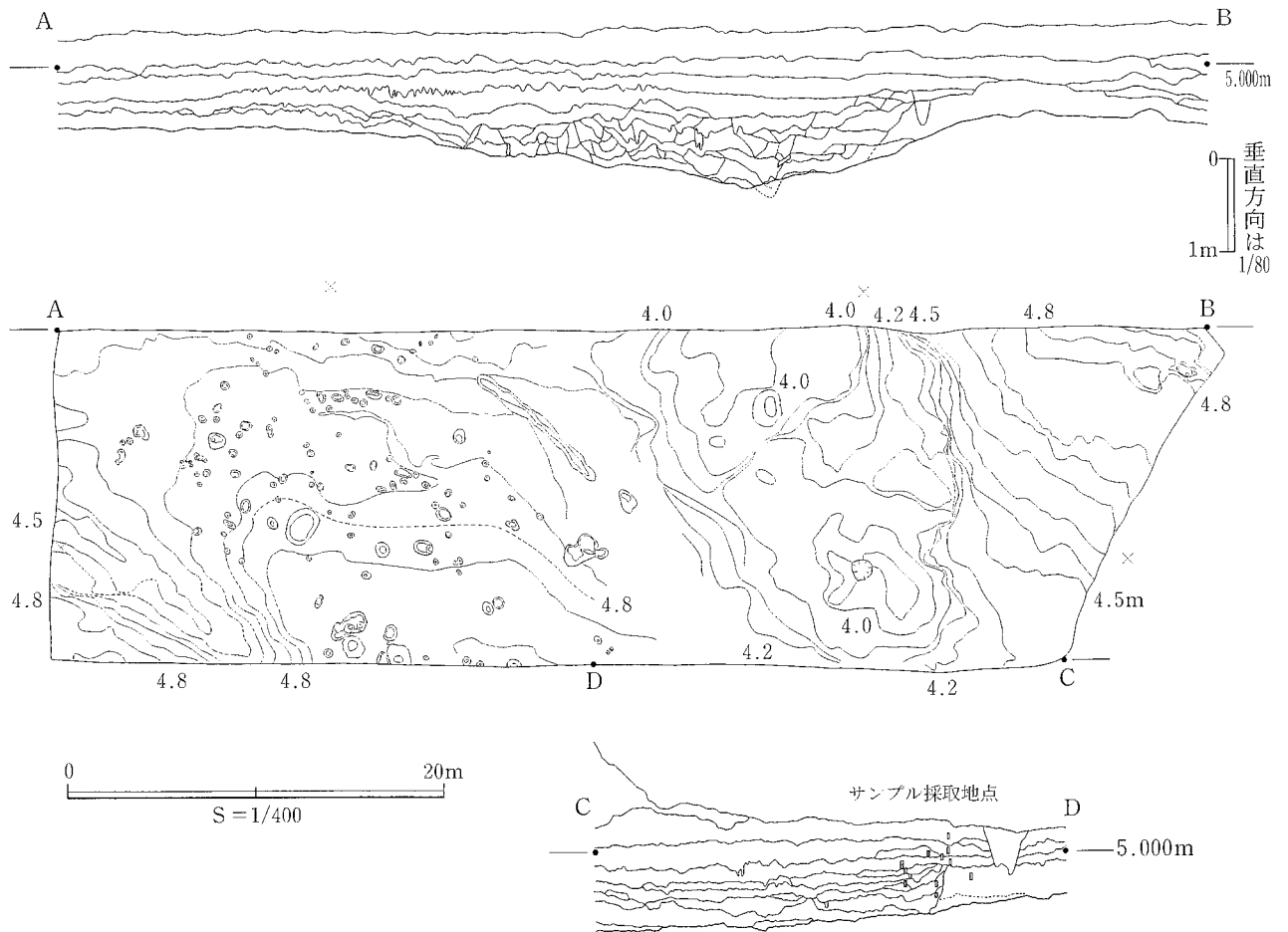
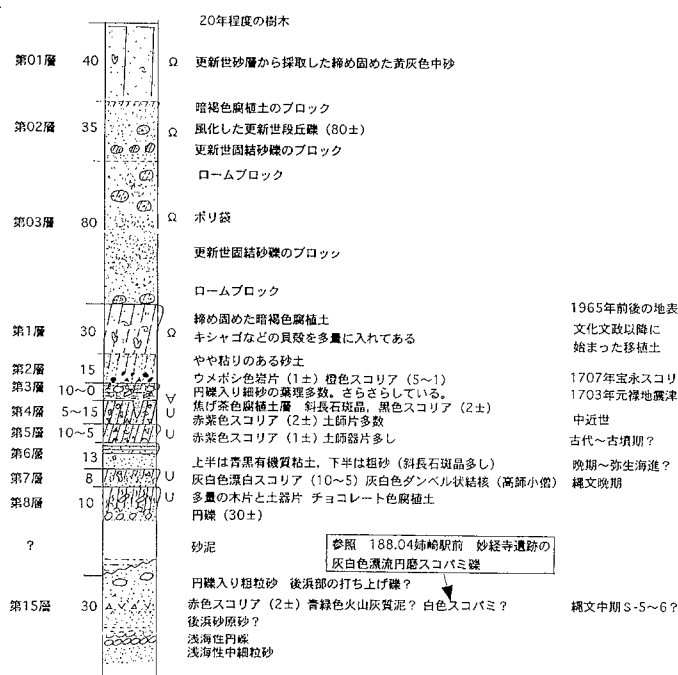


图1 A·B·C区平面图



下図は、2000年3月4日に行われた現地での観察（上杉陽氏・建石徹氏・田中清美・近藤敏参加）に基づいて、上杉氏に作成していただいた土層柱状図である。



図註

* 第15層の灰白色スコパミは姉ヶ崎海岸の砂丘列中の妙経寺遺跡で発見された縄文中期後葉の灰白色円磨スコパミに層位が類似。漂白軽石なら、当然、房総半島を囲む全ての海岸段丘～砂丘地帯で確認されているはず。横田佳世子 (1978) 地理評, 51, 349-364.

* 森脇広 (1979) 九十九里平野の発達史。第四紀研究, 18(1), 1-16. によれば、古期砂丘砂中に軽石を見出している。5500年前以降のようなので、同じテフラかもしれない。

1965年前後の地表

文化文政以降に

始まった移植土

1707年宝永スコリア層

1703年元禄地震津波?

中近世

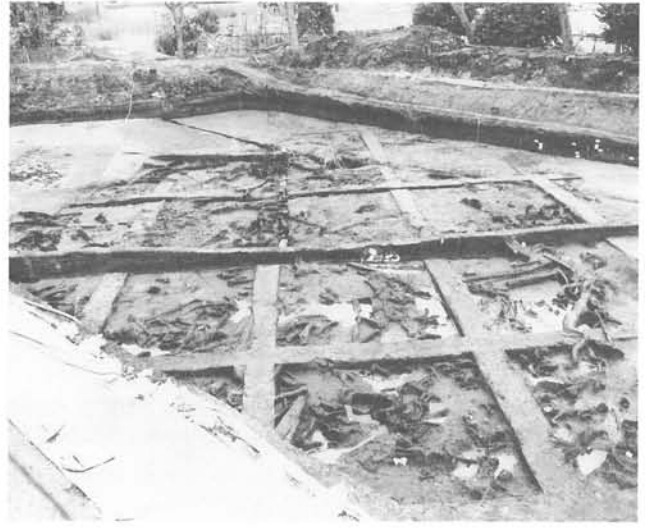
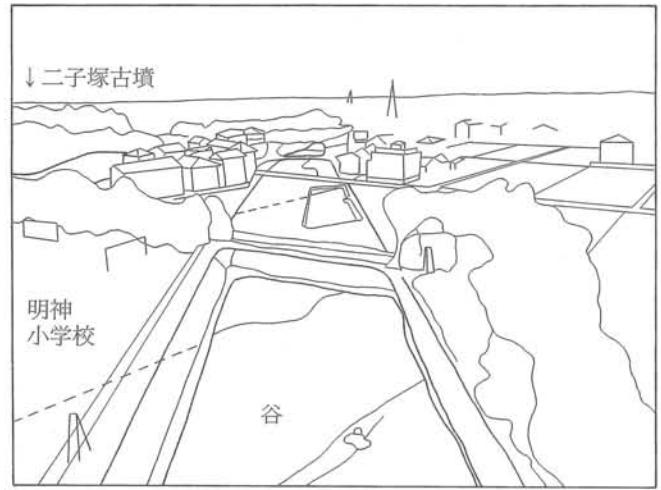
古代～古墳期?

晩期～弥生海進?

縄文晩期

縄文中期 S-5~6?

図2 D区等高線図・断面図・土層柱状図



姉崎山新遺跡 (第2地点)



姉崎山新遺跡 (第2地点)

おしぬま
26. 押沼遺跡

事業名 第一種電気通信無線基地局建設に伴う埋蔵文化財調査（確認調査）

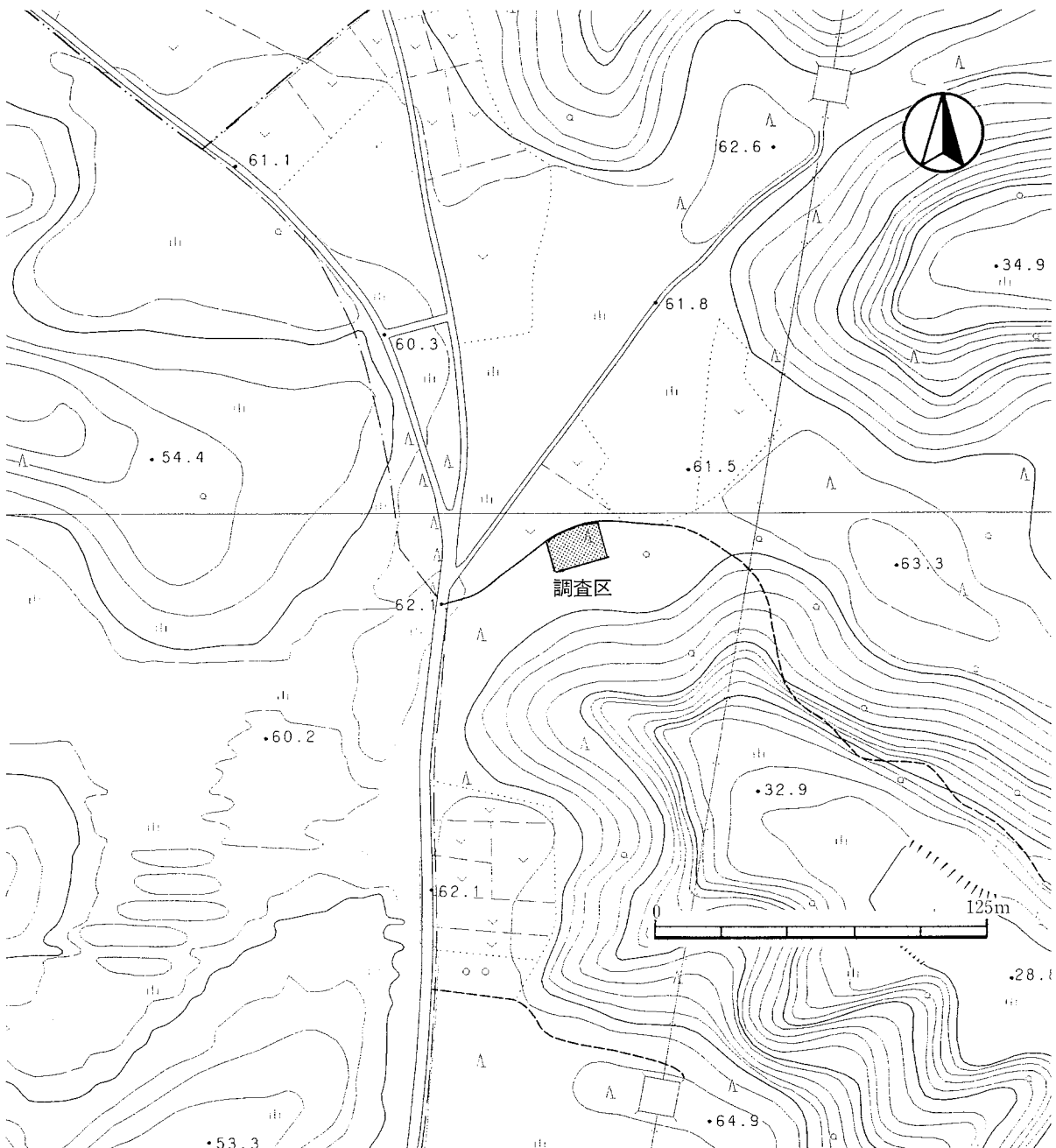
所在地 市原市瀬又字三枚谷473番地の一部

調査期間 平成11年12月3日～平成11年12月6日

調査面積 213.31㎡のうち22㎡

調査概要 押沼遺跡は市原市北部の村田川上流部右岸、標高約60m前後の台地上に位置する。周辺には千葉県住宅都市整備公団の調査した押沼第一遺跡、第二遺跡がある。

今回の調査では、遺構の密度は薄く、縄文時代の土坑3基が検出されたにとどまる。遺物は縄文時代早期、撚糸文系の土器が少量出土している。 (北見一弘)



押沼遺跡周辺地形図

27. ^{はぎ}葉木遺跡

事業名 第一種電気通信無線局建設に伴う埋蔵文化財調査

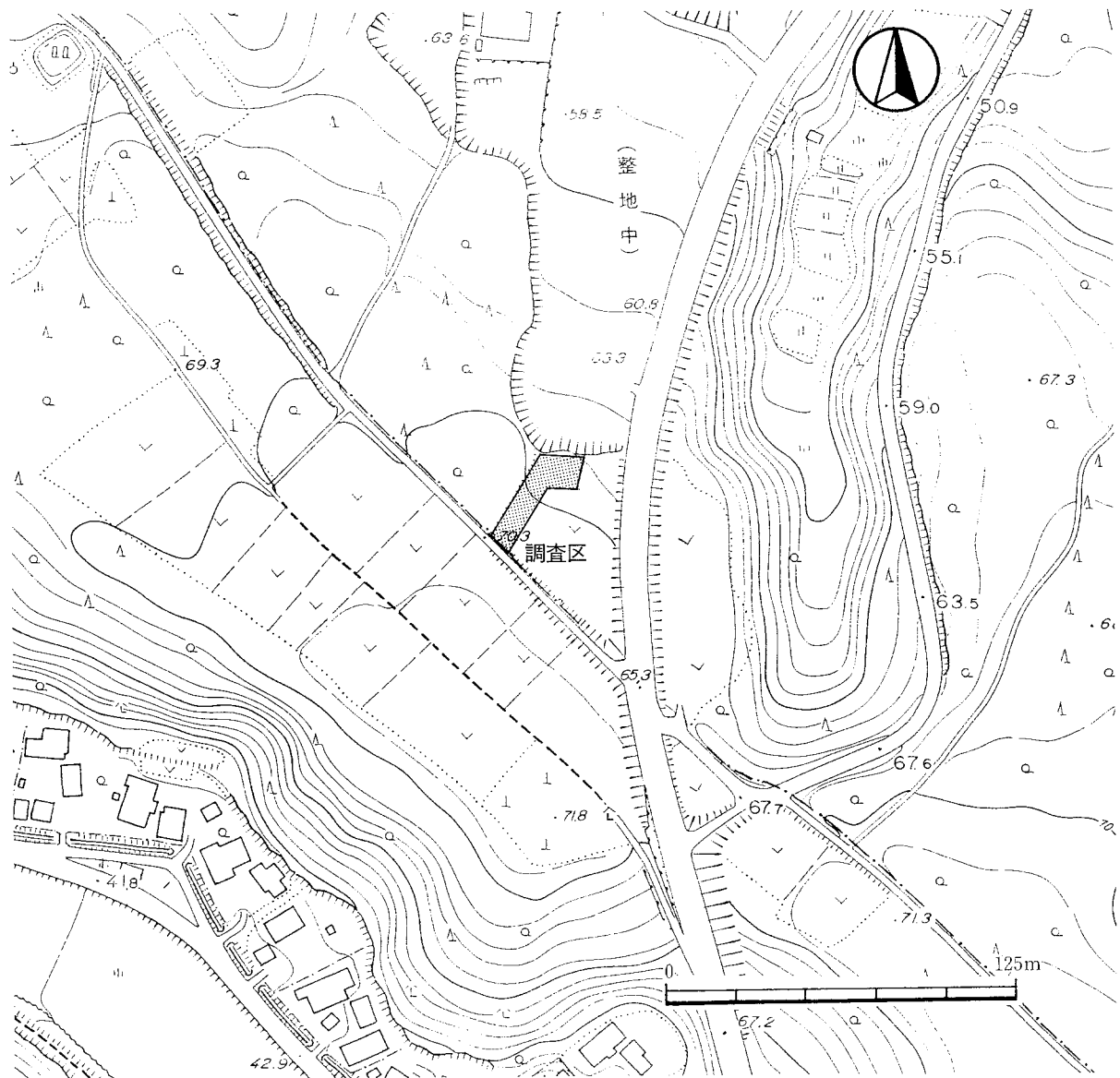
所在地 市原市葉木字七塚447番5の一部

調査期間 平成12年1月11日～平成12年1月31日

調査面積 180㎡のうち18㎡（確認調査）

調査概要 今回の調査は、当初、180㎡を対象に確認調査を実施し、調査、整理報告を実施する予定であった。確認調査では、18㎡のトレンチを設定したが、調査区全体でゴボウ耕作時の攪乱が、ソフトローム層下位まで達しており、遺存状態が極めて悪いとの状況であった。調査の結果、竪穴住居跡1軒、土坑2基と、溝状遺構1条、遺物を少量検出したのみで、遺構の密度は希薄であると予想された。このため、遺構部分のトレンチの拡張後、遺構の調査を実施し、当遺跡の調査を終了することとなった。なお、詳細については、本誌付編に本報告を掲載しているのでそちらを参照されたい。

(北見一弘)



葉木遺跡周辺地形図

28. のうまんじょうあと 能満城跡遺跡

事業名 市道241号線（能満・山木）埋蔵文化財調査（確認調査）

所在地 市原市能満1130番地先

調査期間 平成12年1月11日～平成12年1月31日

調査面積 4,200㎡のうち420㎡（確認調査）

調査概要 遺跡は市原台地中央部新田川水系の標高20～28mの台地上にある。調査対象地区は南北約260mあり、南側は侵刻谷の谷頭に位置し、-2.5m掘削でもローム上面は検出されなかった。谷から台地までの坂を、地元では母良坂（ほらさか）と称している¹⁾。能満地区は上総国府推定地の候補として、多くの研究者が数多くの論を展開しているが、当該地区の発掘調査は今回が初めてとなる。

調査対象は図1の太線網点内となり、南側部分160m範囲は既存道路や移転家屋地もあり、若干の遺物は採集されたが、攪乱が非常に多く遺構検出ができなかった。おそらく古い段階での土地造成により、表土や上層のローム層等は削平されたと考えられる。

北側約100mの範囲は移転家屋地と畑地であったが移転家屋の背後に明瞭な土塁が存在しており、畑跡の荒蕪地には中世時期の石造物である五輪塔が、高さ約2m、直径約5mの塚上に数基検出された。塚の位置は、北西からの侵刻谷と台地の傾斜変換線上にある。塚の西の谷側は中世の台地整形がなされ、一辺約25mの方形に区画された墓地が検出された。区画内には地下式坑がカワラケや五輪塔片と共に検出されており、緑泥片岩片も採集されているので今後、板碑等の発見も有りうる。

土塁は台地を整形し高さ約2mに削り出し、東西に台地縁辺に沿っている。土塁は調査区内東端において切れており、虎口（小口）化している（平成12年度調査によって当初は館跡の外郭堀であり、台地整形後に虎口化したことが確認された）。南北方向の土塁の南側は、ローム層の上部2m以上を削平されているため、図1の方形の網点部分の外郭堀はなく、内側の土塁のみ最近まで存在していた。削平後の遺構は存在しており、14～15世紀の陶器片が外郭土塁の外側の溝状遺構から検出された。

調査区北側台地平坦部分は古墳時代の竪穴式住居跡が検出されている。近隣の土塁断面からも須恵器も採集されることから台地上は古墳時代の集落が存在すると考えられる。中世時期にも遺構はあり、堀と考えられる溝状遺構が塚の北側に東西にある。館跡の外郭堀は調査区東側にあり、深さ1m、幅6mの規模で現存しており、土塁は屋敷内に高さ1m～4mの規模で連続している。

今回の調査において国府推定地である能満地区の核心にメスが入ったことになる。調査段階では奈良平安時代の遺物は皆無であった。しかし一町×二町区画の、かなり大規模な堀割を有する館跡の存在は確実のものとなった。図2にあるように字切り図は、明確にある区画を表わしており、図1でもわかるように地形図にもその存在を示している。城山は戦国時代の城郭であることは推定されているが、馬場ノ内、南平台地区の館跡はいまだ不明な点が多い。調査区は北方向の新宿、城ノ下地区に移るが、図1にも斜面上に字居心城に関わると推定される遺構が存在している。能満地域には中世色の強い字名が残り、中世館跡と見られる遺構が随所に見られる。14～15世紀の守護の国衙機構の掌握時期と、上総の守護所としての能満地区の可能性を考えることも必要になるだろう。（近藤 敏）

1. 立石泰三「十八、国府址の解析」『上総と国府』1989、6 審書房



図1 能満城跡遺跡調査区周辺地形図及び歴史地理図(1:5,000)

凡例

1. 太線内網点は平成11年度確認調査対象地
2. 地形図内畔の網点は館の堀跡推定線
3. 平成11年度対象地北側は、市原市道路建設課施行範囲内地形図より作製した地形図。矢印方向に切り通し状の堀割がある。
4. 城山地区 縄張図
小高春雄「4. 能満城跡」「市原の城」1999年8月からのハナコミ図。
小高氏は字堂場地区も館跡の可能性を推測されている。
5. 字切り図
吉田敏弘「上総国府・府中比定地周辺の地割と地名」上総国府推定地歴史地理学的調査報告書」1999年3月の(4. 能満地区の北割と地名)に詳細に論じられている。
6. 府中日吉神社
「千葉県指定有形文化財府中日吉神社本殿修理工事報告書」1987年3月 市原市教育委員会
字切り図に修理前境内図をハメコミした。

参考文献

「能満上細工多遺跡・能満上新関遺跡・能満番面台遺跡・能満旧三山塚」1999年3月 市原市文化財センター

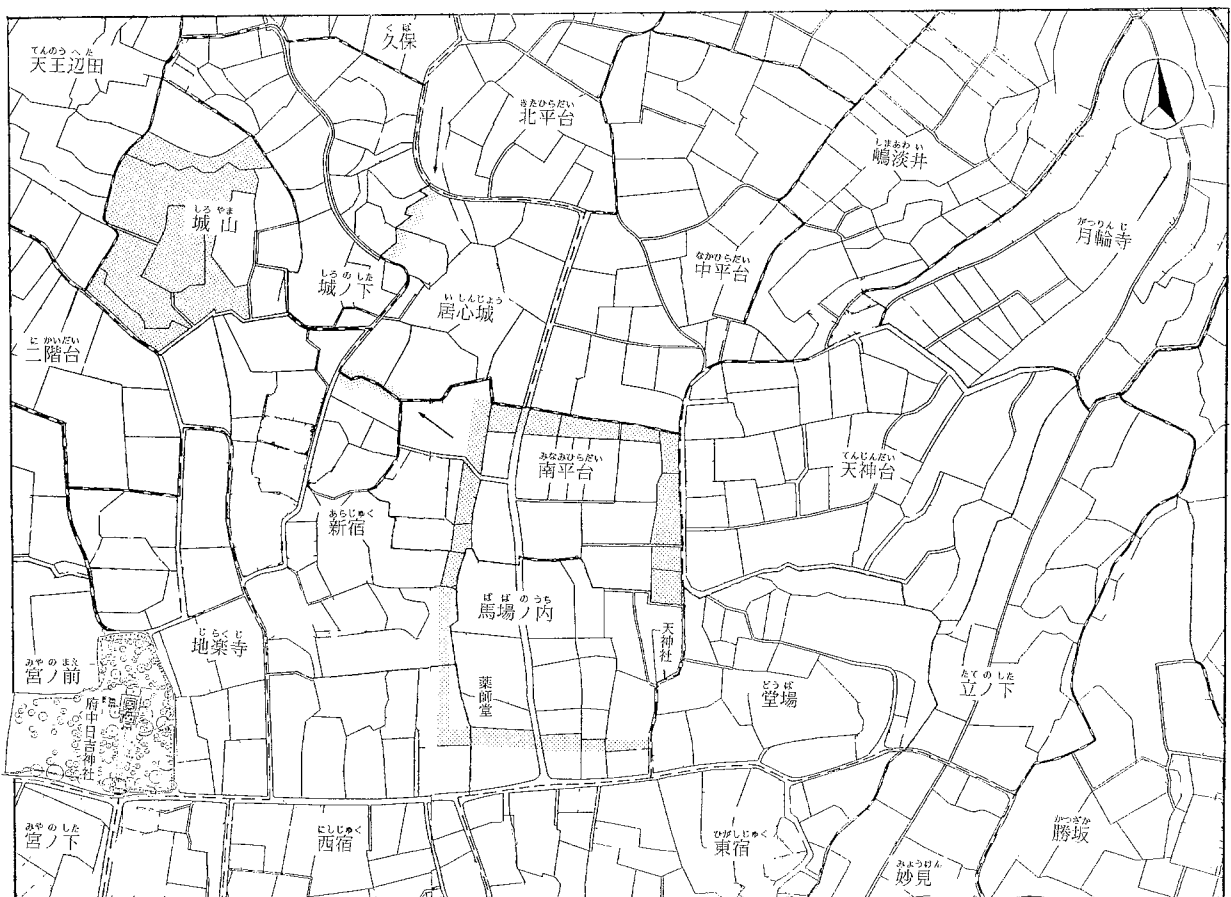


図2 能満城跡遺跡周辺字切図(1:5,000) 縦字は建造物

しいづせきやつ

29. 椎津堰谷遺跡

事業名 八幡椎津線（椎津）建設に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市椎津1609番地他

調査期間 平成12年2月1日～2月15日（確認調査）、3月1日～3月21日（本調査）

調査面積 2,200㎡のうち220㎡（確認調査）、400㎡（本調査）

調査概要 椎津堰谷遺跡は、東京湾に面する小支谷の北東側の標高約40mの台地上にある。椎津中台遺跡とは谷を挟んで対面する形となる。平成10年度の調査に際し、着手不可能であった部分の調査を今年度におこなった。10年度の調査では、旧石器時代の遺物集中地点や、円墳、奈良・平安時代の竪穴住居跡、掘立柱建物跡、中世の溝などを検出している。なお、その概要については、10年度の年報を参照されたい。

今年度の調査は残余の部分2,200㎡に対して確認調査を実施し、中世の溝が確認された400㎡に対して本調査を実施した。結果的には、10年度に調査した溝の延長部分の検出に終始し、新たな遺構等の検出には至らなかった。溝の南側をそのまま延長すると谷の中に入ってしまうところから、どこかで方向を変えることと思われるが、今回の調査の中ではつかむことはできなかった。一段下がった斜面部にその可能性を指摘しうるのみである。

（高橋康男）

<関連文献> 小橋健司 2001「椎津堰谷遺跡」『市原市文化財センター年報 平成10年度』



椎津堰谷遺跡位置図（1/5,000）

しいづなかだい 30. 椎津中台遺跡

事業名 八幡椎津線（椎津）建設工事に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市椎津1412-1番地

調査期間 平成12年2月1日～2月15日（確認調査）、3月1日～3月21日（本調査）

調査面積 370㎡のうち37㎡（確認調査）、100㎡（本調査）

調査概要 遺跡は東京湾に面した小支谷の南側に広がる、標高約40mの台地上にあり、遺跡の西を通る道路を挟んで袖ヶ浦市と接している。

椎津中台遺跡の調査は、平成10年度に大半を終えており、その概要についてはすでに明らかにしたところである。ここで改めて記しておく、縄文時代早期の包含層、奈良・平安時代の竪穴住居跡18軒、掘立柱建物跡10棟などの存在が明らかになっている。今回の調査は、11年度には調査し得なかった部分が対象となった。調査対象面積の10％に対する確認調査の結果をうけ、本調査に移行した。掘立柱建物跡の柱穴と考えられる円形の土坑がやや集中して検出された。今回の調査の中では、建物の規模等を復元するに十分な柱穴の配列は見出し難く、建物跡群の断片を切り取ったような状況である。竪穴住居跡は検出されなかったものの、掘立柱建物群が西方に広がっている可能性を示している。なお、10年度の成果については、下記文献を参照されたい。

（高橋康男）

<関連文献> 高橋康男 1999「椎津中台遺跡」『第14回 市原市文化財センター遺跡発表会要旨』

高橋康男 2001「椎津中台遺跡」『市原市文化財センター年報 平成10年度』



椎津中台遺跡位置図（1/5,000）

IV 遺跡情報管理システムについて

市教育委員会から「千葉県緊急地域雇用特別基金事業」補助金による委託を受けて、懸案事項であった「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」の照会文書を対象とした作業を行った。

まず、文字情報の入力と、ポリゴン入力の下準備として、照会場所を1/2500地形図に記入する作業に取りかかった。総数3,000件のうち、今年度はとりあえず240件の照会文書を対象に、照会地の詳細地番まで拾い上げて入力することで、地番から照会データの有無を検索できるようにした。

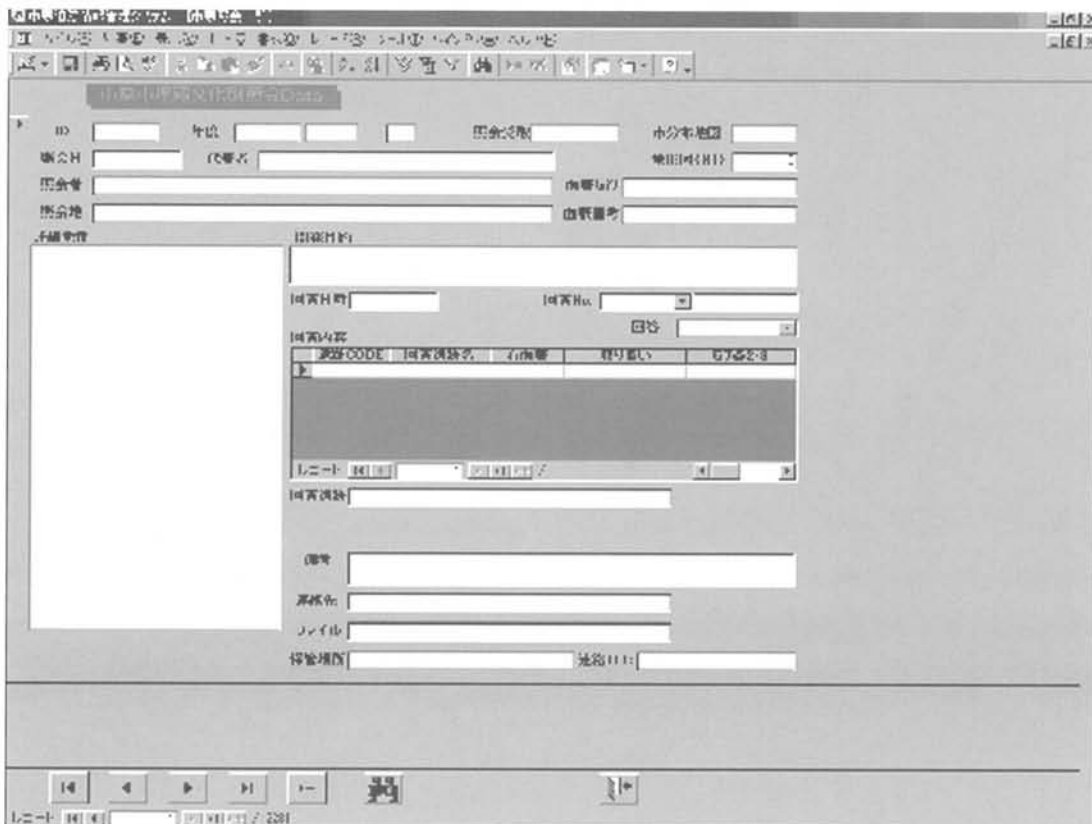
図形情報については、平成10年度までに、遺跡分布地図データの約26%に当たる800箇所を対象に、センター事業として外部委託でデータ化を行っていたが、今年度はそれをやめ、センター職員によるデジタイザでの入力に切り替えた。これにより、残りの部分2,320箇所の入力が完了した。

また、上総国分僧尼寺など重要な遺跡が所在する国分寺台地区に限定して、土地区画整理事業に使用されていた施工前の現況図(1/500 40枚)の入力(ラスターデータ)をセンター事業として行った。

(小橋健司)

視察に訪れた機関

平成12年 1月	三重県埋蔵文化財調査センター 三重県桑名市教育委員会	三重県四日市市教育委員会
平成12年 3月	山梨県教育委員会 山梨県山梨市教育委員会 山梨県敷島町教育委員会 帝京大学山梨文化財研究所	山梨県埋蔵文化財センター 山梨県韮崎市教育委員会 山梨県境川村教育委員会



V 平成11年度 受贈図書一覧

書名	寄贈者	受入日
国立歴史民俗博物館6 (1997年度)	国立歴史民俗博物館	19990409
国立歴史民俗博物館研究報告第78集	同上	〃
武蔵国分寺跡北方地区日影山遺跡・東山道武蔵路 (第1分冊・第2分冊)	西国分寺地区遺跡調査会	〃
稲荷山東遺跡	近藤敏	〃
【特別展】古代びとの顔	茨城県立歴史館	19990412
市原市史資料集 (近世編)	市原市教育委員会	〃
千葉県長生郡長南町平成10年度能満寺裏遺跡調査概報	長南町教育委員会	〃
WALK IN長南びっくり箱3	同上	〃
十禅寺遺跡	滋賀県教育委員会	〃
川合寺遺跡	同上	〃
福岡市埋蔵文化財センター年報第17号	福岡市埋蔵文化財センター	〃
土田遺跡	滋賀県教育委員会	〃
布施新田遺跡	柏市遺跡調査会	〃
平成10年度芝山町内遺跡発掘調査報告書	芝山町教育委員会	〃
史跡鉢形城跡 平成9年度発掘調査概要報告	寄居町教育委員会	〃
ふるさと歴史見つけた! ~引田・白鳥・大内~	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	〃
津久井城の調査II	津久井町教育委員会	〃
堺市博物館報第18号	堺市博物館	〃
岩村地区県営園場整備事業に伴う岩村遺跡発掘調査概要	南国市教育委員会	〃
岩村遺跡群II	同上	〃
白猪田遺跡	同上	〃
後川遺跡II	滋賀県教育委員会	〃
祭り野遺跡・山王後1号墳	田中清美	19990420
君津市立久留里城址資料館年報19平成9年度	君津市立久留里城址資料館	〃
糸山5号土坑墓・糸山ミカン谷遺跡・姫内城跡II次	(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター	〃
中駄場遺跡	同上	〃
長岡京市埋蔵文化財調査報告書第13集	(財)長岡京市埋蔵文化財センター	〃
南ノ庄田瓦窯跡	(財)京都市埋蔵文化財研究所	〃
企画展「日本の青磁 三田の青磁」	三田市教育委員会	〃
火消刺子にみる江戸の粋	大宮市立博物館	〃
絶滅と進化 動物化石が語る東アジア500万年	滋賀県立琵琶湖博物館	〃
京都府遺跡調査概報第86冊	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	〃
白老町ポナヨロ4遺跡発掘調査概要報告書	白老町教育委員会	〃
桜井の弥生時代	(財)桜井市文化財協会	〃
牟尻台遺跡発掘調査報告	(財)横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター	19990421
多摩ニュータウン遺跡先行調査報告書10	(財)東京都教育文化財団東京都埋蔵文化財センター	〃
多摩ニュータウン遺跡先行調査報告書11	同上	〃
多摩ニュータウン遺跡先行調査報告書14第1分冊・第2分冊・第4分冊	同上	〃
余部遺跡	(財)大阪府文化財調査研究センター	〃
深井清水町遺跡	同上	〃
土井の木遺跡発掘調査報告書	同上	〃
加治・神前・畠中遺跡II	同上	〃
田井中遺跡 (1~3次)・志紀遺跡 (防1次)	同上	〃
大庭寺・伏尾遺跡	同上	〃
庄田遺跡	同上	〃
池島・福万寺遺跡発掘調査概要XV	同上	〃
第38回大阪府埋蔵文化財研究会資料集	同上	〃
千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報平成8年度	千葉県教育庁	〃
木更津市峰ノ台貝塚発掘調査報告書	同上	〃
成東町嶋戸東遺跡発掘調査報告書	同上	〃
千葉県文化財センター年報No23	(財)千葉県文化財センター	〃
主要地方道生実・本納線埋蔵文化財調査報告書2	同上	〃

書名	寄贈者	受入日
千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書X II	(財)千葉県文化財センター	19990421
下総町名木大台遺跡	同上	//
空港南部工業団地埋蔵文化財調査報告書1	同上	//
千漣工業団地埋蔵文化財調査報告書(本文編)(写真図版編)	同上	//
市原市武士遺跡2(第1分冊)(第2分冊)(第3分冊)	同上	//
袖ヶ浦市荒久(2)遺跡	同上	//
千葉東南部ニュータウン19(本文)(分析・付図・附表)(写真図版)	同上	//
千葉東南部ニュータウン20	同上	//
柏市光ヶ丘遺跡	同上	//
佐倉市佐倉城跡	同上	//
船橋印西線埋蔵文化財調査報告書1	同上	//
沼南町道堀・薙遺跡	同上	//
千葉東金道路(二期)埋蔵文化財調査報告書1	同上	//
千葉東金道路(二期)埋蔵文化財報告書2	同上	//
東金市道庭遺跡	同上	//
主要地方道成田松尾線VIII	同上	//
佐原市多田新田遺跡	同上	//
東関東自動車道(千葉・富津線)埋蔵文化財調査報告書1	同上	//
東関東自動車道(千葉・富津線)埋蔵文化財報告書2	同上	//
一般国道409号(木更津工区)埋蔵文化財調査報告書	同上	//
富津館山道路埋蔵文化財調査報告書	同上	//
富津市川島遺跡	同上	//
袖ヶ浦市豆作台遺跡	同上	//
鎌ヶ谷市南初富3丁目所在馬土手	同上	//
東金市油井古塚原遺跡	同上	//
静岡の原像をさぐる発掘調査報告会	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	19990422
静岡県埋蔵文化財調査研究所研究紀要第6号	同上	//
下原遺跡II	同上	//
焼場遺跡B地点・五百司遺跡	同上	//
大平遺跡	同上	//
上ノ池遺跡	同上	//
御殿川流域遺跡群IV	同上	//
下原遺跡III	同上	//
掛之上遺跡	同上	//
町田遺跡	同上	//
水掛渡古墳群C群(静岡空港C地点)	同上	//
生茨沢遺跡	同上	//
山田新田II遺跡	(財)山武郡市文化財センター	19990423
上岩ノ谷遺跡	同上	//
谷台遺跡	同上	//
小野遺跡F区	同上	//
京寺遺跡	同上	//
小泉遺跡B地区	同上	//
財団法人山武郡市文化財センター年報No.14	同上	//
細野遺跡・梨子谷遺跡・千日遺跡・宮上遺跡	(財)岐阜県文化財保護センター	//
富山遺跡発掘調査報告書	(財)山形県埋蔵文化財センター	//
平野山古窯跡群第12地点遺跡第2次発掘調査報告書	同上	//
山居遺跡発掘調査報告書	同上	//
昭和新田遺跡発掘調査報告書	同上	//
北目長田遺跡第3次発掘調査報告書	同上	//
漆山長表遺跡発掘調査報告書	同上	//
植木場一遺跡発掘調査報告書	同上	//
東北中央自動車道相馬・尾花沢線関係予備調査報告書(1)	同上	//
年報平成9年度	同上	//
槻沢遺跡III(本文編I・本文編II・写真図版編)	栃木県教育委員会	//
新郭古墳群・新郭遺跡・下り遺跡	同上	//
清六III遺跡II	同上	//

書名	寄贈者	受入日
市原地方史研究第十九号	市原市教育委員会	19990423
中ノ宮北遺跡発掘調査報告書	(財)横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター	〃
宇陀の民俗ことば	榛原町教育委員会	〃
榛原町内遺跡発掘調査概要報告書1996年度	同上	〃
多摩ニュータウン遺跡	(財)東京都教育文化財団東京都埋蔵文化財センター	19990426
平成9年度市内遺跡発掘調査報告書	柏市教育委員会	〃
中馬場遺跡(第4次)	同上	〃
西台後藤田遺跡第1地点発掘調査報告書	都内第二遺跡調査会	〃
房総文化第二十一号	房総文化研究所	〃
名古屋大学文学部研究論集134	名古屋大学文学部考古学研究室	〃
山武考古学研究所年報No.16	山武考古学研究所	〃
平成10年度野田市内遺跡発掘調査報告	野田市教育委員会	〃
平成10年度流山市市内遺跡発掘調査報告書	流山市教育委員会	〃
桐ヶ谷新田第II遺跡発掘調査報告書	同上	〃
1998年度秋季特別展いにしへの金工たち	(財)元興寺文化財研究所	〃
長岡京市埋蔵文化財調査報告書第14集	(財)長岡京市埋蔵文化財センター	〃
襖遺跡・大將軍遺跡発掘調査報告書	滋賀県教育委員会事務局文化財保護課	〃
長野県鷹山黒耀石原産地遺跡群の研究	明治大学考古学研究室	〃
国府台9	和洋女子大学文化資料館	〃
上出A遺跡	滋賀県教育委員会事務局文化財保護課	〃
長原遺跡東部地区発掘調査報告II	(財)大阪市文化財協会	〃
堂島蔵屋敷跡	同上	〃
滝ノ沢遺跡II(1989年度調査)	北上市教育委員会	〃
滝ノ沢遺跡III(1984・86・87・88・90年度調査)	同上	〃
北上遺跡群(1992年度)	同上	〃
蟹沢館遺跡発掘調査概報	同上	〃
金成遺跡(I)(1992・1993年度)	同上	〃
北上遺跡群(1993・1994年度)	同上	〃
横欠遺跡(図版編)	同上	〃
横町遺跡発掘調査概報	同上	〃
金成遺跡(II)(1994年度)	同上	〃
北上遺跡群(1995年度)	同上	〃
蒼前森遺跡	同上	〃
樺山遺跡(1992・1993年度)	同上	〃
横欠遺跡(本文編)	同上	〃
北上市埋蔵文化財年報(1991年度)	同上	〃
北上市埋蔵文化財年報(1993年度)	同上	〃
北上市埋蔵文化財年報(1994年度)	同上	〃
北上市埋蔵文化財年報(1995年度)	同上	〃
世田谷区資料叢書第14巻	世田谷区教育委員会	19990427
上総国府推定地歴史地理学的調査報告書	市原市教育委員会	19990531
平成10年度市原市内遺跡発掘調査報告	同上	〃
富山県小杉町・大門町小杉流通業務団地内遺跡群第14次発掘調査概要No.15A遺跡	富山県埋蔵文化財センター	19990604
富山県富山市任海宮田遺跡発掘調査報告書	同上	〃
富山県富山市任海宮田遺跡発掘調査報告書II	同上	〃
富山県富山市任海宮田遺跡発掘調査報告書III	同上	〃
富山県埋蔵文化財センター年報1998年	同上	〃
富山県埋蔵文化財センター年報平成7年度	同上	〃
富山県埋蔵文化財センター年報平成8年度	同上	〃
小丸遺跡	(財)横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター	19990607
下荻野石神遺跡・中荻野上中原遺跡	香村紘一	〃
財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要第7輯	(財)瀬戸市埋蔵文化財センター	〃
上品野蟹川遺跡II	同上	〃
南総郷土文化研究会会誌別冊「戦中戦後の思い出」	田中喜作	〃

書名	寄贈者	受入日
京都府埋蔵文化財情報第71号	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	19990607
京都府遺跡調査概報第87冊	同上	//
京都府遺跡調査概報第88冊	同上	//
千葉県八千代市麦丸遺跡	八千代市教育委員会	19990608
千葉県八千代市池の台遺跡	同上	//
平戸道地遺跡	同上	//
千葉県八千代市埋蔵文化財発掘調査報告集	同上	//
八千代市埋蔵文化財調査年報平成7年度版	同上	//
千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書平成10年度	同上	//
遺跡・遺物から何を読みとるか(II)食の復元	帝京大学山梨文化財研究所	//
平成10年度東金市内遺跡発掘調査報告書	東金市教育委員会	//
平成9年度佐倉市埋蔵文化財発掘調査報告書	佐倉市教育委員会	//
平成10年度鎌ヶ谷市内遺跡発掘調査概報	鎌ヶ谷市教育委員会	//
筑波大学先史学・考古学研究第10号	筑波大学歴史・人類学系	//
MOUSEION44	立教大学学校・社会教育講座	//
宮ヶ谷戸遺跡III	宮ヶ谷戸遺跡調査団	//
昌明寺遺跡	えびの市教育委員会	//
小山市文化財保護調査年報4	小山市教育委員会	//
松本大久保台遺跡	松本大久保台遺跡調査団	//
上粕屋・三本松遺跡	伊勢原市教育委員会	//
高田字天神前146-6地先野馬除土手	柏市遺跡調査会	//
柴又帝釈天遺跡IX	葛飾区教育委員会	//
平成9年度葛飾区埋蔵文化財調査年報	同上	//
神奈川県厚木市恩名大原遺跡発掘調査報告書	尼寺原遺跡発掘調査団	//
御屋敷添遺跡第1地点発掘調査報告書	玉川文化財研究所	//
川の前遺跡II	(財)浜松市文化協会	//
平成10年度成田市内遺跡発掘調査報告書	成田市教育委員会	//
奈良市埋蔵文化財調査センター紀要1997	奈良市教育委員会	//
奈良市埋蔵文化財調査概要報告書平成9年度(第1分冊・第2分冊)	同上	//
平城京東市跡推定地の調査XV I	同上	//
幻のおおでら百済大寺	飛鳥資料館	//
人類学博物館紀要第18号	南山大学人類学博物館	//
佐原市内遺跡発掘調査概報平成9年度	佐原市教育委員会	//
多摩ニュータウン遺跡	(財)東京都教育文化財団東京都埋蔵文化財センター	//
三島市文化財年報第10号	三島市教育委員会	//
谷田前田遺跡	同上	//
箱根旧街道石畳整備事業報告書	同上	//
長伏六反田遺跡	同上	//
初音ヶ原遺跡	同上	//
研究紀要第4号	青森県埋蔵文化財調査センター	//
下馬坂遺跡発掘調査報告書	同上	//
戸沢遺跡	同上	//
安田(2)遺跡	同上	//
新納屋(1)遺跡	同上	//
三内丸山(6)遺跡I	同上	//
山下遺跡・上野尻遺跡	同上	//
野尻(1)遺跡I I	同上	//
畑内遺跡V	同上	//
櫛引遺跡	同上	//
大阪文化財研究第14号	(財)大阪府文化財調査研究センター	19990611
伏尾遺跡I I	同上	//
宮の前遺跡・蛭池東遺跡・麻田藩陣屋跡・蛭池遺跡・蛭池南地区・蛭池西遺跡1993-1996年度発掘調査報告書	同上	//
蛭池遺跡(その3-2)発掘調査報告書	同上	//
蔵塚古墳	同上	//
総持寺遺跡調査報告書	同上	//

書名	寄贈者	受入日
楠木石切場跡	(財)大阪府文化財調査研究センター	19990611
彩都(国際文化公園都市)周辺地域の歴史・文化総合調査報告書(本文・付図)	同上	〃
上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書12 榎田遺跡第1分冊・第2分冊・第3分冊・第4分冊	(財)長野県埋蔵文化財センター	19990614
上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書20	同上	〃
上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書9小滝遺跡・北之脇遺跡・前山田遺跡	同上	〃
上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書8村東山手遺跡	同上	〃
山武郡の古墳	芝山町教育委員会・芝山古墳はにわ博物館	〃
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団年報17	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	〃
研究紀要15	同上	〃
創立20周年記念公開考古学講座	同上	〃
ヒストリア・榛名	同上	〃
ヒストリア榛名 暮らしが見える・心がわかる	同上	〃
行沢大竹遺跡(本文編・観察表・写真図版編)	同上	〃
冷水村東遺跡・西国分新田遺跡・金古北十三町遺跡(本文・付図)	同上	〃
宿横手三波川遺跡	同上	〃
群馬県遺跡大事典	同上	〃
加茂谷川岩陰遺跡群	同志社大学考古学研究室	〃
考古学に学ぶ	同上	〃
房総の誕生と狩猟採集生活	(財)千葉県文化財センター	19990618
鷺沼台1丁目遺跡A地点発掘調査報告書	習志野市教育委員会	〃
平成10年度君津市内遺跡発掘調査報告書	君津市教育委員会	〃
新子安遺跡群確認調査報告書I	同上	〃
国立歴史民俗博物館研究報告第77集	国立歴史民俗博物館	〃
多摩ニュータウン遺跡No.107遺跡	(財)東京都生涯学習文化財団東京都埋蔵文化財センター	〃
宮山遺跡発掘調査報告書	玉川文化財研究所	19990621
幸区No.7遺跡発掘調査報告書	同上	〃
川尻遺跡(城山町No.1遺跡)発掘調査報告書	同上	〃
稲荷久保遺跡発掘調査報告書	同上	〃
藤沢市No.322遺跡発掘調査報告書	同上	〃
県営三ヶ木団地内遺跡発掘調査報告書	同上	〃
赤田地区遺跡群	日本窯業史研究所	〃
馬場3丁目横穴墓群	同上	〃
栃木県石橋町折本遺跡	同上	〃
藤林遺跡	同上	〃
町屋遺跡調査概報I	同上	〃
殿屋敷城遺跡・荘厳寺遺跡	滋賀県教育委員会事務局文化財保護課	〃
柴原南遺跡	同上	〃
石馬寺遺跡	同上	〃
近江国府跡I	同上	〃
長野遺跡	同上	〃
荒尾南遺跡	(財)岐阜県文化財保護センター	〃
牧野小山遺跡C地点	同上	〃
牛垣内遺跡	同上	〃
丸山遺跡	同上	〃
ホヤノ木古墳	同上	〃
土岐口西山古窯跡	同上	〃
上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書5松原遺跡弥生・総論2弥生時代中期・遺構図版	(財)長野県埋蔵文化財センター	〃
平尾墳墓群	岡山理科大学人類学研究室	〃
紀要第12号	(財)滋賀県文化財保護協会	〃
堺市下田遺跡	六甲山麓遺跡調査会	〃
廿日市町屋跡2	同上	〃

書名	寄贈者	受入日
多摩ニュータウン遺跡	(財)東京都生涯学習文化財団東京都埋蔵文化財センター	19990621
東京都埋蔵文化財センター研究論集XV I I	同上	〃
豊島番場遺跡 I I	東京都北区教育委員会生涯学習推進課	〃
竹ノ鼻遺跡	滋賀県教育委員会	〃
北代遺跡・上代遺跡	(財)滋賀県文化財保護協会	〃
堀南遺跡・神ノ木遺跡	同上	〃
真福寺遺跡	同上	〃
六崎貴舟台(第4・5次)遺跡	(財)印旛郡市文化財センター	〃
宗吾内野台畑遺跡	同上	〃
太田長作遺跡	同上	〃
山王台遺跡	同上	〃
間野台貝塚(第2次)	同上	〃
天王前遺跡(第2次)	同上	〃
ちほろく遺跡	同上	〃
六崎貴舟台遺跡(第7次)	同上	〃
更埴条里遺跡・屋代遺跡群(含む大境遺跡・窪河原遺跡)	(財)長野県埋蔵文化財センター	19990622
古代1編本文・図版		
祇園原貝塚(本文編1・本文編2・写真図版編・付図・CD-ROM)	市原市教育委員会	〃
多摩ニュータウン遺跡	(財)東京都生涯学習文化財団埋蔵文化財センター	〃
木曾遺跡Ⅲ	滋賀県教育委員会	〃
老蘇遺跡	同上	〃
香川県埋蔵文化財調査年報平成8年度	香川県教育委員会	〃
香川県埋蔵文化財調査年報平成9年度	同上	〃
埋蔵文化財試掘調査報告X I	同上	〃
香川県中世城館跡詳細分布調査概報平成9年度	同上	〃
千町遺跡発掘調査報告書	同上	〃
旧練兵場遺跡 I V	同上	〃
王子ノ台遺跡第 I I 卷歴史時代編	東海大学校地内遺跡調査会・東海大学校地内遺跡調査団	〃
綾部原遺跡	都内遺跡調査会	〃
上出A遺跡	滋賀県教育委員会	〃
石ノ形古墳	袋井市教育委員会	〃
多摩ニュータウン遺跡	(財)東京都生涯学習文化財団埋蔵文化財センター	〃
下野谷遺跡第 I ・ I I ・ I I I 分冊	保谷市遺跡調査会	〃
自然科学研究所研究報告第24号	岡山理科大学自然科学研究所	〃
長坂古墳群発掘調査報告	岡山市教育委員会	〃
向日市埋蔵文化財調査報告書第47集	(財)向日市埋蔵文化財センター	〃
向日市埋蔵文化財調査報告書第49集	同上	〃
坂尻遺跡(遺構編)(遺物・総括編)	袋井市教育委員会	〃
はるおか遺跡群	同上	〃
泉警察遺跡発掘調査報告	(財)横浜市ふるさと歴史財団	〃
上野原遺跡発掘調査報告書	上野原遺跡調査団	〃
愛名宮地遺跡	愛名宮地遺跡調査団	〃
京都府遺跡調査概報第89冊	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	〃
下植野南遺跡	同上	〃
湯ノ部遺跡IV 西河原宮ノ内遺跡I	滋賀県教育委員会	〃
中兵庫遺跡	同上	〃
川ノ口遺跡	同上	〃
木更津市史 富来田編	木更津市教育委員会	〃
笹子遺跡群発掘調査報告書I	同上	〃
木更津市内遺跡発掘調査報告書	同上	〃
戌久保遺跡・町横尾遺跡	坂城町教育委員会	〃
木更津市文化財調査集報II	木更津市教育委員会	〃
細工谷遺跡発掘調査報告I	(財)大阪市文化財協会	〃

書名	寄贈者	受入日
大阪城跡IV	(財)大阪市文化財協会	19990622
阿倍野筋遺跡発掘調査報告	同上	〃
長岡京市埋蔵文化財センター年報 平成9年度	(財)長岡京市埋蔵文化財センター	〃
平成10年度船橋市内遺跡発掘調査報告書	船橋市教育委員会	〃
研究紀要 第19号	埼玉県立歴史資料館	〃
船倉貝塚	倉敷埋蔵文化財センター	〃
千葉県の自然誌本編3 千葉県の気候・気象	千葉県	19990624
栃木県埋蔵文化財保護行政年報21	栃木県教育委員会	〃
平成10年度四街道市内遺跡発掘調査報告書	四街道市教育委員会	〃
山武考古学研究所出版物目録	山武考古学研究所	〃
立正大学遺跡調査室年報X	立正大学熊谷校地遺跡調査室	〃
蛇喰正覚寺遺跡	井口村教育委員会	〃
大垣市埋蔵文化財調査概要 平成8年度	大垣市教育委員会	〃
昼飯大塚古墳IV 範囲確認調査概要 平成9年度	同上	〃
曾根城跡-第三次発掘調査-	同上	〃
成田山の歴史	成田山霊光館	〃
前渡猿尾堤第3調査区発掘調査報告書	各務原市教育委員会	〃
三ツ塚遺跡A地区発掘調査報告書	同上	〃
東京都台東区 浅草寺西遺跡	台東区文化財調査会	〃
倉敷埋蔵文化財センター年報5-平成9(1997)年度-	倉敷埋蔵文化財センター	〃
財団法人和歌山県文化財センター設立10周年記念 紀州北部の町並み	(財)和歌山県文化財センター	〃
祈りの考古学	同上	〃
平成10年度市川市内遺跡発掘調査報告	市川市教育委員会	〃
大寺山洞穴第6次発掘調査概報	千葉大学文学部考古学研究室	〃
大寺山洞穴第7次発掘調査概報	同上	〃
志木市遺跡群9	志木市教育委員会	〃
中川原遺跡発掘調査報告書	豊田市教育委員会	〃
花本遺跡	同上	〃
千石遺跡	同上	〃
上加遺跡(第2次調査) 中野林袋遺跡 茗花遺跡 指扇	大宮市遺跡調査会	〃
下戸遺跡(第2次調査)		
市内遺跡発掘調査報告	大宮市教育委員会	〃
東京都台東区 上野忍岡遺跡群 JR上野駅東西自由通路建設地点	台東区文化財調査会	〃
浜川戸遺跡21次	春日部市遺跡調査会	〃
小淵山下北/八木崎2次/花積内谷耕地5次遺跡	春日部市教育委員会	〃
下野谷遺跡	保谷市教育委員会	〃
京都市内遺跡立会調査概報 平成10年度	(財)京都市埋蔵文化財研究所	〃
京都市内遺跡試掘調査概報 平成10年度	同上	〃
京都市内遺跡発掘調査概報平成10年度	同上	〃
人麻呂様城跡	土佐市教育委員会	〃
尾張藩上屋敷跡遺跡発掘調査報告書IV	(財)東京都生涯学習文化財団東京都埋蔵文化財センター	〃
経塚横穴墓群・古墳群	田川市教育委員会	19990628
植生史研究第4巻第1号	田所真	〃
植生史研究第6巻第1号	同上	〃
平成9年度松戸市内遺跡発掘調査報告書	松戸市教育委員会	〃
阿見町竹来遺跡発掘調査報告書(第二次調査)	小川和博	〃
嶋上遺跡群23	高槻市教育委員会	〃
高槻市文化財年報 平成9年度	同上	〃
粟堀南C遺跡	東庄町教育委員会	〃
千葉県立中央博物館研究報告-人文科学-第6巻第1号(通巻12号)	千葉県立中央博物館	〃
大東遺跡III・八反田遺跡・中町田遺跡	滋賀県教育委員会	〃
堀部西・丸岡塚遺跡・春近遺跡・南小足遺跡	同上	〃
中屋遺跡-蒲生郡安土町中屋・上出- 常衛遺跡-近江八幡市西生来町-	同上	〃

書名	寄贈者	受入日
大手前遺跡	滋賀県教育委員会	19990628
大手前遺跡・上下遺跡	同上	//
内野遺跡I	同上	//
風呂流遺跡2（事業名野田道遺跡・風呂流遺跡）	同上	//
上田上牧遺跡I	同上	//
内野遺跡II	同上	//
上田上牧遺跡II	同上	//
正楽寺遺跡	同上	//
御倉遺跡発掘調査報告書	同上	//
湯ノ部遺跡発掘調査報告書II	同上	//
湯ノ部遺跡発掘調査報告書III	同上	//
虎御前山遺跡	同上	//
室遺跡 宮司遺跡I 鳴田遺跡V	同上	//
高木・後川遺跡	同上	//
後川遺跡（事業名 高木遺跡）	同上	//
酒波三つ又遺跡	同上	//
穴太遺跡発掘調査報告書II（本文編）（図版編）	同上	//
柿堂遺跡	同上	//
(財)印旛郡市文化財センター第3回遺跡発表会発表要旨	栗田則久	19990630
繫遺跡	同上	//
大館遺跡群 大館町遺跡・大新町遺跡	同上	//
上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書17	(財)長野県文化振興事業団長野県埋蔵文化財センター	//
『向台貝塚資料図譜』	市立市川考古博物館	//
平成7年度市立市川考古博物館年報（第24号）	同上	//
平成8年度市立市川考古博物館年報（第25号）	同上	//
平成9年度市立市川考古博物館年報（第26号）	同上	//
市立市川考古博物館研究紀要第1号	同上	//
市立市川考古博物館研究紀要第2号	同上	//
東京都台東区 茅町遺跡	台東区文化財調査会	//
東京都台東区 上野忍岡遺跡群 上野動物園防火貯水槽建設地点	同上	//
上野忍岡遺跡群 国立国会図書館支部上野図書館地点	同上	//
名古屋市博物館 研究紀要第22巻	名古屋市博物館	//
堺川左岸遺跡・北区1遺跡	深川市教育委員会	//
内園3遺跡II	同上	//
國學院大學考古学資料館紀要第15輯	國學院大學考古学資料館	//
奥三面遺跡群	朝日村教育委員会	//
別当地遺跡・粟牧西遺跡	我孫子市教育委員会	//
西原遺跡	同上	//
八王子市尾崎遺跡II	八王子市教育委員会	//
八王子市 滝山高熈遺跡II	同上	//
平成10年度年報	千葉県立大利根博物館	//
企画展「東総の大般若経」展示図録	同上	//
群馬県立歴史博物館紀要 第20号	群馬県立歴史博物館	//
藤岡神社遺跡（遺物編）	栃木県教育委員会	19990701
山崎北・金沢・台耕上・関口遺跡	同上	//
下野国分寺跡 遺構編	同上	//
台畑遺跡・谷向遺跡	同上	//
清六III遺跡I（縄文・弥生・古墳時代編）	同上	//
清六III遺跡III（古墳時代編）	同上	//
清六III遺跡IV（古代・中世編）	同上	//
林遺跡III	(財)君津郡市文化財センター	19990722
万作台遺跡I	同上	//
椿古墳群II	同上	//
鼓戸古墳	同上	//
－千葉県 木更津市・君津市－ 夷隅線鉄塔建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書	同上	//

書名	寄贈者	受入日
高砂遺跡II	(財)君津郡市文化財センター	19990722
香取文書総目録	(財)千葉県史料研究財団	19990723
千葉県史研究第7号	同上	〃
東上総の近世	同上	〃
年報14 平成9年度 (付20年のあゆみ)	(財)広島県埋蔵文化財調査センター	〃
研究輯録IX	同上	〃
西本3・4号遺跡	同上	〃
移原遺跡発掘調査報告書	同上	〃
風呂之元古墳発掘調査報告書	同上	〃
寺之下・尾原	同上	〃
金田第2号古墳発掘調査報告書	同上	〃
宮山2号遺跡発掘調査報告書	同上	〃
廿日市町屋跡	同上	〃
中屋遺跡B地点発掘調査報告II	同上	〃
国営備北丘陵公園整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書	同上	〃
門田A遺跡 東横木山第1・4号古墳	同上	〃
駅家加茂地区内陸型複合団地造成事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書	同上	〃
和田原D地点遺跡発掘調査報告書	同上	〃
城遺跡発掘調査報告書	同上	〃
上粕屋・小山遺跡 (No.9・39) 三ノ宮・下御領原遺跡 (No.12西) 上粕屋・ノ引東遺跡 (No.40) 上粕屋・ノ引南遺跡 (No.41)	(財)かながわ考古学財団	〃
下大槻峯遺跡 (No.30) III	同上	〃
銚ノ木遺跡 (No.27)	同上	〃
三ノ宮・下谷戸遺跡 (No.14) I-旧石器時代・縄文時代草創期編-	同上	〃
上寺地遺跡 北郷里小遺跡	滋賀県教育委員会	〃
粟津湖底遺跡	同上	〃
大仏切通周辺詳細分布調査報告書	鎌倉市教育委員会	〃
鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 (第1分冊) (第2分冊)	同上	〃
動物デザイン考古学	(財)仙台市歴史文化事業団仙台市富沢遺跡保存館	〃
地底の森ミュージアム年報第3号	同上	〃
上野原遺跡	山梨県教育委員会	〃
西田遺跡調査報告書	同上	〃
矢坪遺跡・談合坂遺跡	同上	〃
山梨県堤防・河岸遺跡分布調査報告書	同上	〃
十五所遺跡	同上	〃
旧石井家住宅移築修理工事報告書	東広島市教育委員会	〃
吹越遺跡発掘調査報告書	(財)東広島市教育文化振興事業団文化財センター	〃
午王曾原遺跡発掘調査報告書	同上	〃
吹越遺跡発掘調査報告書II	同上	〃
史跡安芸国分寺跡発掘調査報告書	同上	〃
苫小牧市埋蔵文化財調査センター所報1	苫小牧市埋蔵文化財調査センター	〃
史跡吉川氏城館跡 吉川元春館跡	広島県教育委員会	〃
研究紀要5	東京都港区教育委員会	〃
大阪府立近つ飛鳥博物館館報4	大阪府立近つ飛鳥博物館	〃
百舌鳥・古市	同上	〃
よみがえる5世紀の世界	かみつけの里博物館	〃
かながわの考古学	(財)かながわ考古学財団	〃
上粕屋・上尾崎遺跡 (No.10) 上粕屋・ノ引北遺跡 (No.11)	同上	〃
上粕屋・ノ引西遺跡 (No.12東)		
神戸・上宿遺跡 (No.15)	同上	〃
広島城外堀跡紙屋町・大手町地点 -広島市中区紙屋町・大手町所在-	(財)広島市文化財団	〃
塔の岡古墳群 -広島市安佐北区白木町所在-	同上	〃

書名	寄贈者	受入日
広島城遺跡 基町高校グラウンド地点	(財)広島市文化財団	19990723
ガラスの勾玉づくり	同上	〃
古墳時代首長系譜変動パターンの比較研究	大阪大学	〃
国家形成期の考古学	同上	〃
尾張藩上屋敷跡遺跡発掘調査概要VII	(財)東京都生涯学習文化財団東京都埋蔵文化財センター	19990726
汐留遺跡	同上	〃
山川南本村遺跡 第1～4次調査	久留米市教育委員会	19990727
筑後国府跡 第152次調査	同上	〃
筑後国府跡 第155次調査概要	同上	〃
二本木遺跡ー第14・15次調査ー	同上	〃
一の左右遺跡・荒木今宮脇遺跡	同上	〃
上津・藤光遺跡群II	同上	〃
野中前遺跡 第2次調査	同上	〃
白口経塚遺跡ー第4・5・6次調査	同上	〃
筑後国府跡・国分寺跡	同上	〃
平成10年度 久留米市内遺跡群	同上	〃
ヘボノ木遺跡 第66次調査	同上	〃
筑後国府跡	同上	〃
上津・藤光遺跡群	同上	〃
釜利谷東6丁目西地区やぐら群	(財)かながわ考古学財団	〃
尾藤谷やぐら群	同上	〃
鹿島市内遺跡発掘調査報告書19	鹿島市教育委員会	〃
鹿島市内遺跡発掘調査報告書20	同上	〃
鹿島神宮駅北部埋蔵文化財調査報告VIII	同上	〃
中屋敷遺跡	美濃市教育委員会	〃
井出地区遺跡群 第2巻	群馬町教育委員会	〃
町内遺跡VIIー各種開発事業に係わる試掘確認調査ー	同上	〃
千葉県立房総風土記の丘年報21	千葉県立房総風土記の丘	〃
原町市内遺跡発掘調査報告書4	福島県原町市教育委員会	〃
町田遺跡	豊科町教育委員会	〃
鈴鹿市埋蔵文化財調査年報IV	鈴鹿市教育委員会	〃
鈴鹿市埋蔵文化財調査年報V	同上	〃
史跡上総国分寺跡	市原市教育委員会	19990810
研究連絡誌第54号	(財)千葉県文化財センター	〃
千葉県埋蔵文化財分布地図(3)	(財)千葉県文化財センター・千葉県教育庁	〃
中野谷松原遺跡(縄文時代遺物遺構編)(縄文時代遺物図版編)(縄文時代遺物本文編)、付図2	近藤敏	19990826
山武考古学研究所年報No.17	山武考古学研究所	〃
古代第106号	早稲田大学	〃
吉岡遺跡群V	(財)かながわ考古学財団	〃
蘇原東山遺跡群発掘調査報告書	各務原市教育委員会	〃
角田郡山遺跡VII	角田市教育委員会	〃
金山遺跡第4次・立石北遺跡第2次・京原遺跡第3次・一の沢遺跡第9次	境川村教育委員会	〃
京都府埋蔵文化財情報第72号	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	〃
湖の船ー木造船にみる知恵と工夫ー	滋賀県立琵琶湖博物館	〃
府中市内遺跡4	府中市教育委員会	〃
若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書	宮田眞	〃
名東遺跡	(財)徳島県埋蔵文化財センター	19990830
新蔵町1丁目遺跡 企業局総合管理センター(旧副知事公舎) 地点	同上	〃
庄遺跡II	同上	〃
庄遺跡III	同上	〃
観音寺木簡	同上	〃
市原の城	小高春雄	19990901
海ー海流に乗った古代の恋物語	島根県立八雲立つ風土記の丘資料館	〃
土浦市立博物館紀要第9号	土浦市立博物館	〃

書名	寄贈者	受入日
尾崎遺跡田元沖古墓	庄原市教育委員会	19990901
橋良遺跡 (II)	豊橋市教育委員会	//
吉田城址 (III)	同上	//
平成10年度三ツ山古墳調査概要 (1)	同上	//
沼下遺跡 (第3次)	寄居町遺跡調査会	//
用土前峯遺跡 (1次)	同上	//
末野寮跡第8志群2	同上	//
町内遺跡7	寄居町教育委員会	//
用土高城遺跡用土北沢遺跡 (4次)	同上	//
毛長川流域の考古学的調査	足立区伊興遺跡調査会	//
伊興遺跡II	同上	//
連郷遺跡	いわき市教育委員会	//
五反田A遺跡	同上	//
白岩堀ノ内館跡	同上	//
小茶円遺跡 (馬場地区)・上ノ内遺跡 (第2次調査)	同上	//
屋敷前遺跡	同上	//
滝ノ作遺跡	同上	//
大場C遺跡	同上	//
静岡県埋蔵文化財研究所年報XV	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	19990902
1999年度出土品図録	同上	//
川合遺跡八反田地区I	同上	//
箕輪遺跡	同上	//
山の神遺跡	同上	//
瀬名川遺跡	同上	//
方吹遺跡	同上	//
北ノ入A遺跡	同上	//
多摩ニュータウン遺跡	(財)東京都生涯学習文化財団東京都埋蔵文化財センター	//
埋蔵文化財調査概要－平成10年度－	(財)富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所	//
埋蔵文化財年報 (10)	同上	//
富山考古学研究－紀要第2号－	同上	//
小寺遺跡	古川市教育委員会	//
名生館官衙遺跡XV	同上	//
鴻ノ巣館跡	同上	//
名生館官衙遺跡XVI	同上	//
留沼遺跡	同上	//
桜井市平成9年度国庫補助による発掘調査報告書	桜井市教育委員会・桜井市立埋蔵文化財センター	//
桜井市平成10年度国庫補助による発掘調査報告書	同上	//
桜井市内埋蔵文化財1994年度発掘調査報告書1	(財)桜井市文化財協会	//
桜井市内埋蔵文化財1996年度発掘調査報告書2	同上	//
大栄町内遺跡発掘調査報告書－かのへ塚7号墳	大栄町教育委員会	//
八王子市埋蔵文化財年報－平成10年度－	八王子市教育委員会	//
東京都八王子市梅坪・沖の前遺跡	同上	//
研究紀要第5号	(財)京都市埋蔵文化財研究所	//
平成9年度京都市埋蔵文化財調査概要	同上	//
多摩ニュータウン遺跡	(財)東京都生涯学習文化財団東京都埋蔵文化財センター	//
沼津市博物館紀要23	沼津市歴史民俗資料館	//
福知山市文化財調査報告書第37集	福知山市教育委員会	//
福知山市文化財調査報告書第38集	同上	//
加賀一丁目 (東京家政大学構内) 遺跡発掘調査報告書	板橋区教育委員会	//
志村坂上遺跡 F 地点発掘調査報告書	同上	//
東京都板橋区成増新田原遺跡発掘調査報告書	板橋区遺跡調査会	//
平取遺跡	平取町教育委員会	//
旧平取小学校植物園遺跡	同上	//
多摩ニュータウン遺跡	(財)東京都生涯学習文化財団東京都埋蔵文化財センター	//

書名	寄贈者	受入日
復刻版博物館ノートNo.51～No.100	大田区立郷土博物館	19990902
国立歴史民俗博物館研究報告第80集	国立歴史民俗博物館	//
国立歴史民俗博物館研究報告第82集	同上	//
トイレ遺構の総合的研究	奈良国立文化財研究所	//
宮司遺跡II鴨田遺跡VI	滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会	//
長野県松本市出川西遺跡VI緊急発掘調査報告書	松本市教育委員会	//
長野県松本市高宮遺跡II緊急発掘調査報告書	同上	//
長野県松本市菟川寺遺跡I緊急発掘調査報告書	同上	//
長野県松本市出川南遺跡V緊急発掘調査報告書	同上	//
長野県松本市旧射的場西遺跡I I I緊急発掘調査報告書	同上	//
長野県松本市旧射的場西遺跡IV緊急発掘調査報告書	同上	//
信濃浅間古墳	同上	//
埋蔵文化財発掘調査概報集7	横須賀市教育委員会	//
吉井城山	同上	//
長浜ノ上遺跡・長浜ノ上遺跡(補遺)	同上	//
さんだのいせき43～45企画展さんじゅうろく～よんじゅうよん	三田市教育委員会	//
駒平遺跡	豊富村教育委員会	19990909
平成10年度村内遺跡発掘調査報告書	同上	//
平成10年度印西市内遺跡発掘調査報告書	印西市教育委員会	19990910
千葉県印西市駒形西遺跡	同上	//
千葉県立総南博物館年報6	千葉県立総南博物館	//
図書目録I{(財)長野県埋蔵文化財センター}	蜂屋孝之	//
千葉県夷隅町埋蔵文化財分布地区	同上	//
千葉県岬町埋蔵文化財分布地区	同上	//
地学資料千倉・豊房層群鍵層集(1998年版)	千葉県立中央博物館	//
関東の四紀No.19	近藤敏	//
関東の四紀No.20	同上	//
関東の四紀No.21	同上	//
第32回遺跡発掘調査報告会発表要旨	同上	//
古市遺跡群1	(財)鳥取県教育文化財団鳥取県埋蔵文化財センター	//
上菅荒神原遺跡	同上	//
長瀬高浜遺跡VIII	同上	//
飛鳥山遺跡II	北区教育委員会	//
山の神遺跡1998	(財)浜松市文化協会	//
西畑屋遺跡1999	同上	//
千葉県史編さん資料千葉県地域史料現状記録調査報告書第5集佐原市清宮利右衛門家文書	(財)千葉県史料研究財団	//
千葉県史編さん資料千葉県近現代資料報告書『時局事務監査に関する件』上、中、下	同上	//
塩部遺跡	山梨県教育委員会	//
大月遺跡	同上	//
一ノ坪遺跡発掘調査報告書	同上	//
甲ッ原遺跡IV	同上	//
諏訪前遺跡	同上	//
町内遺跡発掘調査報告書第8集	北条町教育委員会	//
千葉県の産業・交通遺跡	千葉県立現代産業科学館	//
諸洞遺跡・大坪遺跡	(財)岐阜県文化財保護センター	//
太田遺跡発掘調査報告書	名神高速道路内遺跡調査会	//
千葉県野栄町堀川館跡	(財)東総文化財センター	19990913
財団法人東総文化財センター年報4平成9年度	同上	//
財団法人山武郡市文化財センター年報No.15	(財)山武郡市文化財センター	//
松尾寺遺跡発掘調査報告書	米原町教育委員会	//
宿根西遺跡発掘調査報告書	玉川文化財研究所	//
麦わら細工の輝き	大田区立郷土博物館	//

書名	寄贈者	受入日
多摩ニュータウン遺跡	(財)東京都生涯学習文化財団東京都文化財センター	19990913
田島町上ノ台遺跡発掘調査報告書	福島県立博物館	//
明治大学博物館図書目録第1号	明治大学博物館事務室	//
明治大学博物館研究報告第4号	同上	//
鶴ヶ島市内遺跡発掘調査報告書II	鶴ヶ島市教育委員会	//
新右衛門遺跡第7次発掘調査報告書	同上	//
鶴ヶ島中学西遺跡第2次調査発掘調査報告書	同上	//
当貫遺跡発掘調査報告書	同上	//
鶴ヶ島市内遺跡発掘調査報告書一天狗遺跡3次調査	同上	//
鶴ヶ島市内遺跡発掘調査報告書一天狗遺跡X・Y・Z地点	同上	//
鶴ヶ島市内遺跡発掘調査報告書一天狗遺跡J地点13区調査	同上	//
鶴ヶ島の石造物	同上	//
箕面北部丘陵地区埋蔵文化財発掘調査報告書	(財)大阪府文化財調査研究センター	19990914
池島・福万寺遺跡発掘調査概要	同上	//
久宝寺遺跡・竜華地区発掘調査報告書II	同上	//
東奈良遺跡	同上	//
箕面市下止々呂美所在小畑遺跡	同上	//
中之社遺跡他発掘調査報告書	同上	//
吹田操車場遺跡	同上	//
田須谷古墳群	同上	//
大阪文化財研究第15号	同上	//
第39回大阪府埋蔵文化財研究会資料集	同上	//
三吉野遺跡群井戸端地区・阿岐野遺跡発掘調査報告書	日の出町教育委員会	//
千葉いまむかし第11号	築瀬裕一	//
財団法人千葉市文化財調査協会年報11－平成9年度－	同上	//
奥の坊遺跡群I(奥ノ坊地区(試掘)大空古墳金川淵古墳)	高松市教育委員会	//
高松城跡(作事丸)	同上	//
史跡高松城跡(地久櫓跡・三ノ丸跡)	同上	//
焼き物にみる中世の世界	上高津貝塚ふるさと歴史の広場	//
新田遺跡	同上	//
三夜原東遺跡・新堀東遺跡・壺杯清水西遺跡	同上	//
前谷遺跡群(東原遺跡・前谷東遺跡・前谷西遺跡)・東原観音塚	同上	//
六十塚遺跡9	同上	//
島根大学構内遺跡第6・7次調査(橋本地区1・2)	島根大学埋蔵文化財調査研究センター	//
島根大学構内遺跡第5・9次調査(京田地区1・諸田地区4)	同上	//
館山市大寺山洞穴遺跡発掘調査報告書III	館山市教育委員会	//
平成10年度瀬戸市埋蔵文化財センター年報	(財)瀬戸市埋蔵文化財センター	//
武蔵大学人文学会雑誌第119号	武蔵大学人文学会	//
船窪II	(財)ひたちなか市文化・スポーツ振興公社	//
市内遺跡調査報告5	所沢市教育委員会	//
和田遺跡第9次調査	同上	//
所沢市立埋蔵文化財調査センター年報No4	同上	//
上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書21	長野県教育委員会	//
小野	松戸市遺跡調査会	19990920
発掘!!あおまだに	(財)大阪府文化財調査研究センター	//
多摩ニュータウン遺跡	(財)東京都生涯学習文化財団東京都文化財センター	//
上沖(大沢)遺跡	上田市教育委員会	19990921
西之手遺跡	同上	//
八幡裏遺跡IV	同上	//
浦田B遺跡	同上	//
駕籠田(築地)遺跡	同上	//
八幡裏遺跡V	同上	//
銀杏木・宮原遺跡	同上	//
高田遺跡	同上	//
平成10年度市内遺跡	同上	//

書名	寄贈者	受入日
岩滝山第4次遺跡発掘調査報告書	(財)東大阪市文化財協会	19990921
客坊山遺跡群第2次発掘調査報告書	同上	〃
水走・鬼虎川遺跡発掘調査報告	同上	〃
(財)東大阪市文化財協会概報集-1997年度-	同上	〃
鬼虎川遺跡第35-2・3次発掘調査報告	同上	〃
上小阪遺跡第3次発掘調査報告	同上	〃
ビル建設工事に伴う宮ノ下遺跡第10次発掘調査報告	同上	〃
若江遺跡第70次・第75次発掘調査報告書	同上	〃
南小泉遺跡	仙台市教育委員会	〃
柳生台畑遺跡	同上	〃
陸奥国分尼寺跡ほか発掘調査報告書	同上	〃
池子遺跡群総集編	(財)かながわ考古学財団	〃
井門I遺跡・井門II遺跡	(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター	〃
愛比売	同上	〃
市川橋遺跡	多賀城市教育委員会	19990924
市川橋遺跡	多賀城市埋蔵文化財調査センター	〃
西沢遺跡	同上	〃
小沢原遺跡・高崎遺跡	同上	〃
市川橋遺跡	同上	〃
高崎遺跡ほか	同上	〃
市川橋遺跡	同上	〃
多賀城市埋蔵文化財調査センター年報平成9年度	同上	〃
堂山2号墳・堂山古墳発掘調査報告書	磐田市教育委員会	〃
赤池ヶ谷1号墳発掘調査報告書	同上	〃
新貝・鎌田古墳群発掘調査報告書	同上	〃
多摩ニュータウン遺跡	(財)東京都生涯学習文化財団東京都埋蔵文化財センター	〃
瀧ノ原遺跡	大分県教育委員会	〃
ナシカ谷遺跡発掘調査報告書	同上	〃
中尾近世墓地	同上	〃
府内城下町遺跡	同上	〃
大分県埋蔵文化財年報7	同上	〃
小迫辻原遺跡I	同上	〃
荏隈杉下遺跡	同上	〃
玉沢地区条里跡遺跡群	同上	〃
馬姓遺跡北ノ後遺跡乙院屋敷遺跡	同上	〃
夕田遺跡群	同上	〃
堂ノ間遺跡	同上	〃
龍頭遺跡	同上	〃
スポーツ公園内遺跡群発掘調査報告書(第1分冊)(第2分冊)(第3分冊)(第4分冊)(付図)	同上	〃
古国府遺跡群上芦原地区土毛地区甲斐本地区	同上	〃
板橋区四葉地区遺跡・平成9年度	板橋区四葉遺跡調査会	〃
十条久保遺跡	十条久保遺跡調査会	〃
大伏古窯分布調査報告書	妙見山麓遺跡調査会	〃
西安田長野遺跡群調査報告I	同上	〃
縄文人の暮らしと環境	早稲田大学考古学研究室	19991001
山内清男考古資料10岩手県足沢遺跡資料	奈良国立文化財研究所	〃
大阪市立博物館報No.38	大阪市立博物館	〃
一宮の文化財めぐり	一宮市教育委員会	〃
国立歴史民俗博物館第81集	国立歴史民俗博物館	19991004
埋蔵文化財センター年報9平成10年度	(財)横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター	〃
貝塚博物館紀要第26号	千葉市立加曾利貝塚博物館	〃
貝塚博物館研究資料集第5集貝層の研究I	同上	〃
鏡を作る	奈良国立文化財研究所飛鳥資料館	〃
西福田新田遺跡郷清水遺跡上中島遺跡上滝ノ沢遺跡中の原D遺跡窪畑B遺跡	(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団	〃

書名	寄贈者	受入日
旭方I遺跡・旭方1号箱式石棺・柳内遺跡・宮ノ谷遺跡・大川遺跡・正法寺遺跡	(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター	19991004
上井遺跡	同上	〃
鹿の子古墳群新谷森ノ前遺跡	同上	〃
馬島亀ヶ浦遺跡馬島ハゼヶ浦遺跡	同上	〃
上開田村平遺跡	(財)岐阜県文化財保護センター	〃
上原遺跡I(第1分冊)(第2分冊)	同上	〃
白久保遺跡(第1分冊近世以降～弥生時代)(第2分冊縄文時代)(第3分冊自然科学分析・写真図版)	(財)かながわ考古学財団	〃
多摩ニュータウン遺跡	(財)東京都生涯学習文化財団東京都埋蔵文化財センター	〃
大阪市埋蔵文化財発掘調査報告-1996年度-	(財)大阪市文化財協会	〃
大阪市埋蔵文化財発掘調査報告-1997年度-	同上	〃
長原・瓜破遺跡発掘調査報告XII	同上	〃
大阪市埋蔵文化財協会研究紀要第2号	同上	〃
研究紀要第15号	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	19991005
埼玉県埋蔵文化財調査事業団年報19	同上	〃
外東ノ神田天神後ノ大久保条里	同上	〃
末野遺跡II	同上	〃
根際遺跡	同上	〃
妙音寺ノ妙音寺洞穴	同上	〃
宮地墓地遺跡	同上	〃
城見上ノ末野IIIノ花園城跡ノ箱石	同上	〃
大道東遺跡	同上	〃
下向沢ノ中原	同上	〃
膳棚東遺跡	同上	〃
下ノ台遺跡	同上	〃
岡部条里ノ戸森前	同上	〃
戸崎前遺跡ノ薬師堂根遺跡	同上	〃
八ノ島遺跡	同上	〃
在家遺跡	同上	〃
要害山城跡	同上	〃
私市城武家屋敷跡	同上	〃
御林下遺跡	同上	〃
西富田・四方田条里遺跡	同上	〃
折原石道遺跡	同上	〃
宮ノ後遺跡	同上	〃
白楸宮腰遺跡	同上	〃
中里前原遺跡	同上	〃
小村田西ノ小村田ノ関東	同上	〃
馬場裏遺跡	同上	〃
沖田Iノ沖田IIノ沖田III	同上	〃
菖蒲城跡	同上	〃
越名西遺跡・越名河岸跡	栃木県教育委員会	〃
浄法寺遺跡	同上	〃
寺野東遺跡I(旧石器時代編)	同上	〃
寺野東遺跡IV(縄紋時代谷部編-1)(縄紋時代谷部編-2)	同上	〃
雨ヶ谷宮遺跡・雨ヶ谷西坪遺跡	同上	〃
上荒屋遺跡III	金沢市埋蔵文化財センター	〃
戸水遺跡群I戸水ホコダ遺跡	同上	〃
堅田B遺跡	同上	〃
扇台遺跡・金石本町遺跡・矢木ジワリ遺跡・夕日寺跡遺跡	同上	〃
下本田町遺跡	同上	〃
平成10年度金沢市埋蔵文化財調査年報	同上	〃
八日市ヤスマル遺跡	同上	〃
上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書18	長野県文化振興事業団長野県埋蔵文化財センター	〃

書名	寄贈者	受入日
北落遺跡 調査年報11	滋賀県教育委員会 財北海道埋蔵文化財センター	19991005 〃
函館市中野B遺跡	同上	〃
長万部町富野3遺跡	同上	〃
恵庭市ユカンボシE7遺跡	同上	〃
千歳市ユカンボシC遺跡(2)	同上	〃
千歳市キウス4遺跡(3) A・H・K・I地区(第1分冊)(第2分冊写真図版)	同上	〃
千歳市キウス4遺跡(4) A2地区	同上	〃
千歳市キウス5遺跡(7)・キウス7遺跡(6)	同上	〃
武蔵国分寺跡西方地区府中病院道路拡幅に伴う調査報告書	府中病院内遺跡調査会	〃
武蔵国分寺跡西方地区武蔵台遺跡IV	同上	〃
西久保広町遺跡	茅ヶ崎市教育委員会	〃
矢畑金山遺跡II	同上	〃
上ノ町・広町遺跡	同上	〃
武蔵国分寺南西地区発掘調査報告(第1分冊本文・図面編)(第2分冊写真図版編)	武蔵国分寺関連(府中都市計画道路3・2・2の2号線)遺跡調査会	19991006
国道バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報	財香川県埋蔵文化財調査センター	〃
四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報	同上	〃
県道関係埋蔵文化財発掘調査概報平成10年度	同上	〃
都市計画道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報平成10年度松並・中所遺跡	同上	〃
高松北警察署建設に伴う埋蔵文化財調査概報高松城跡平成10年度	同上	〃
県営住宅建設に伴う埋蔵文化財調査概報平成10年度山南遺跡	同上	〃
香川県警察本部機動隊舎建設に伴う埋蔵文化財調査概報 汲川遺跡平成10年度	同上	〃
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報平成10年度	同上	〃
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター研究紀要VII 讃岐II	同上	〃
平成11年度第2回企画展赤土の中の文化～八千代市域の 旧石器時代	八千代市歴史民俗資料館	19991007
梶子遺跡(その2)	財浜松市文化協会	〃
大山本村遺跡	同上	〃
東野宮遺跡B	同上	〃
東野宮遺跡A	同上	〃
山ノ花遺跡(遺構編(図版))(木器編(図版))(遺物図 版編)	同上	〃
梶子北遺跡(遺構編(本文))(遺構編(写真図版))(遺 物編(図版))(木器編)	同上	〃
以来尺遺跡III(上巻)(下巻)(付図)	福岡県教育委員会	〃
原の東遺跡II	同上	〃
九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告-54-(上巻) (下巻)	同上	〃
朝倉郡朝倉町所在長島遺跡の調査II	同上	〃
畑田遺跡	同上	〃
鷹取五反田遺跡II(上巻)(下巻)	同上	〃
百留居屋敷遺跡	同上	〃
上唐原了清遺跡I	同上	〃
堀池口ヶ坪遺跡	同上	〃
貝元遺跡(上巻)(下巻)	同上	〃
福岡県埋蔵文化財発掘調査年報-平成8年度-	同上	〃
武田石高遺跡古墳時代編(第1分冊)(第2分冊)	財ひたちなか市文化・スポーツ新興公社	19991008
日野市四ツ谷前地区小峯ビル遺跡埋蔵文化財発掘調査報 告書	四ツ谷前地区小峯ビル遺跡調査団	〃
年報18<平成10年度>	財茨城県教育財団	〃
研究ノート8号	同上	〃
武蔵国分寺跡西方地区武蔵台東遺跡	都営川越道住宅遺跡調査会	〃

書名	寄贈者	受入日
埋蔵文化財調査室年報15平成9年度	(財)北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室	19991008
研究紀要第13号	同上	//
金山遺跡I・V区	同上	//
金山遺跡III区	同上	//
峠遺跡2	同上	//
片伊田遺跡5	同上	//
小倉城御蔵跡(付図)	同上	//
常磐橋西勢溜り跡	同上	//
重留遺跡第2地点	同上	//
永犬丸遺跡群3(松本遺跡・中伏遺跡・永犬丸遺跡)	同上	//
園田浦城跡	同上	//
光照寺遺跡1	同上	//
長野角屋敷遺跡	同上	//
光照寺遺跡2	同上	//
御座遺跡群	同上	//
御座古墳群	同上	//
中貫遺跡	同上	//
水田跡・畑跡をめぐる自然科学	東日本の水田跡を考える会	19991012
総社市埋蔵文化財調査報告	総社市教育委員会	//
財団法人八尾市文化財調査研究会報告62	(財)八尾市文化財調査研究会	//
財団法人八尾市文化財調査研究会報告63	同上	//
平成10年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告	同上	//
大久保山V	早稲田大学本庄校地文化財調査室	//
大久保山VII	同上	//
観音山古墳と東アジア世界	群馬県立歴史博物館	//
史跡小田原城跡銅門復原工事報告書	小田原市教育委員会	//
千代仲ノ町遺跡第IV地点	同上	//
小田原城下中宿町遺跡第III地点	同上	//
小田原城下欄干橋町遺跡第V地点	同上	//
小田原城三の丸大久保雅楽介邸跡第V地点	同上	//
平成8年度小田原市緊急発掘調査報告書4	同上	//
平成8年度小田原市緊急発掘調査報告書5	同上	//
小田原城三の丸服部孝太郎邸跡第I地点	同上	//
小野川流域の遺跡II	(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター	//
松山大学構内遺跡III	同上	//
瀬戸風峠遺跡	同上	//
船ヶ谷遺跡2次調査	同上	//
船ヶ谷遺跡3次調査	同上	//
乃万の裏遺跡	同上	//
松山市埋蔵文化財調査年報11	同上	//
国分寺下日名代遺跡	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	//
中間西井坪遺跡II(本文編)(観察表・写真図版編)	同上	//
多肥松林遺跡	同上	//
多摩ニュータウン遺跡(本文編)(図版編)	(財)東京都生涯学習文化財団東京都埋蔵文化財センター	//
池子遺跡群VIII	(財)かながわ考古学財団	19991013
財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団年報平成10年度	(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団	//
牛道遺跡	同上	//
金塚遺跡・三仏生遺跡・割目A遺跡	同上	//
和泉A遺跡(本文・観察表編)(図版編)	同上	//
梅坪遺跡V	豊田市教育委員会	//
南山畑遺跡	同上	//
梅坪遺跡VII	同上	//
千葉県印西市 松山2号墳発掘調査報告書	(財)印旛都市文化財センター	//
宮内井戸作遺跡I地区	同上	//

書名	寄贈者	受入日
稲荷谷津遺跡・狐谷津遺跡・木戸遺跡・郷山遺跡・塚越遺跡・谷津台遺跡	(財)印旛郡市文化財センター	19991013
南囲護台遺跡(第2地点)	同上	〃
南羽鳥遺跡群III(本文編)(図版・写真編)(付図)	同上	〃
西村邸屋敷跡遺跡	同上	〃
川栗遺跡I	同上	〃
平成6年度財団法人印旛郡市文化財センター年報11	同上	〃
平成7年度財団法人印旛郡市文化財センター年報12	同上	〃
平成8年度財団法人印旛郡市文化財センター年報13	同上	〃
平成9年度財団法人印旛郡市文化財センター年報14	同上	〃
財団法人印旛郡市文化財センター第3回遺跡発表会発表要旨	同上	〃
考古学と自然科学第36号	近藤敏	〃
考古学と自然科学第37号	同上	〃
中原遺跡他発掘調査報告書	兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所	〃
美乃利遺跡(本文編)(写真図版編)(図版編)	同上	〃
禿山遺跡他発掘調査報告書	同上	〃
南本町遺跡	同上	〃
塩淵3号墳	同上	〃
高畑町遺跡II	同上	〃
清水遺跡	同上	〃
高畑町遺跡(I)	同上	〃
安倉南遺跡	同上	〃
屋敷町遺跡	同上	〃
東京都埋蔵文化財センター年報19	(財)東京都生涯学習文化財団 東京都埋蔵文化財センター	19991018
正覚院館跡	八千代市教育委員会	〃
高津新田野馬堀	同上	〃
千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書平成11年度	同上	〃
富山県埋蔵文化財センター年報平成9年度	富山県埋蔵文化財センター	19991019
栃木の遺跡	栃木県立なす風土記の丘資料館	〃
神奈川県埋蔵文化財調査報告41	神奈川県教育委員会	〃
郡山遺跡	仙台市教育委員会	〃
富沢遺跡	同上	〃
後河原遺跡	同上	〃
細田遺跡調査報告書	磐前県文化振興事業団埋蔵文化財センター	〃
長渡遺跡・小長根II遺跡発掘調査報告書	同上	〃
花立I遺跡(第9次・第12次・第13次)・衣関遺跡(第5次)発掘調査報告書	同上	〃
萱中III遺跡発掘調査報告書	同上	〃
房の沢IV遺跡発掘調査報告書	同上	〃
尿前II遺跡A地区発掘調査報告書	同上	〃
大鳥I遺跡発掘調査報告書	同上	〃
峠山牧場I遺跡A地区発掘調査報告書(第1分冊)(第2分冊)	同上	〃
耳取I遺跡B地区発掘調査報告書	同上	〃
台太郎遺跡第16次発掘調査報告書	同上	〃
野沢IV遺跡発掘調査報告書	同上	〃
芦名沢I遺跡発掘調査報告書	同上	〃
長谷堂貝塚発掘調査報告書	同上	〃
下館銅屋遺跡発掘調査報告書(分冊1本文編)(分冊2写真図版編)	同上	〃
北野IV遺跡調査報告書	同上	〃
小平I遺跡発掘調査報告書	同上	〃
上尾田の館跡発掘調査報告書	同上	〃
大平遺跡発掘調査報告書	同上	〃
庫理遺跡発掘調査報告書	同上	〃
有矢野館跡発掘調査報告書	同上	〃
芋田II遺跡発掘調査報告書	同上	〃

書名	寄贈者	受入日
板子沢遺跡発掘調査報告書	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	19991019
大芦I遺跡発掘調査報告書	同上	〃
南田I遺跡発掘調査報告書	同上	〃
本宮熊堂B遺跡第4次・鬼柳A遺跡第4次発掘調査報告書	同上	〃
台太郎遺跡第15次発掘調査報告書	同上	〃
山口館跡発掘調査報告書	同上	〃
岩手県埋蔵文化財発掘調査略報	同上	〃
オミ坂遺跡発掘調査報告書	同上	〃
一般国道50号下館バイパス改築工事地内埋蔵文化財発掘調査報告書	(財)茨城県教育財団	〃
(仮称)中根・金田台地区特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書	同上	〃
北浦複合団地造成事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書	同上	〃
主要地方道大洗友部線道路改良工事地内埋蔵文化財発掘調査報告書2	同上	〃
一般県道赤浜谷田部線単道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	同上	〃
取手都市計画事業下高井特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書III	同上	〃
荒川本郷地区特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書I	同上	〃
一般国道50号結城バイパス改築工事地内埋蔵文化財発掘調査報告書(上巻)(下巻)	同上	〃
伊奈・谷和原丘陵部特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書4(上巻)(中巻)(下巻)	同上	〃
伊奈・谷和原丘陵部特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書5(上巻)(下巻)	同上	〃
一般県道石岡田伏土浦線道路改良工事埋蔵文化財発掘調査報告書	同上	〃
(仮称)鳥名・福田坪地区特定土地地区画整理埋蔵文化財発掘調査報告書(上巻)(下巻)	同上	〃
北関東自動車道(友部～水戸)建設工事内埋蔵文化財発掘調査報告書III	同上	〃
荒川本郷地区特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書II	同上	〃
研究紀要16	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	19991020
白川傘松遺跡(遺構編)(遺物編本文・図版)(遺物編・写真図版)(付図)	同上	〃
白倉下原・天引向原遺跡IV(本文編)(写真図版編)(観察表編)	同上	〃
南蛇井増光寺遺跡VI(本文編)(写真図版編)	同上	〃
下小鳥神戸遺跡	同上	〃
浜川遺跡群(付図)	同上	〃
下東西清水上遺跡	同上	〃
荒砥上ノ坊遺跡IV(本文・図版編)(遺構一覧・遺物観察表編)(付図)	同上	〃
三和工業団地I遺跡(1)―旧石器時代編―	同上	〃
下植木壺町田遺跡(付図)	同上	〃
下芝五反田遺跡―奈良・平安時代以降編―(第1分冊)(第2分冊)(第3分冊)(第4分冊)	同上	〃
荒砥下押切II遺跡・荒砥中層敷II遺跡	同上	〃
高浜広神遺跡	同上	〃
三和工業団地I遺跡(2)―縄文・古墳・奈良・平安時代他編―(本文)(遺物観察表)	同上	〃
井野屋敷前遺跡	同上	〃
埋蔵文化財発掘調査概報集1997	相模原市教育委員会	19991021
埋蔵文化財発掘調査概報集1998	同上	〃
埋蔵文化財発掘調査概報集1999	同上	〃
下溝上谷開戸遺跡	同上	〃
下九沢下作ノ口遺跡	同上	〃

書名	寄贈者	受入日
相模原市No.76遺跡	相模原市教育委員会	19991021
平塚市史11上別編考古(1)	平塚市	〃
諏訪町遺跡	文京区遺跡調査会	〃
上富士前町遺跡第II地点	同上	〃
よみがえる大田区の風景	大田区立郷土博物館	〃
上野遺跡浅間神社西側横穴墓群	大和市教育委員会	19991022
下鶴間浅間社遺路・下ノ原横穴墓・公所横穴群	同上	〃
上和田・下和田の民俗	同上	〃
深見・上草柳・下草柳の民俗	同上	〃
一般国道246号線(大和厚木バイパス)地域内遺跡発掘調査概報	同上	〃
中ノ原遺跡・南善ヶ谷戸横穴群・大和市No.2地点遺跡・大和市No.105地点遺跡	同上	〃
福田札ノ辻遺跡採集の石器・目黒川東岸遺跡採集の資料	同上	〃
一般国道246号線(大和・厚木バイパス)地域内発掘調査報告I	同上	〃
一般国道246号線(大和・厚木バイパス)地域内発掘調査報告II	同上	〃
一般国道246号線(大和・厚木バイパス)地域内発掘調査報告III	同上	〃
大和市の民俗総括編	同上	〃
上和田の旧小川家住宅解体調査編	同上	〃
台山遺跡・深見神社北遺跡・大和市南善ヶ谷戸横穴出土人骨について・長堀南遺跡の調査	同上	〃
台山遺跡第2地点・上野遺跡第4地点・下和田中ノ原遺跡C地点	同上	〃
下和田の旧関水家住宅	同上	〃
大和の絵馬	同上	〃
月見野遺跡群上野遺跡第1地点	同上	〃
大和のあけぼの	同上	〃
月見野遺跡群上野遺跡第3地点	同上	〃
長堀南遺跡発掘調査報告書	同上	〃
下鶴間の旧北島家住宅解体調査編	同上	〃
福田札ノ辻遺跡	同上	〃
大和のあけぼのII	同上	〃
民俗学への招待	同上	〃
相模野第149遺跡	同上	〃
月見野遺跡群上野遺跡第1地点第4次調査	同上	〃
大和市の脊椎動物	同上	〃
月見野遺跡群相ノ原遺跡	同上	〃
長堀北遺跡(資料編)(本文編)	同上	〃
大和市の植物	同上	〃
大和市の昆虫	同上	〃
深見神社南遺跡	同上	〃
下和田下ノ原遺跡・深見山王塚遺跡・No.111地点遺跡・No.5地点遺跡・No.11遺跡・No.44遺跡	同上	〃
上和田の旧白井家住宅	同上	〃
中ノ原遺跡D地点	同上	〃
絶滅生物誌	同上	〃
大和の自然ウォッチング	同上	〃
大和の民家2	同上	〃
神奈川県大和市の方言	同上	〃
深見の旧富澤家住宅	同上	〃
神奈川県大和市の方言2	同上	〃
大和市ことばのカルテ	同上	〃
下鶴間長堀遺跡第2地点	同上	〃
福田江窪遺跡・No.46地点遺跡・下鶴間乙八号遺跡・上和田久田原遺跡・月見野遺跡群上野遺跡第3地点第2次調査	同上	〃
福田の旧蓮慶寺本堂	同上	〃

書名	寄贈者	受入日
大塚戸遺跡B・C地点	大和市教育委員会	19991022
市重文旧小川家住宅旧北島家住宅移築復原工事報告書 (本文編)(写真編)	同上	//
大和市の民具1	同上	//
埋蔵文化財の保管と活用のための基礎的整理報告書2	同上	//
大和市No210遺跡	同上	//
枚方市文化財年報20(1998年度分)	(財)枚方市文化財研究調査会	//
飛ノ台貝塚第4次発掘調査報告書	船橋市教育委員会	//
土井ヶ浜遺跡第17次発掘調査報告書	近藤敏	//
ガラスの器	大宮市立博物館	19991025
三輪・宮ノ越遺跡	三田市教育委員会	//
上井沢土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査の記録	同上	//
三田焼の研究	同上	//
釧路市幣舞遺跡調査報告書IV	釧路市埋蔵文化財調査センター	19991026
ウエノ遺跡	(財)徳島県埋蔵文化財センター	//
徳島県埋蔵文化財センター年報Vol. 7	同上	//
徳島県埋蔵文化財センター年報Vol. 8	同上	//
徳島県埋蔵文化財センター年報Vol. 9	同上	//
徳島県埋蔵文化財センター研究紀要真朱第3号	同上	//
博物館要覧	袖ヶ浦市郷土博物館	//
袖ヶ浦市郷土博物館展示解説書	同上	//
袖ヶ浦市史研究第7号	同上	//
袖ヶ浦市史自然・民俗編	同上	//
袖ヶ浦市史資料編1原始・古代・中世	同上	//
横川大林遺跡(上ノ平遺跡)横川萩の反遺跡(萩の反遺跡)原遺跡(坂本遺跡)西野牧小山平遺跡(恩賀遺跡)	近藤敏	//
五料平遺跡(五料I遺跡)五料野ヶ久保遺跡(五料II遺跡)	同上	//
五料稲荷谷戸遺跡(高墓遺跡)	同上	//
下鎌田遺跡(本文編)(写真図版編)	同上	//
新堀東源ヶ原遺跡(第1分冊本文編)(第2分冊挿図編)(第3分冊図版編)(付図)	同上	//
行田梅木平遺跡(行田II遺跡)(本文編)(写真図版編)(付図)	同上	//
青山史学第17号	青山学院大学文学部史学研究室	19991101
京都府埋蔵文化財情報第73号	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	//
幻の国府を掘る	田所真	19991102
西ヶ洞遺跡・西ヶ洞古墳群	(財)岐阜県文化財保護センター	//
鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報13	鹿児島大学埋蔵文化財調査室	//
市原市郡本周辺の遺跡と文化財	浅利幸一	//
西隼上り遺跡発掘調査概報	宇治市教育委員会	//
若林遺跡発掘調査概報	同上	//
宇治市埋蔵文化財発掘調査概報	同上	//
宇治市街遺跡発掘調査概報	同上	//
神楽遺跡	妙見山麓遺跡調査会	//
奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター埋蔵文化財発掘技術者特別研修生産遺跡調査過程	小橋健司	//
市原市南青野遺跡	(財)千葉県文化財センター	//
茶白山1号墳	四日市市教育委員会	19991105
菖蒲谷遺跡	同上	//
公事出遺跡2	同上	//
一般国道1号北勢バイパス埋蔵文化財発掘調査概報III	同上	//
四日市市文化財保護年報9	同上	//
東起古墳	四日市市遺跡調査会	//
近世の村	近藤敏	//
武蔵の山河に生きた人びと	同上	//
吹田の歴史と文化	同上	//
惣右衛門の民俗	同上	//
志木風土記(第二集)	同上	//
史跡秋田城跡整備事業報告書	秋田市教育委員会	19991115

書名	寄贈者	受入日
館山遺跡発掘調査報告書－旧石器・縄文・弥生時代編－	玉里村教育委員会	19991115
玉里村立史料館報第4号	玉里村立史料館	〃
地方王権の時代	同上	〃
千葉県文化財センター研究紀要19	(財)千葉県文化財センター	〃
国立歴史民俗博物館研究報告第79集	国立歴史民俗博物館	〃
うつわ創刊号	近藤敏	〃
多摩ニュータウン遺跡	(財)東京都生涯学習文化財団東京都埋蔵文化財センター	〃
MUSEUMちば第20号	千葉県博物館協会	〃
ふるさと発掘	(財)君津郡市文化財センター	19991117
いにしえびと祈りの顔	千葉県立房総風土記の丘	〃
考古学と自然科学第21号	近藤敏	19991124
考古学と自然科学第22号	同上	〃
考古学と自然科学第23号	同上	〃
考古学と自然科学第24号	同上	〃
考古学と自然科学第25号	同上	〃
考古学と自然科学第26号	同上	〃
考古学と自然科学第27号	同上	〃
考古学と自然科学第28号	同上	〃
考古学と自然科学第29号	同上	〃
考古学と自然科学第31・32号	同上	〃
考古学と自然科学第33号	同上	〃
考古学と自然科学第34号	同上	〃
考古学と自然科学第35号	同上	〃
第12回遺跡発掘調査報告会発表要旨	同上	〃
諏訪神社裏遺跡大戸貝塚調査概報	同上	〃
武蔵野文化協会考古学部会調査・研究発表会V	同上	〃
シンポジウム縄文時代・中期後半の諸問題問題提起・地域別報告発表要旨	同上	〃
東京都・遺跡調査研究発表会IX発表要旨	同上	〃
考古学と自然科学第30号	同上	〃
柳田国男と歴史学	同上	〃
条里遺構調査報告書	(財)千葉県文化財センター	〃
大塚古墳群ほか	滋賀県教育委員会事務局文化財保護課	〃
後川遺跡	同上	〃
堀部遺跡堀部西・丸岡塚遺跡南小足遺跡北郷里小遺跡岩町塚遺跡	同上	〃
尼子南遺跡1	同上	〃
建部北町古墳群浄土寺遺跡	同上	〃
野田代遺跡・森西城遺跡・野田道遺跡	同上	〃
御所内遺跡・上出B遺跡	同上	〃
慈恩寺遺跡ほか	同上	〃
野田道遺跡	同上	〃
越前塚遺跡・大塚遺跡	同上	〃
浄土寺遺跡・野田代遺跡・風呂流遺跡	同上	〃
普光寺廃寺・屋中寺廃寺	同上	〃
烏丸崎遺跡発掘調査報告書	同上	〃
三堂遺跡	同上	〃
芦浦遺跡(本文編)(写真図版編)(実測図版編)	同上	〃
国立歴史民俗博物館研究年報7(1998年度)	国立歴史民俗博物館	〃
長岡京跡右京第638次・神足遺跡発掘調査報告	(財)長岡京市埋蔵文化財センター	〃
小宮町遺跡第3次発掘調査報告書	八王子市教育委員会	19991129
東京都八王子市下寺田西遺跡	同上	〃
栃木をひらく－平成の発掘から－開発と埋蔵文化財	(財)栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター	〃
聖山横穴墓群発掘調査報告書	玉川大学教育博物館	〃
竹篋第2号	近藤敏	〃
列島に拡がる大窯製品	(財)瀬戸市埋蔵文化財センター	〃
観音寺山遺跡発掘調査報告書	同志社大学歴史資料館	〃

書名	寄贈者	受入日
同志社大学歴史資料館報第2号 (1998年度)	同志社大学歴史資料館	19991129
古屋敷遺跡	(財)香取郡市文化財センター	19991130
浅間1号墳の調査植房宮作遺跡の調査	同上	〃
杉内遺跡	同上	〃
後田遺跡	同上	〃
伊地山遺跡	同上	〃
事業報告VIII-平成9年度-	同上	〃
東京都板橋区小茂根小山遺跡第2地点	板橋区小茂根小山遺跡第2地点調査会	19991201
上大久保新田遺跡発掘調査報告書 (第3次)	浦和市遺跡調査会	〃
道場寺院跡・大久保領家遺跡 (第6次) 発掘調査報告書	同上	〃
下大久保新田遺跡発掘調査報告書 (第4次)	同上	〃
水深遺跡発掘調査報告書 (第4次)	同上	〃
北宿南遺跡発掘調査報告書 (第2次)	同上	〃
水深北遺跡発掘調査報告書 (第4次)	同上	〃
大谷口向原遺跡発掘調査報告書	同上	〃
東裏西遺跡発掘調査報告書	同上	〃
駒形北遺跡発掘調査報告書 (第2次)	同上	〃
明花東遺跡発掘調査報告書 (第2次)	同上	〃
別所遺跡発掘調査報告書 (第5次)	同上	〃
前窪遺跡発掘調査報告書 (第4次)	同上	〃
下大久保新田遺跡発掘調査報告書 (第3次)	同上	〃
芝原遺跡発掘調査報告書 (第5次)	同上	〃
太田窪南遺跡発掘調査報告書 (第2次)	同上	〃
研究連絡誌第55号	(財)千葉県文化財センター	19991206
多摩ニュータウン遺跡	(財)東京都生涯学習文化財団東京都埋蔵文化財センター	〃
茂原市の貝塚	茂原市立美術館・郷土資料館	〃
武蔵大学人文学会雑誌第三十一巻第一号	武蔵大学人文学会	〃
川南・西遺跡	高松市教育委員会	〃
キモンドー遺跡	同上	〃
筑城城跡	同上	〃
道面遺跡・塚地古墳	岡山県古代吉備文化財センター	19991209
埋蔵文化財調査報告14平成10年度 (1998年度)	練馬区教育委員会	〃
福泉遺跡所在やぐら群	(財)かながわ考古学財団	〃
長勝寺跡所在やぐら群	同上	〃
極楽寺やぐら群	同上	〃
一升榊遺跡所在やぐら群	同上	〃
鎌倉城跡所在やぐら群	同上	〃
稔台遺跡	松戸市遺跡調査会	19991210
鹿児島県桜島町武貝塚発掘調査研究報告書	奈良大学文学部考古学研究室	〃
高岩 (1) 遺跡・高岩 (2) 遺跡・白蛇 (1) 遺跡・鳥河岸遺跡発掘調査報告書	青森県教育委員会	19991213
青森県遺跡詳細分布調査報告書XI	同上	〃
十三湊遺跡IV	同上	〃
午肥原遺跡・大原遺跡	津南町教育委員会	〃
卯ノ木遺跡第2次調査報告書	同上	〃
津南町遺跡発掘調査概要報告書平成11年度	同上	〃
遺跡・遺物から何を讀みとるか (II)	帝京大学山梨文化財研究所	〃
駿台史学第25号	近藤敏	〃
駿台史学第36号	同上	〃
駿台史学第54号	同上	〃
駿台史学第63号	同上	〃
千葉県文化財発掘調査抄報-平成9年度-	千葉県教育庁生涯学習部文化課	19991224
発掘速報展大阪2000	大阪府立弥生文化博物館	〃
八之塚古墳群	滋賀県教育委員会事務局文化財保護課	〃
高田字天神前146-6地先野馬除土手 (第2地点)	柏市遺跡調査会	〃
奈良国立文化財研究所年報1999-I・II・III	奈良国立文化財研究所	〃
九州歴史資料館年報 (平成10年度)	九州歴史資料館	〃

書名	寄贈者	受入日
九州歴史資料館研究論集24	九州歴史資料館	19991224
横須賀市博物館報第45号	横須賀市自然・人文博物館	〃
横須賀市博物館研究報告（人物科学）第43号	同上	〃
横須賀市博物館資料集第24号	同上	〃
考古資料図録XIV	同上	〃
松戸市立博物館年報第6号	松戸市立博物館	〃
下滝遺跡群2	(財)浜松市文化協会	〃
半田山古墳群1999	同上	〃
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団年報18	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	〃
研究紀要17	同上	〃
小八木志志貝戸遺跡群1	同上	〃
安養寺森西遺跡・大館馬場遺跡・阿久津宮内遺跡（本文編）（遺物観察表・写真図版編）	同上	〃
怡土城とその時代	前原市教育委員会	19991227
栃木県立なす風土記の丘資料館第7号（平成10年度版）	栃木県立なす風土記の丘資料館	〃
堂地谷やぐら群	(財)かながわ考古学財団	〃
新宮台横穴墓	同上	〃
松輪坪井横穴墓群	同上	〃
年報6	同上	〃
姥久保遺跡	日野新町一丁目住宅遺跡調査会	〃
防己尾城跡岩本第2遺跡	(財)鳥取市教育福祉協議会	〃
駿台史学第108号	近藤敏	〃
播磨産銅史の研究	妙見山麓遺跡調査会	20000106
御所内遺跡上出A遺跡	滋賀県教育委員会事務局文化財保護課	〃
千葉県の歴史資料編近世2（安房）	千葉県文書館	20000107
千葉県の歴史別編民俗1（総論）	同上	〃
上出A遺跡	滋賀県教育委員会事務局文化財保護課	20000111
三好ヶ丘地内埋蔵文化財発掘調査報告書	三好町教育委員会	〃
大古里遺跡、井沼方遺跡発掘調査報告書	浦和市教育委員会	〃
浦和市文化財調査報告書第42集	同上	〃
浦和市文化財調査報告書第43集	同上	〃
浦和市文化財保護年報7	同上	〃
指定文化財総目録	同上	〃
南多摩窯跡群	八王子市南部地区遺跡調査会	〃
太田・黒田遺跡第43次発掘調査概報	和歌山市教育委員会	〃
山口遺跡第6次発掘調査概報	同上	〃
稲荷塚古墳（試掘調査）	(財)福島市振興公社文化財調査室	〃
暮坪湯ノ上遺跡	同上	〃
浜井馬場遺跡	同上	〃
摺上川ダム埋蔵文化財発掘調査概要V	同上	〃
川添遺跡・鎌田城跡西部遺跡	同上	〃
勝口前畑遺跡4（第1分冊）（第2分冊）（第3分冊）（付図）	同上	〃
一本松遺跡・菅原遺跡・高畑遺跡・古屋敷東遺跡（試掘調査）	同上	〃
鎌田館跡	同上	〃
宮畑遺跡（岡島）	同上	〃
勝口前畑遺跡	同上	〃
西根下堰跡	同上	〃
山ノ下遺跡2	同上	〃
権ノ守遺跡・丸子条里遺構	同上	〃
獅子内遺跡・西ノ前遺跡・西ノ向B遺跡・西ノ向C遺跡・入トンキヤラ遺跡・上川向遺跡	同上	〃
麦地石遺跡2	同上	〃
勝口前畑遺跡7	同上	〃
勝口前畑遺跡8	同上	〃
摺上川ダム埋蔵文化財発掘調査概要VI	同上	〃
大平・後関遺跡2	同上	〃
中谷地B遺跡・台畑遺跡（試掘調査）	同上	〃

書名	寄贈者	受入日
上ノ平遺跡・上ノ平古墳群	(財)福島市振興公社文化財調査室	20000111
菅原遺跡(試掘調査)・高畑遺跡(本調査・試掘調査)	同上	//
浜井場遺跡2	同上	//
台畑遺跡2	同上	//
山ノ下遺跡3	同上	//
宮畑遺跡2(岡島)	同上	//
下ノ平E遺跡・西ノ前遺跡	同上	//
岸窯跡	同上	//
宮代館跡	同上	//
勝口前畑遺跡9	同上	//
城裏口遺跡	同上	//
西B・C遺跡	同上	//
菅原遺跡	同上	//
八幡塚古墳	同上	//
浜井場遺跡3	同上	//
摺上川ダム埋蔵文化財発掘調査概要VII	同上	//
富塚前遺跡・音坊A遺跡・権ノ守遺跡・五十辺遺跡	同上	//
山ノ下遺跡4	同上	//
月崎A遺跡	同上	//
権ノ守遺跡	同上	//
岡ノ内遺跡・東土入遺跡	同上	//
原B遺跡・二ツ石遺跡・山ノ下遺跡・番匠内遺跡・東土入遺跡・古館跡	同上	//
西ノ前遺跡7	同上	//
番匠内遺跡	同上	//
西原廃寺跡	同上	//
摺上川ダム工事事務所	同上	//
上岡遺跡・増田条里制遺構(試掘調査)	同上	//
埼玉県立埋蔵文化財センター年報9	埼玉県立埋蔵文化財センター	20000114
中里貝塚-発掘調査情報-	近藤敏	20000117
東日本における黎明期の弥生土器	同上	//
東日本における中期後半の弥生土器	同上	//
～特別展～貝塚と縄文人の暮らし	同上	//
北区飛鳥山博物館常設展示案内	同上	//
駿台史学第105号	同上	//
駿台史学第106号	同上	//
駿台史学第107号	同上	//
八木連西久保遺跡・行沢大竹遺跡・行沢竹松遺跡・諸戸スサキ遺跡	山武考古学研究所	//
高田城址	同上	//
北山遺跡発掘調査報告書	同上	//
横手湯田II遺跡・西田II遺跡発掘調査報告書	同上	//
西田III遺跡発掘調査報告書	同上	//
横手湯田III遺跡・徳丸仲田II遺跡・西善尺司II遺跡・下増田越渡III遺跡	同上	//
徳丸高堰II遺跡・徳丸仲田III遺跡・西善尺司III遺跡・下増田常木II遺跡・下増田越渡IV遺跡	同上	//
総社観音沢遺跡	同上	//
鶴光路練引遺跡	同上	//
奴郷2遺跡発掘調査報告書	同上	//
寺尾館台・左近屋敷遺跡	同上	//
干俣前田I遺跡・干俣前田II遺跡	同上	//
五分一上野原遺跡	同上	//
F31森附I遺跡B地点	同上	//
恋越遺跡	同上	//
観音寺原I・II遺跡発掘調査報告書	同上	//
三ノ倉落合遺跡発掘調査報告書	同上	//
京塚遺跡	同上	//

書名	寄贈者	受入日
寄居B遺跡	山武考古学研究所	20000117
内野B遺跡	同上	〃
浜ノ原遺跡	同上	〃
上人塚遺跡	同上	〃
城の内遺跡	同上	〃
中峯古墳	同上	〃
熊野遺跡	同上	〃
米の台遺跡	同上	〃
金屋南遺跡発掘調査報告I	同上	〃
水橋荒町遺跡発掘調査概要II	同上	〃
有鼻遺跡(1)(本文編)(図版編)(付図)	兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所	20000118
平成10年度年報	同上	〃
平成11年度千葉県遺跡調査研究発表会発表要旨	千葉県文化財法人連絡協議会	20000124
君津郡市文化財センター年報No17	勸君津郡市文化財センター	20000125
金井崎遺跡発掘調査報告書	同上	〃
金井崎遺跡発掘調査報告書	同上	〃
山谷遺跡	同上	〃
西久保下遺跡	同上	〃
赤坂台遺跡	同上	〃
京都府埋蔵文化財情報第74号	勸京都府埋蔵文化財調査研究センター	〃
東山古墳群I	京都府立大学文学部考古学研究室	〃
環8光明寺地区遺跡調査報告書I・II	環8光明寺地区遺跡調査会	〃
研究紀要第7号	栃木県教育委員会	〃
栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター年報第9号	同上	〃
多功南原遺跡	同上	〃
寺野東遺跡II(縄文時代土坑編-1)(縄文時代土坑編-2写真図版)	同上	〃
伊勢崎II遺跡(古墳・奈良・平安時代編)	同上	〃
東谷・中島地区遺跡群No.1磯岡遺跡(II区)	同上	〃
一本松遺跡・文殊山遺跡	同上	〃
上三王遺跡	同上	〃
北区西ヶ原貝塚	近藤敏	〃
文化財研究紀要第11集	同上	〃
海のまつり	千葉県立安房博物館	20000131
近代の織物	浜松市博物館	〃
浜松市博物館報第12号	同上	〃
明治大学博物館年報1998年度	明治大学博物館	〃
謎の古代豪族紀氏	勸和歌山県文化財センター	〃
静岡の原像をさぐる発掘調査報告会	勸静岡県埋蔵文化財調査研究所	〃
池ヶ谷遺跡I(遺構編)	同上	〃
池ヶ谷遺跡III(遺物編)	同上	〃
上土遺跡(立石地区)I(遺構編)	同上	〃
上土遺跡(立石地区)II(遺物編)	同上	〃
特別展「機内王権と古代の東国-野毛大塚古墳の時代-」	世田谷区立郷土資料館	〃
長岡京跡右京第641次・開田遺跡発掘調査報告	勸長岡京市埋蔵文化財センター	20000215
山田新田II遺跡	勸山武郡市文化財センター	〃
大台西藤ヶ作遺跡	同上	〃
庚申遺跡(1076地点)	同上	〃
松尾城跡II	同上	〃
鷺山入遺跡	同上	〃
上滝ノ下遺跡	同上	〃
宮郷台遺跡(地蔵873-1地点)	同上	〃
古宿遺跡	同上	〃
松尾藩公庁跡	同上	〃
中台大木戸遺跡893-5地点	同上	〃
田越台遺跡	同上	〃
みずほ第31号	小橋健司	20000216
加地区遺跡群IV	流山市教育委員会	〃

書名	寄贈者	受入日
桜井市高家一ツ橋古墳発掘調査報告書	(財)桜井市文化財協会・桜井市立埋蔵文化財センター	20000216
桜井市埋蔵文化財・1995年度・発掘調査報告書1	同上	//
京都府遺跡調査報告書第26冊	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	//
京都府遺跡調査報告書第27冊	同上	//
第17回小さな展覧会	同上	//
万徳院跡の研究	広島県教育委員会	//
粕上原遺跡発掘調査報告書	粕上原土地区画整理事業区域内遺跡埋蔵文化財発掘調査団	//
宿根南遺跡発掘調査報告書	宿根南遺跡発掘調査団	//
武蔵大学人文学会雑誌第三十一巻第二号	武蔵大学人文学会	20000301
上高津貝塚ふるさと歴史の広場年報第5号	上高津貝塚ふるさと歴史の広場	//
日野市栄町遺跡	(財)東京都生涯学習文化財団東京都埋蔵文化財センター	//
第3回学術シンポジウム文化財の保存と修復：何をどう残すか	小川浩一	20000302

附編 1. 市原市十五沢坊ヶ谷遺跡D地区における砂層の粒度分析

上 本 進 二・上 杉 陽

市原市十五沢坊ヶ谷遺跡D地区には、現地表面下約2mに木片や葉を大量に含む砂層があり、堆積状況や構成物質から砂丘砂か海成砂か河床堆積物かを判断することができなかった。そこで、下記の方法によって粒度分析をおこなった。

本遺跡では、トレンチ下部の東西の壁からそれぞれ1試料ずつ採集して、粒度分析をおこなった。

粒度分析は堆積物を構成する砂粒の粒径（ ϕ :ファイ値で表わす）の分布を重量で計測し、砂粒の特性を調べて砂の堆積環境を推定する分析法である。

粒度分析の方法はFork・Ward(1957)と上杉(1971)の方法に基づいて下記の①～⑥の手順で行った。

① 200g程度の砂の試料を4mm(-2 ϕ)・2.828mm(-1.5 ϕ)・2mm(-1 ϕ)・1.414mm(-0.5 ϕ)・1mm(0 ϕ)・0.7071mm(0.5 ϕ)・0.5mm(1 ϕ)・0.3536mm(1.5 ϕ)・0.125mm(2 ϕ)・0.1768mm(2.5 ϕ)・0.125mm(3 ϕ)・0.0884mm(3.5 ϕ)・0.0625mm(4 ϕ)の1/2 ϕ 間隔で13段階のふるいにかけて、各ふるいに留った砂の重量を計測する(表1)。

表1 市原市十五沢坊ヶ谷遺跡D地点

サンプル	総重量	-2.0 ϕ	-1.5 ϕ	-1.0 ϕ	-0.5 ϕ	0 ϕ	0.5 ϕ	1.0 ϕ
東壁砂層	184.7	0.2	7.9	12.9	11.5	14.2	0.4	7.0
西壁砂層	284.0	0.1	1.9	2.2	3.1	6.1	0.6	4.7
			1.5 ϕ	2.0 ϕ	2.5 ϕ	3.0 ϕ	3.5 ϕ	4.0 ϕ
			23.7	71.3	27.4	6.2	1.5	0.5
			62.4	172.2	18.4	8.3	2.8	1.2
累積加算								
サンプル		-2.0 ϕ	-1.5 ϕ	-1.0 ϕ	-0.5 ϕ	0 ϕ	0.5 ϕ	1.0 ϕ
東壁砂層		0.2	8.1	21.0	32.5	46.7	47.1	54.1
西壁砂層		0.1	2.0	4.2	7.3	13.4	14.0	18.7
			1.5 ϕ	2.0 ϕ	2.5 ϕ	3.0 ϕ	3.5 ϕ	4.0 ϕ
			77.8	149.1	176.5	182.7	184.2	184.7
			81.1	253.3	271.7	280.0	282.8	284.0
比率								
サンプル		-2.0 ϕ	-1.5 ϕ	-1.0 ϕ	-0.5 ϕ	0 ϕ	0.5 ϕ	1.0 ϕ
東壁砂層		0.1%	4.4%	11.4%	17.6%	25.3%	25.5%	29.3%
西壁砂層		0.0%	0.7%	1.5%	2.6%	4.7%	4.9%	6.6%
			1.5 ϕ	2.0 ϕ	2.5 ϕ	3.0 ϕ	3.5 ϕ	4.0 ϕ
			42.1%	80.7%	95.6%	98.9%	99.7%	100.0%
			28.6%	89.2%	95.7%	98.6%	99.6%	100.0%

- ② 各ふるいごとの計測数値を粒径の大きい方から累積加算し、その結果を百分率で表わして累積曲線を表示する（累積曲線：図1）。
- ③ 累積曲線から、5%・16%・50%・84%・95%に相当する粒径の ϕ 値を読み取り、それぞれの数値を $\phi 5 \cdot \phi 16 \cdot \phi 50 \cdot \phi 84 \cdot \phi 95$ とする。
- ④ 平均粒径（MZ）を $(\phi 16 + \phi 50 + \phi 84) / 3$ で求める。
- ⑤ 分級度($\sigma 1$)を $(\phi 84 - \phi 16) / 4 + (\phi 95 - \phi 5) / 6.6$ で求める。
- ⑥ 歪度(S_k)を $(\phi 84 + \phi 16 - 2\phi 50) / 2(\phi 84 - \phi 16) + (\phi 95 + \phi 5 - 2\phi 50) / 2(\phi 95 - \phi 5)$ で求める。

平均粒径（表2）

平均粒径は砂層の平均的な砂の粒径を示している。浅海底・前浜など海水の影響下で堆積した砂層（海成砂層）の平均粒径は、層によってばらつきが大きいものに対して、風成砂より成る砂丘砂の平均粒径が極めて均一であることが知られている（上杉，1972）。成瀬ほか（1992）が日本列島各地の砂丘で238試料を分析した結果では、砂丘砂の平均粒径は 0.65ϕ （0.64mm）～ 2.4ϕ （0.19mm）の範囲におさまる。平均粒径が粗い層は分級度も悪くなる。

本遺跡の場合は、全試料の平均粒径がこの範囲内に入っているため、砂丘起源の砂層の可能性を示している。

表2

	$\phi 5$	$\phi 16$	$\phi 50$	$\phi 84$	$\phi 95$	平均粒径	分級度	歪度
東壁砂層	-1.5	-0.7	1.6	2.2	2.50	1.03	1.33	-0.57
西壁砂層	0.5	1.2	1.65	1.9	2.50	1.58	0.48	-0.22

分級度（表1・2）

分級度は、下記のように堆積物の粒径が揃っている（分級が良い）か不揃いか（分級が悪い）の指標となり、砂の堆積環境を知る手掛かりになる（Fork・Ward1957）。

(ϕ)	0.35	0.5	0.71	1	2	4
非常に良い	良い	やや良い	普通	悪い	非常に悪い	極めて悪い

本遺跡の場合は、東壁砂層は分級度が悪い、西壁砂層は分級度が良いという結果となっている。

歪度（表1）

歪度が正の値であれば砂粒の粒径分布が粗い方に偏っていることを示し、負の値であれば細かい方に偏っていることを示している（地学団体研究会1983）。Friedman（1961）によれば、砂丘砂は大部分が正、海浜砂は負の歪度を示し、両者は明瞭に区別される場合が多いとされている。

本遺跡の場合は、負の値を示しており、海浜砂の可能性を示しているが、木片が多量に含まれている点から他の営力も加わっていると考えられる。

平均粒径と歪度の関係（図2）

上杉（1971）は北米・ヨーロッパでの砂丘研究の成果（Friedman1961）を日本の砂丘の砂を用いて検証し、日本の砂丘砂の特徴を分析する研究をおこなった。その結果、平均粒径と歪度を指標として作成したグラフ（図2）における破線で示した境界線が、風成砂（境界線より上）と海（水）成砂（境界線より下）を分ける境界と考えた（上杉1972）。しかし、歪度が負の領域にある場合は海（水）成砂の可能性が指摘されている（Friedman1961）ので、他の指標と併せて総合的に判定する必要がある。

結論

以上の分析結果から考察すると、試料は平均粒径では砂丘砂、歪度では海浜砂の可能性を指示しており、複合的な環境下で堆積したと思われる。歪度と平均粒径の関係図からも西壁砂層は海浜砂と砂丘砂の境界線上にあること、木片が大量に含まれている点から、海岸付近で時折波をかぶり、流木が打ち上げられるような環境で堆積した砂丘砂であったと考えられる。また、木片が直立して埋没している状況から、津波などの突発的な作用による乱堆積があった可能性も考慮に入れるべきである。

引用文献

上杉 陽1971「ふるいを用いた粒度分析法の吟味－風成・海成の環境区分のために－」『地理学評論44巻12号』p839-857

上杉 陽1972「粒径頻度分布からみた風成砂・海成砂の諸特徴」『第四紀研究11巻-2号』p49-60

成瀬敏郎・福本 紘・中西弘樹1992「日本の海浜にみられる植生帯と地形断面形および堆積物の関係」『地形13巻3号』p203-216

Folk, R.L. & Ward, W. 1957 Brazos river bar; a study in the significance of grain size parameters. J. Sed. Petrol., 27, 3-26.

Friedman, G.M. 1961 Distinction between dune, beach, and river sands from their textural characteristics. J. Sed. Petrol., 31, 514-529.

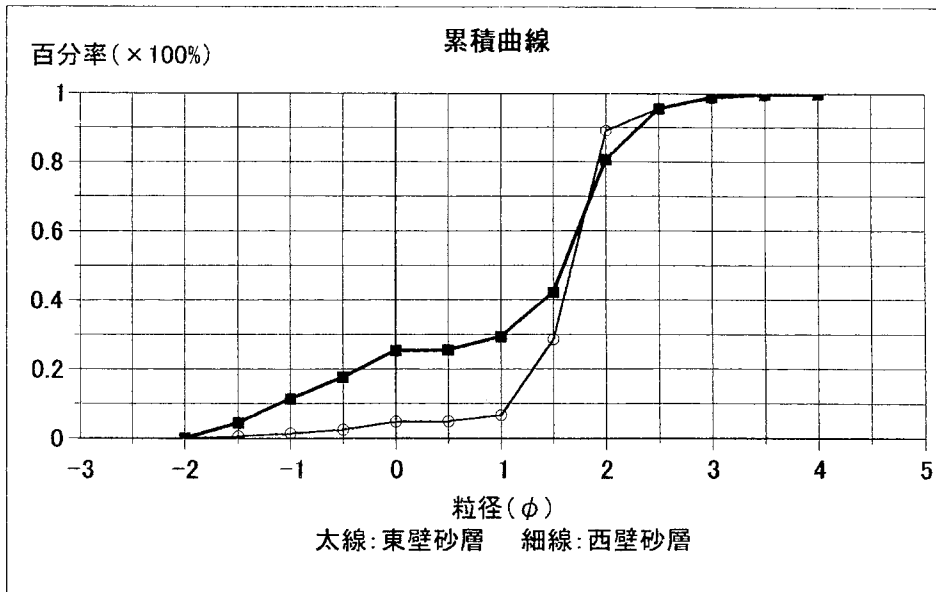


図1 累積曲線

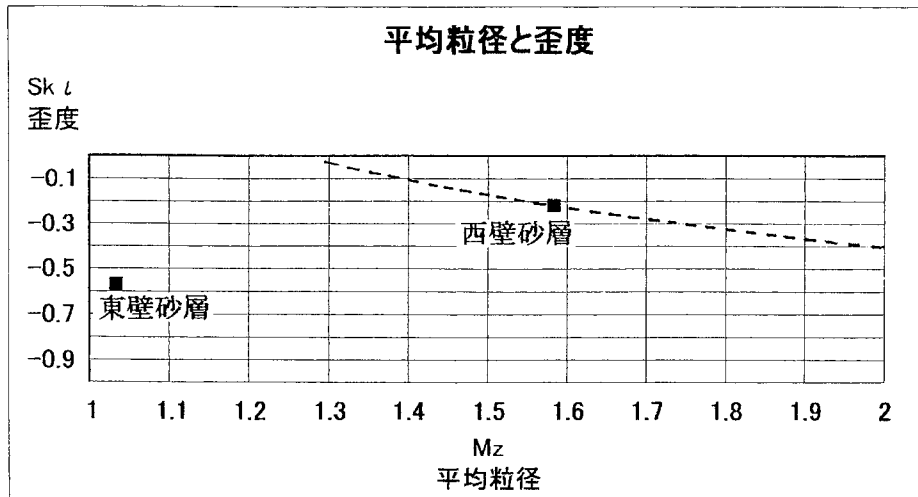


図2 平均粒径と歪度の関係

参考文献

- 上杉 陽 「富士火山東方地域のテフラ標準柱状図—その1：S-25～Y-114—」『関東の四紀16』 1990年12月 関東第四紀研究会
- 上杉 陽・米澤 宏・宮地直道・千葉達朗・肥田木守・細田一仁・米澤まどか・由井将雄 「富士系火山泥流のテフラ層位」『関東の四紀17』 1992年10月 関東第四紀研究会
- 上本進二・上杉 陽 「神奈川県の特フラ層と遺跡層序—考古学のためのY-no.・S-no. 分層マニュアル—」『関東の四紀20』 1996年9月 関東第四紀研究会
- 第四紀露頭集編集委員会編『第四紀露頭集—日本のテフラ』 1996年8月 日本第四紀学会

付編 2. 潤井戸潤ヶ台遺跡調査報告

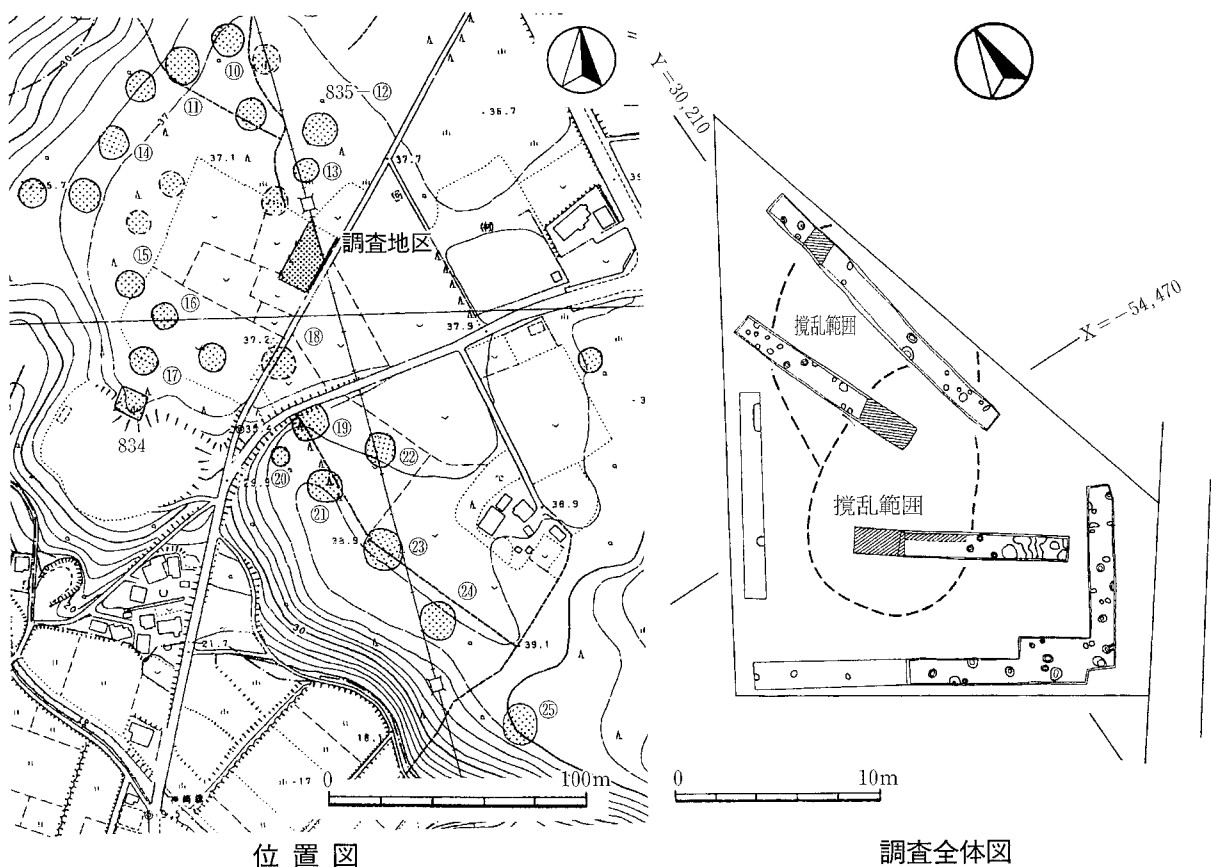
担当 田 中 清 美

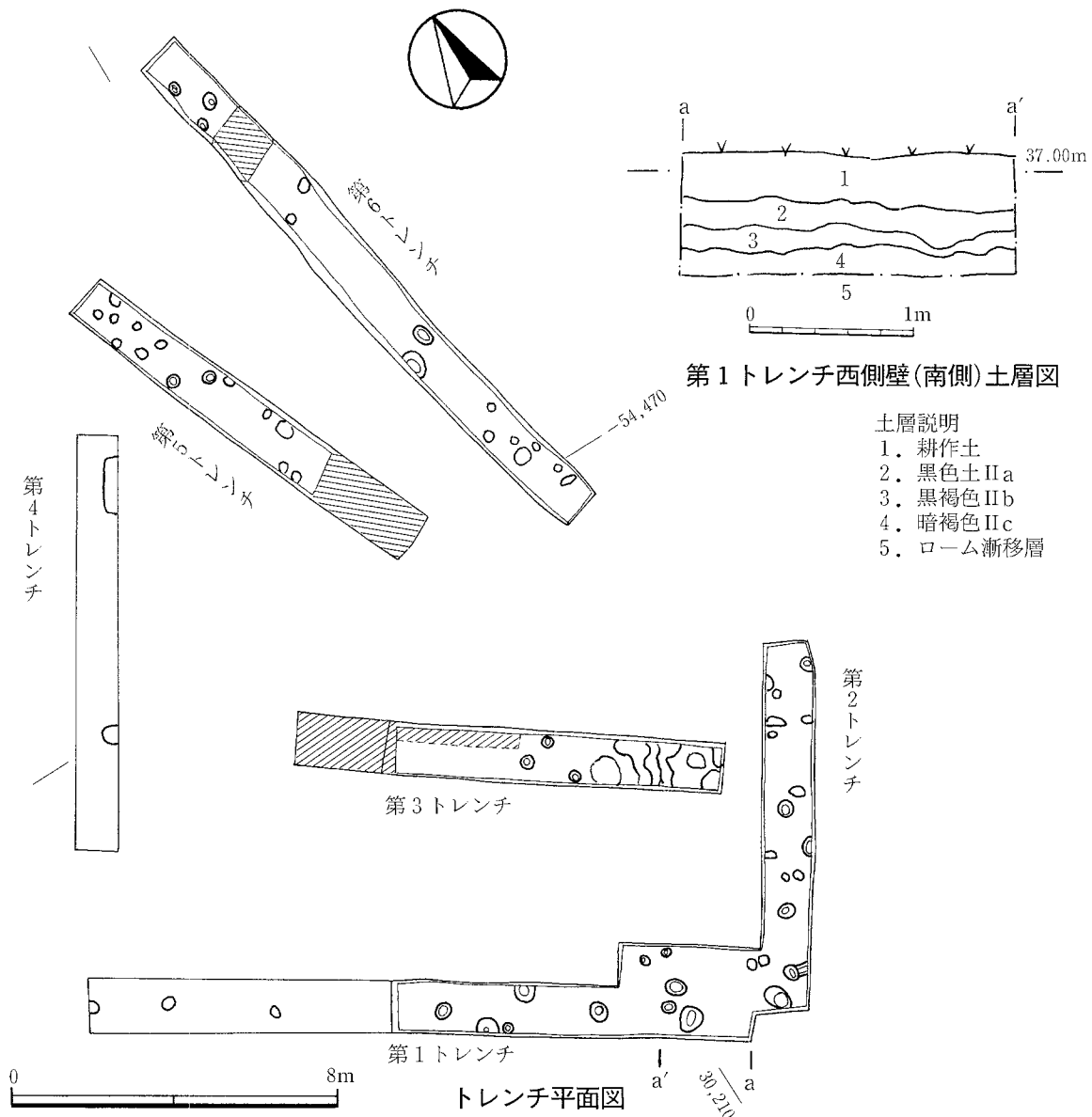
市原市文化財センター年報（平成11年度）掲載の潤井戸潤ヶ台遺跡概要を受けて、当章では本報告として掲載する。なお当遺跡のセンター調査コードは「セ292」である。

遺跡は、村田川中流域左岸台地上に立地し、標高は約37m、低地との比高は約20mを測る。当遺跡の立地する台地は、北側に村田川の沖積地を望み、西側は村田川支流神崎川の小谷が存在し、西北に低地と面する平坦な地形であり、低地に向かう斜面は、北側は河岸段丘上になだらかなのに比べ、西側は急傾斜を示している。今回の調査地区は、その台地の中程で傾斜面からは約70m程入っている平坦面である。調査前は、資材置場で自動車廃材が置かれていた。周囲は山林と畑である。

周辺には、潤井戸天王台古墳群が存在し、前方後円墳1基を含む39基以上で構成されている⁽¹⁾（今回の現地調査などで新たに10基確認した）。また北側隣接台地には潤井戸居鞍古墳群（3基）⁽²⁾も存在し、さらにその小谷に存在する潤井戸天王台遺跡には、弥生末～古墳初頭の竪穴住居（2軒）や木棺墓なども検出されている⁽³⁾。したがって今回の調査地区も遺構の存在が考えられ、特に潤井戸天王台古墳群に含まれる古墳の周溝が検出できると想定された⁽⁴⁾。

調査は、無線基地局建設に伴う事前の確認調査で、所在地は市原市潤井戸字天王台2.270-20地先、調査対象面積は363㎡である。確認のトレンチは、幅1.5mの細長い形で任意に6本設置した（第1～第6トレンチ）。標準土層は上層より、表土、黒色腐蝕土（黒色土、黒褐色土）、暗褐色土、ローム漸移、ソフトロームの順でソフトローム上面まで約80cmを測る。トレンチの掘削は、上層の表土を中心に重





機で実施し、下層は人力で行い、最終的にソフトローム上面でとめた。記録類については、実測は座標軸と海拔水準を基本として、縮尺1/20~1/100で行い、写真は6×7版と35ミリの白黒とカラーズライドを使用した。

調査の結果、調査対象区域の中央部に大きく2つの円形の攪乱穴が存在し、ゴミを焼却して埋めもどしていた。その周囲には、小ピットが多く認められ、トレンチ内に検出したピットは掘り上げている。ピットの覆土の観察や周辺の土層及び出土した遺物小片から古墳時代の所産の例がいくつかみられるが、ピットの形体や各ピットの組み合わせなどを把えても柱穴などとは考えにくい。そのため当項では、トレンチの平面図のみの掲載にとどめている。また、出土した土師器小片も数片で、図化に耐えられないため掲載していない。また、隣接地の畑での表面採集でも同様の小片のみであった。

註 (1) 一部が調査されており、木棺直葬の主体部などを検出している
 鶴岡英一、3、潤井戸古墳群「市原市文化財センター年報平成9年度」1999
 (財)市原市文化財センター
 (2) 近藤敏 6、潤井戸天王台遺跡、「市原市文化財センター年報昭和63年度」1994
 (財)市原市文化財センター
 (3) 木對和紀 「中潤ヶ広遺跡・天王台遺跡」1988 (財)市原市文化財センター
 (4) 近接して13号や18号墳が存在している。

(田中清美)

付編 3. 葉木遺跡調査報告

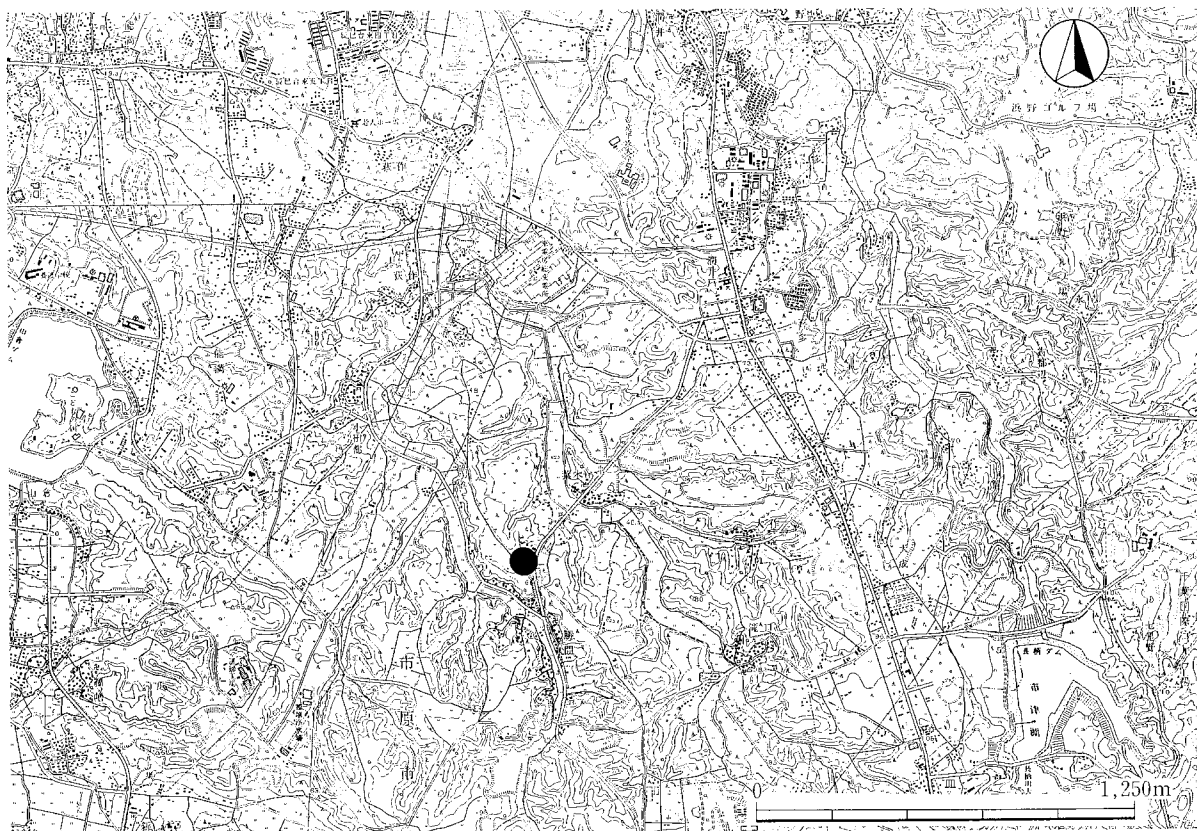
担当 北見一弘

本附編は、本紙『市原市文化財センター年報』平成11年度、調査概要にある「葉木遺跡」の本報告である。なお、調査時のセンター調査コードは「セ315」である。

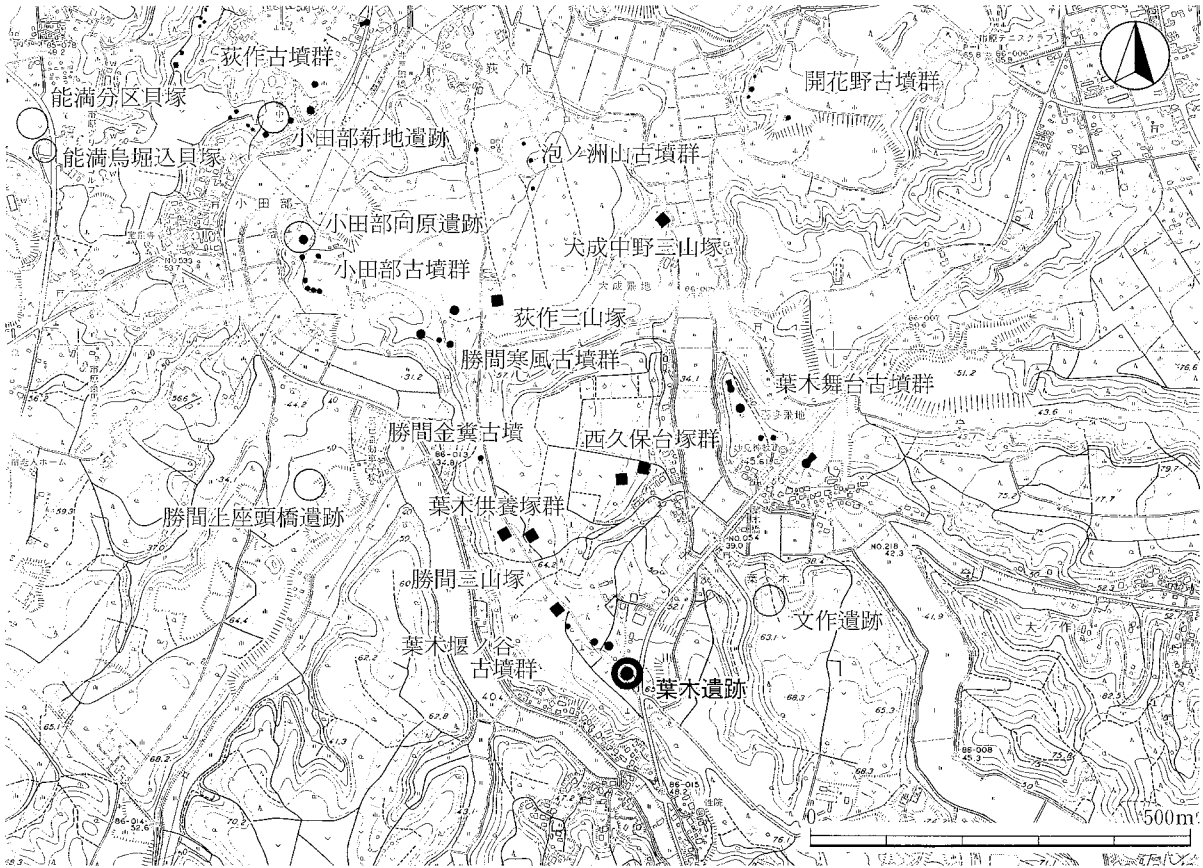
調査の概要 葉木遺跡は市原市北部、村田川の支流である神崎川右岸の標高70mほどの台地上に位置する。同台地は北流する神崎川に沿って、幅200m～300mで南北方向に細長く続き、台地上はほぼ平坦な地形を成す。標高は南側の90mから、北側にかけて徐々に低くなり、北端部では48m程になる。遺跡周辺の地形は、北側から幅50m程の小谷が入り、これにより台地平坦部が南に向かって急速に幅を狭めている。調査区は、小谷最奥部の西側に位置する。調査区北側には葉木堰ノ谷古墳群、勝間金糞古墳、小田部古墳群、勝間三山塚、葉木供養塚群等の遺跡が集中する。大きな谷を挟んで東側台地上には昭和62年に文作遺跡が調査され、古墳時代後期、奈良・平安時代の集落跡が、検出されている。

遺構と遺物 調査の結果、古墳時代前期竪穴住居跡1軒、時期不明土坑2基、溝状遺構1条を検出した。本編調査概要のとおり、遺構の遺存状況は不良であった。

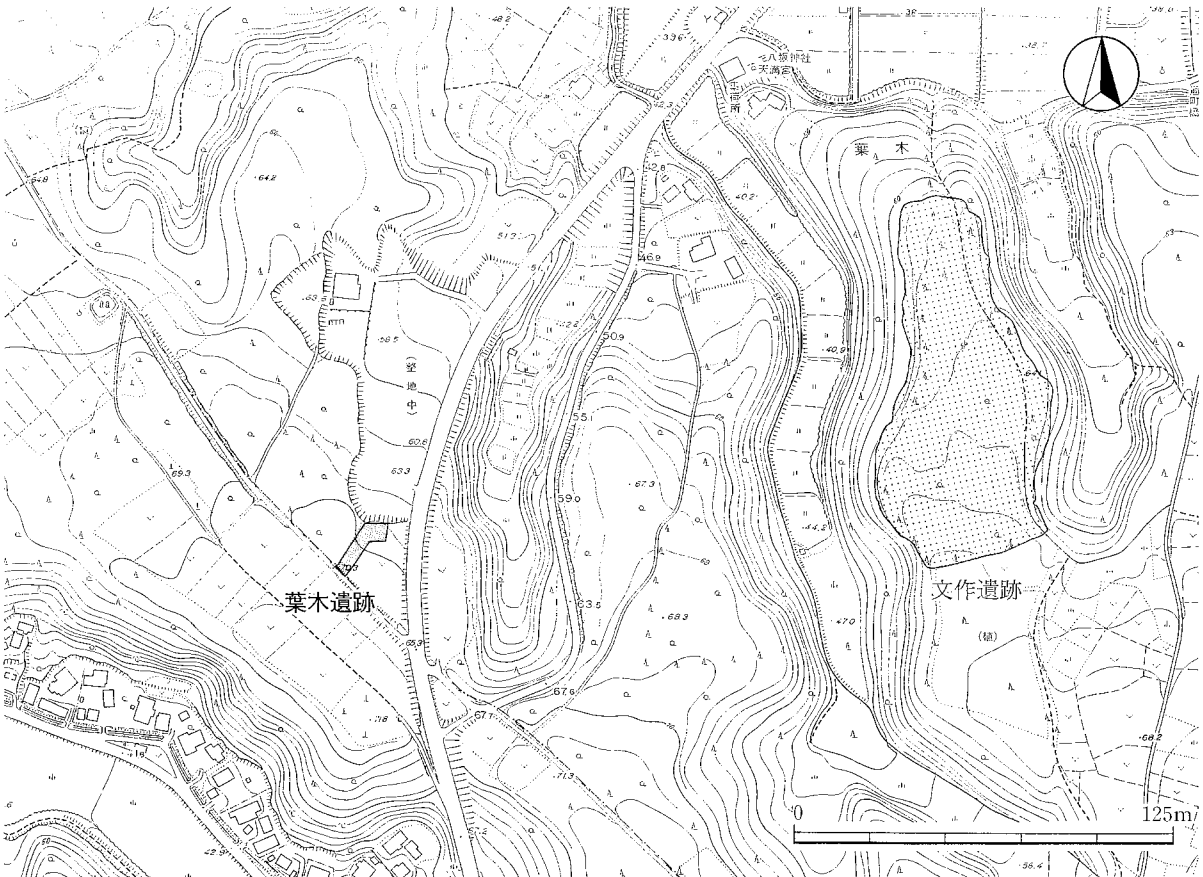
001号遺構 第1トレンチ南側に位置する。攪乱により依存度は極めて悪い。掘り込みが浅く、硬化面は極めて弱い。プランは確認できないが、55cm×45cmを測る不整楕円形の炉あり、周囲に炭化材が、水平に確認できた。遺物もこの範囲にやや集中することから、遺構と見なした。002より新しい。遺物は、1、3～7が出土している。4～7は支脚で一面が垂直に近い三角すい状の4面体で、使用時の背面にあるとみられる面に丸みを帯び、7にはつまみ状のくぼみが2箇所認められる。3個体とみられる。



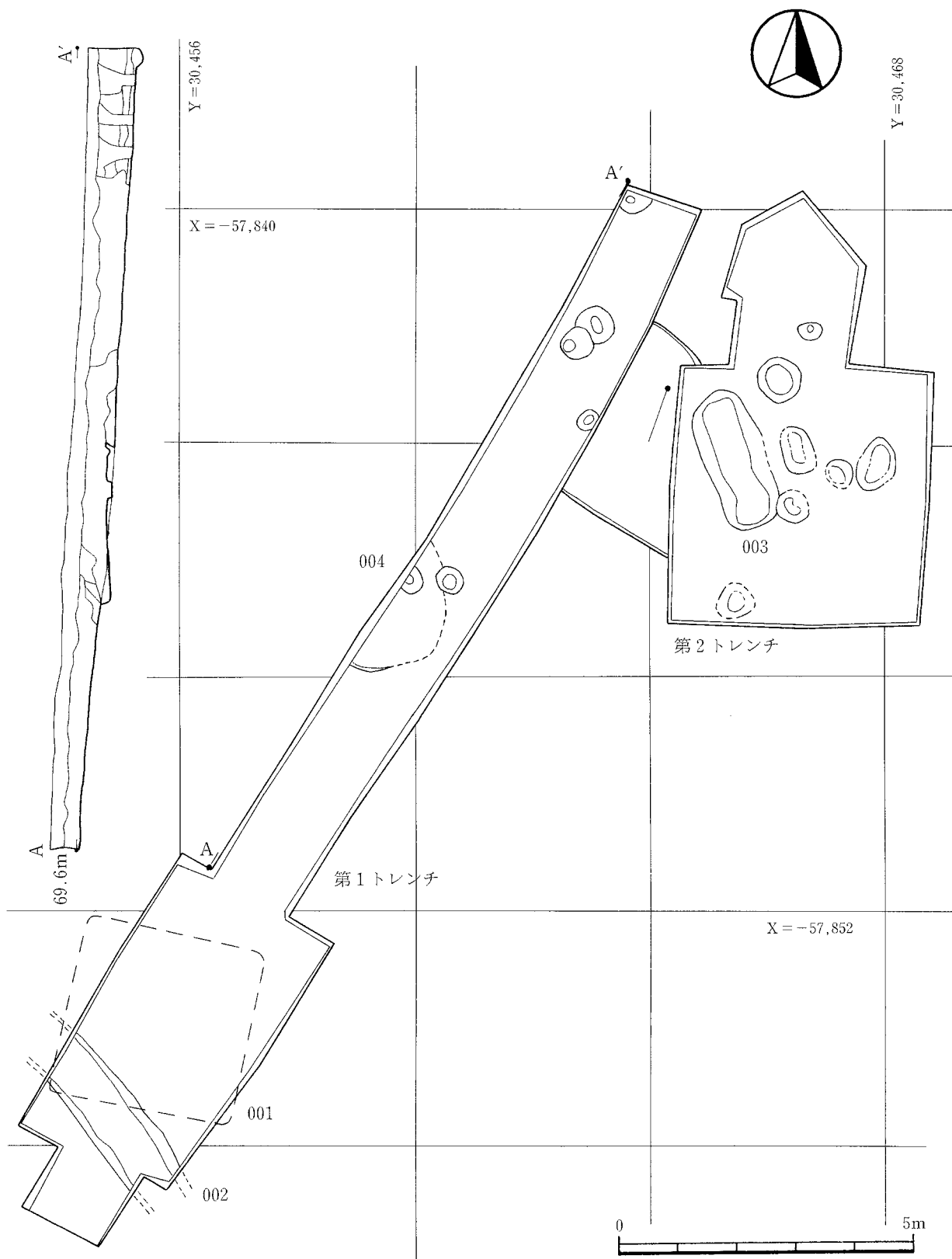
第1図 葉木遺跡位置図



第2図 葉木遺跡周辺地形図



第3図 葉木遺跡周辺地形図



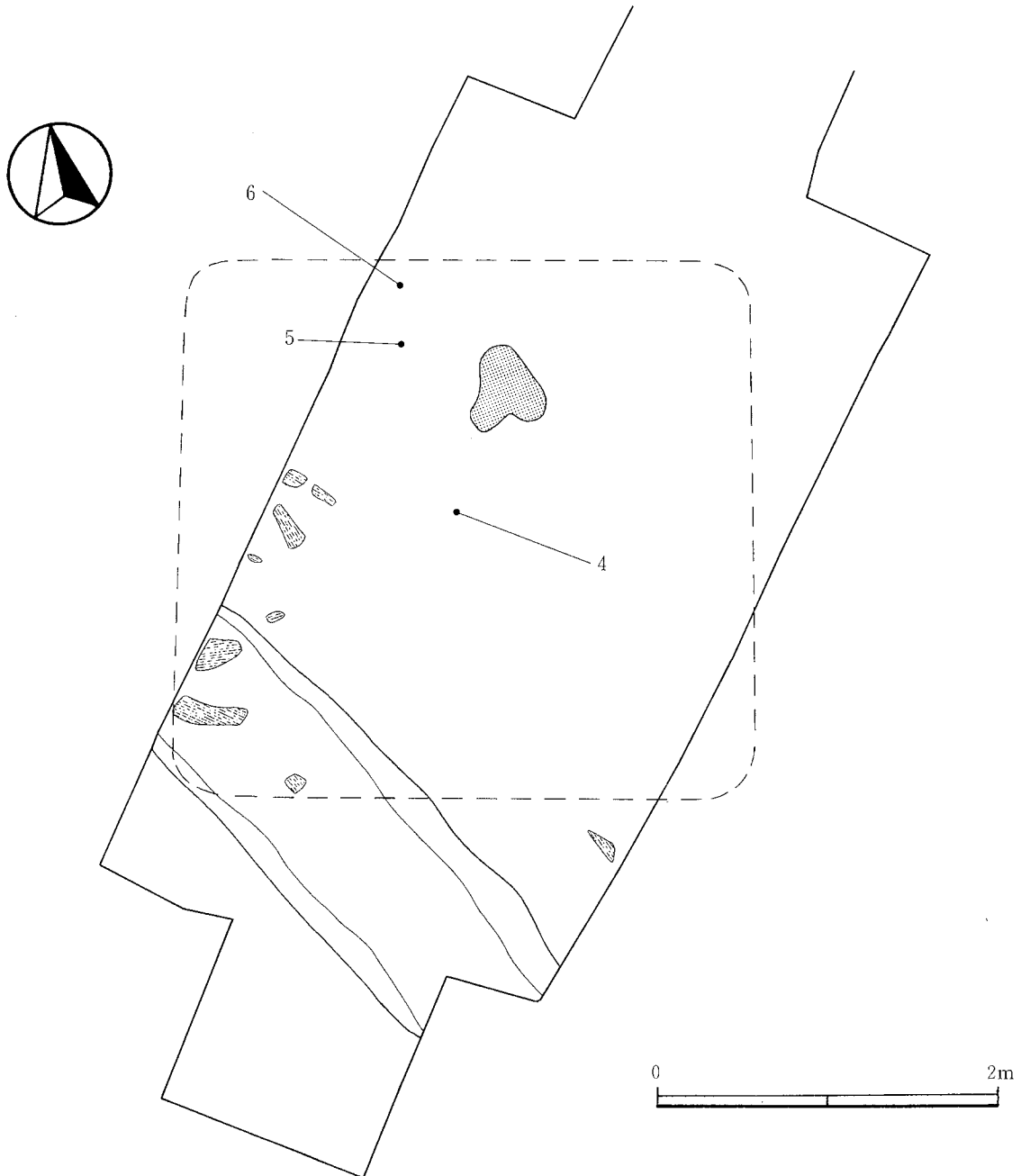
第4図 葉木遺跡調査区全体図

002号遺構 第1トレンチ南側に位置する。幅1.0m、長さ2.90mを測り、調査区外に延びるとみられる。堀込み20センチほどで、断面形はかまぼこ形を呈する。遺物は認められず、時期は不明である。

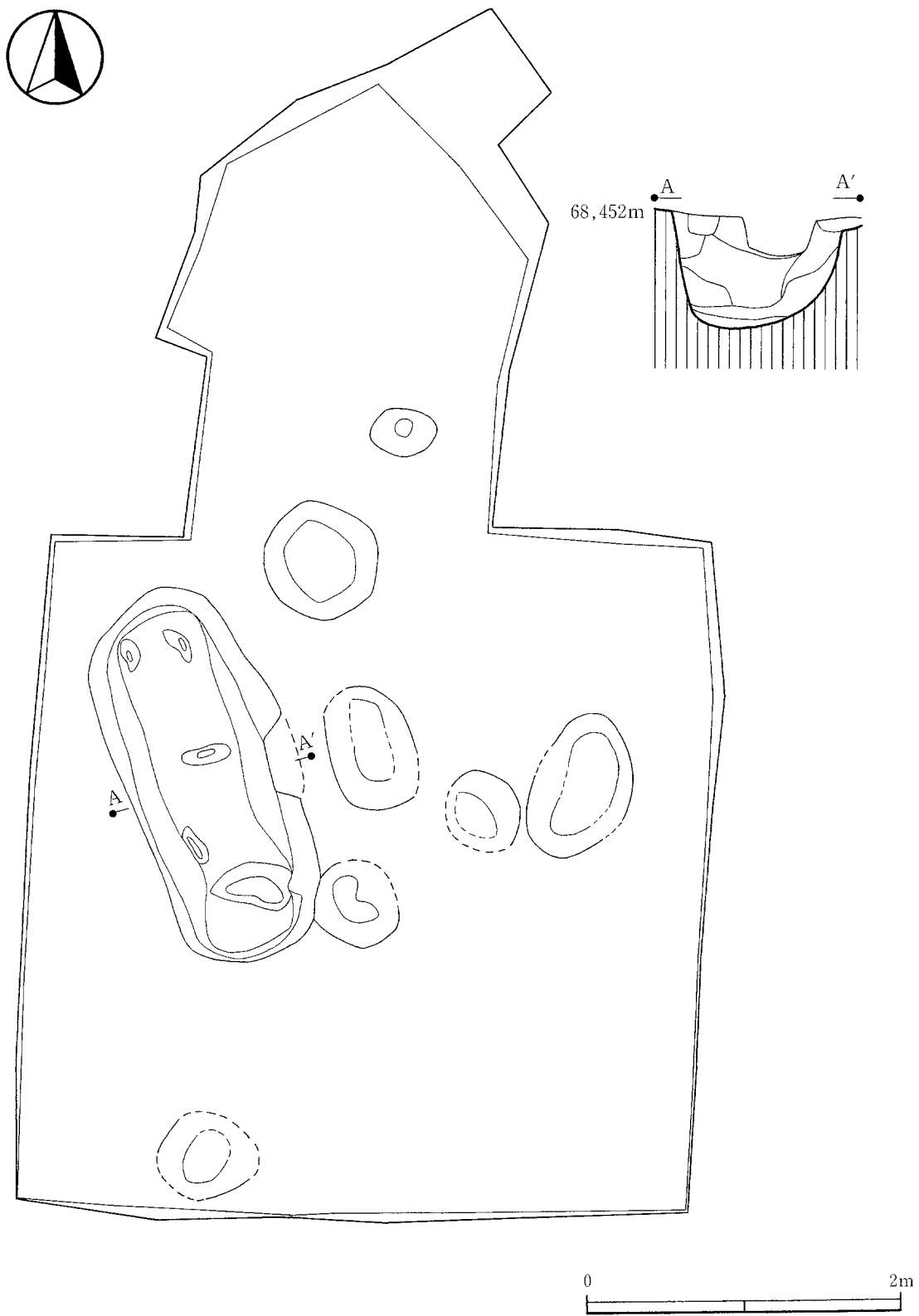
003号遺構 第2トレンチに位置する。平面形は長楕円形を呈し、長軸2.45m×短軸1.15m、深さ0.72mを測る。底面は、なだらかであるが、丸みを帯びる。遺物は皆無である。

004号遺構 第1トレンチ中央に位置する。平面プランは不明瞭であるが、トレンチ断面にわずかな掘り込みが確認できた。遺構の半分は調査区外に位置する。3.0m×2.0mを推定する。覆土は黒褐色土で、わずかにソフトロームを掘り込むレベルに底面があり、硬化面はない。遺物は皆無である。

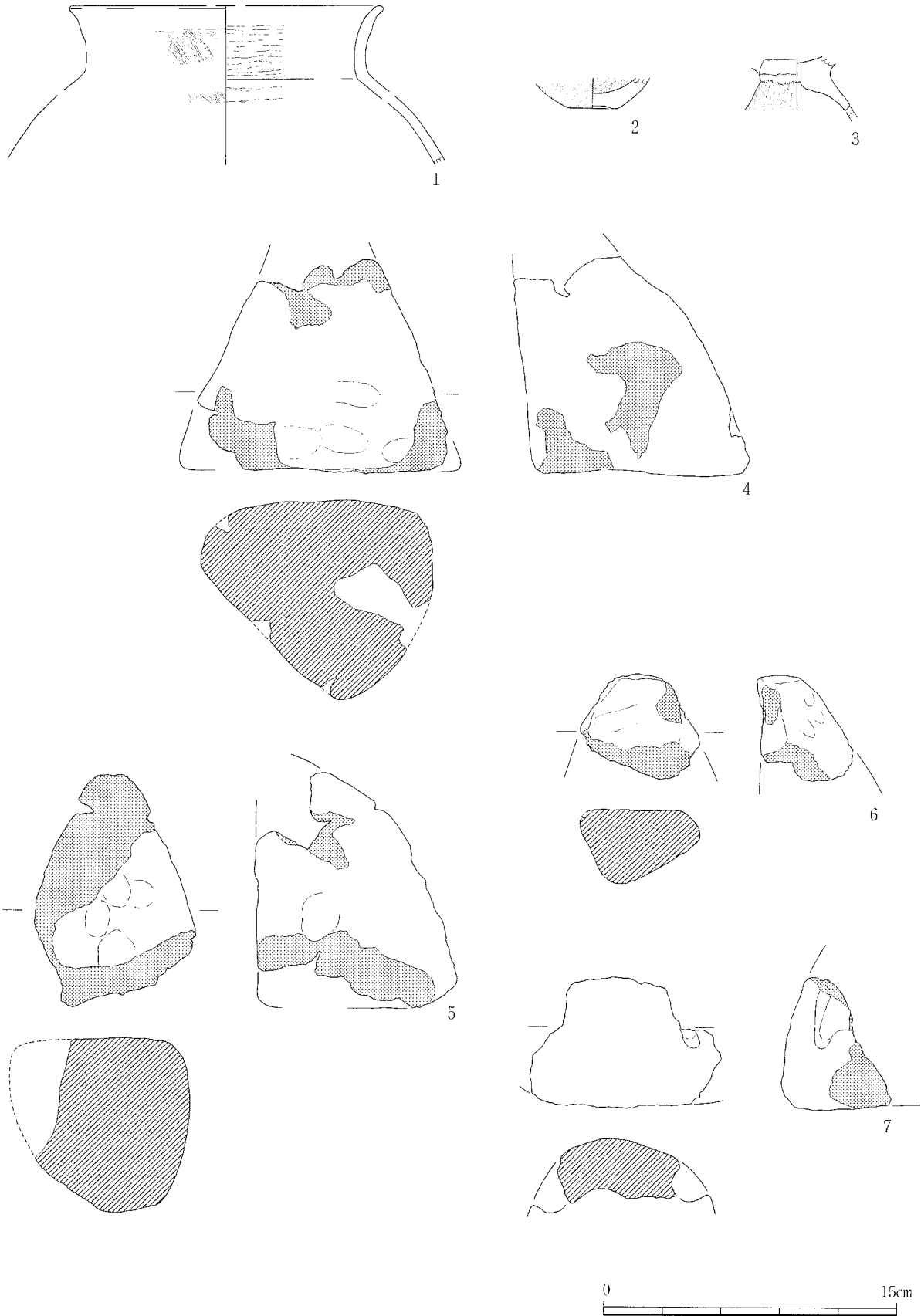
調査の結果、遺存状態が悪いものの、古墳時代前期の遺構が認められた。調査事例の少ない地域であり、周囲に隣接する古墳群との関係もあり、台地上に集落が展開する可能性が認められる。



第5図 001・002号遺構実測図



第6図 第2トレンチ実測図



第7図 葉木遺跡出土遺物実測図



調査地区遠景
(中央テントの付近)
南側より



調査地区遠景
(中央左側テントの付近)
西側より



第3トレンチ (北西側より)



第6トレンチ (北側より)

潤井戸潤ヶ台遺跡



第2トレンチ (北東側より)



第2トレンチ (南西側より)



第1トレンチ (北西側より)



第5トレンチ (北西側より)



第1トレンチ (手前が001)



第2トレンチ



003土



003完掘

葉木遺跡遺構写真



1



2

葉木遺跡出土遺物写真



3



4



4



6



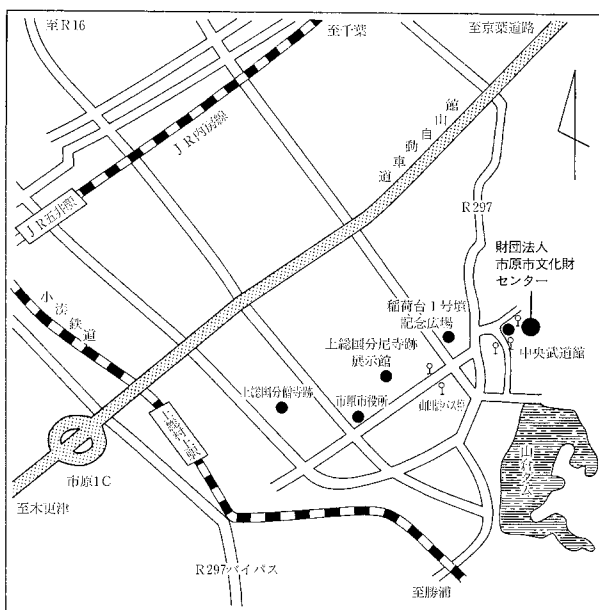
7



5

抄 録

ふりがな	いちはらしぶんかざいせんたーねんぼう へいせいじゅういちねんど							
書名	市原市文化財センター年報 平成11年度							
副書名	付編2. 潤井戸潤ヶ台遺跡調査報告 3. 葉木遺跡調査報告							
巻次								
シリーズ名	市原市文化財センター年報							
シリーズ番	平成11年度							
編著者名	2. 田中 清美 3. 北見 一弘							
編集機関	財団法人市原市文化財センター							
所在地	〒290-0011 千葉県市原市能満1,489番地 TEL0436-41-7300 FAX0436-42-0133							
発行年月日	2002年3月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		経緯度		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
うるい どうるがだい 潤井戸潤ヶ台遺跡	千葉県市原市潤井戸 戸字天王台2,270-20	12219	セ292	35° 30' 30"	140° 9' 59"	19990506 ～ 19990514	363㎡ のうち 36.3㎡	潤井戸地区無線 基地局建設に 伴う埋蔵文化 財調査
はぎ 葉木遺跡	千葉県市原市葉木 字七塚447番5の一部	12219	セ315	35° 28' 40"	140° 10' 8"	20000119 ～ 20000121	180㎡ のうち 63㎡	第一種電気通 信無線局建設 に伴う埋蔵文 化財調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
潤井戸潤ヶ台遺跡	包蔵地	古墳時代	ピット群	土師器		潤井戸天王台古墳群中の調査区であり、ピット群を検出した。		
葉木遺跡	包蔵地	古墳時代	竪穴式住居跡、土坑、溝状遺構	土師器、支脚		古墳時代前期とみられる竪穴住居跡等を検出した。		



〔交通案内〕

- J R 東日本内房線五井駅下車
五井駅東口より中央武道館行バスあり
終点 文化財センター下車徒歩2分
- J R 東日本内房線八幡宿駅下車
八幡宿駅西口より市原市役所経由国分寺台行
又は千葉県こどもの国行 山田橋下車
徒歩5分 市原中学校入り口に入る
- 館山自動車道市原ICを降り
市原市役所方向へ車で15分

市原市文化財センター年報 (平成11年度)

平成14年3月30日 発行

発行 財団法人 市原市文化財センター
〒290-0011 千葉県市原市能満1,489番地
TEL 0436(41)7300
FAX 0436(42)0133
e-mail ihbc@hkg.odn.ne.jp

印刷 株式会社 弘文社
〒272-0033 千葉県市川市市川南2-7-2
TEL 043(324)5977